

令和4年度

弘前大学地域創生本部年報

令和5年11月

地域創生本部

# 目 次

---

## はじめに（ご挨拶）

弘前大学地域創生本部長・弘前大学長 福田 眞作	1
-------------------------	---

## I. 地域創生本部の体制

1. 地域創生本部について	2
2. 地域創生本部 構成員名簿	3

## II. 地域創生本部の活動

1. 地域創生本部事業	
(1) 青森県における科学的根拠に基づくがん検診推進事業	6
(2) 包括連携協定を締結している青森県内自治体と連携した 地元産品による PR プロジェクト	8
(3) ひろだい学生めしレシピコンテスト	10
(4) 広報活動	11
2. 地域連携推進部門事業	
(1) 青森創生人財育成・定着推進協議会における取組	12
(2) 青森県内自治体等との包括連携協定の締結	16
(3) 青森県内自治体との連携調査研究事業	17
(4) 青森県内自治体首長及び企業経営者等を講師とした講演会の開催	20
(5) 地方創生ネットワーク会議	21
(6) 大学コンソーシアム学都ひろさき	22
3. 地域創生人材育成部門事業	
(1) 弘前大学地域創生本部連携推進員	28
(2) 弘大じょっぱり起業家塾	32
(3) 地域創生本部主催の生涯学習事業	34
4. ボランティアセンター事業	
(1) 学生登録者数、参画人数	40
(2) ボランティアセンターの活動	41

## III. サテライト

1. 八戸サテライト	45
2. 青森サテライト	46
3. サテライトキャンパス	46

## IV. 各学部・研究科等における公開講座等の実施状況

## V. 各学部・研究科等の地域連携・地域貢献に関する取組事例

## VI. 地域創生本部地域創生推進室 部門長・センター長からひとこと

## はじめに

---

弘前大学地域創生本部では2022（令和4）年度より、地域創生本部及びその下で事業を推進するために設置された地域連携推進部門、地域創生人材育成部門、ボランティアセンターの施策や事業実績等をまとめた「弘前大学地域創生本部年報」を発行しております。

年報の中には、各学部・研究科等の協力も得て、地域創生本部以外の公開講座や地域連携・地域貢献に関する取組の実施状況も収録して、本学全体の地域連携・地域貢献活動を紹介していますので、本学の取組に対する理解を深めていただければ幸いです。

第4期中期目標期間の初年度である令和4年度も、長期化する新型コロナウイルス感染症の影響で活動に制限がありましたが、そのような中でも、本学の教育・研究成果を活かした地域課題解決に向けた地域と連携した取組、地域を牽引するリーダーなどの人材育成及び県内自治体・企業等とのネットワーク強化などを中心として、地域の中核的拠点である大学の役割を果たすために様々な活動を滞りなく展開できたと考えております。

弘前大学は以前から、「世界に発信し、地域と共に創造する」とのスローガンの下に、高等教育機関としての役割を追求してきました。これからも地域活性化の中核拠点としての機能充実・強化を促進し、「地域を支え、地域から支えられる大学」の形成を目指すとともに、今まで培ってきた強固な地域連携を基盤として、しっかりと地域貢献を実現しつつ、得られた教育研究の成果を全国、そして世界に広げていく所存ですので、引き続きご支援賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

弘前大学地域創生本部長  
弘前大学長

福田眞作



# I. 地域創生本部の体制

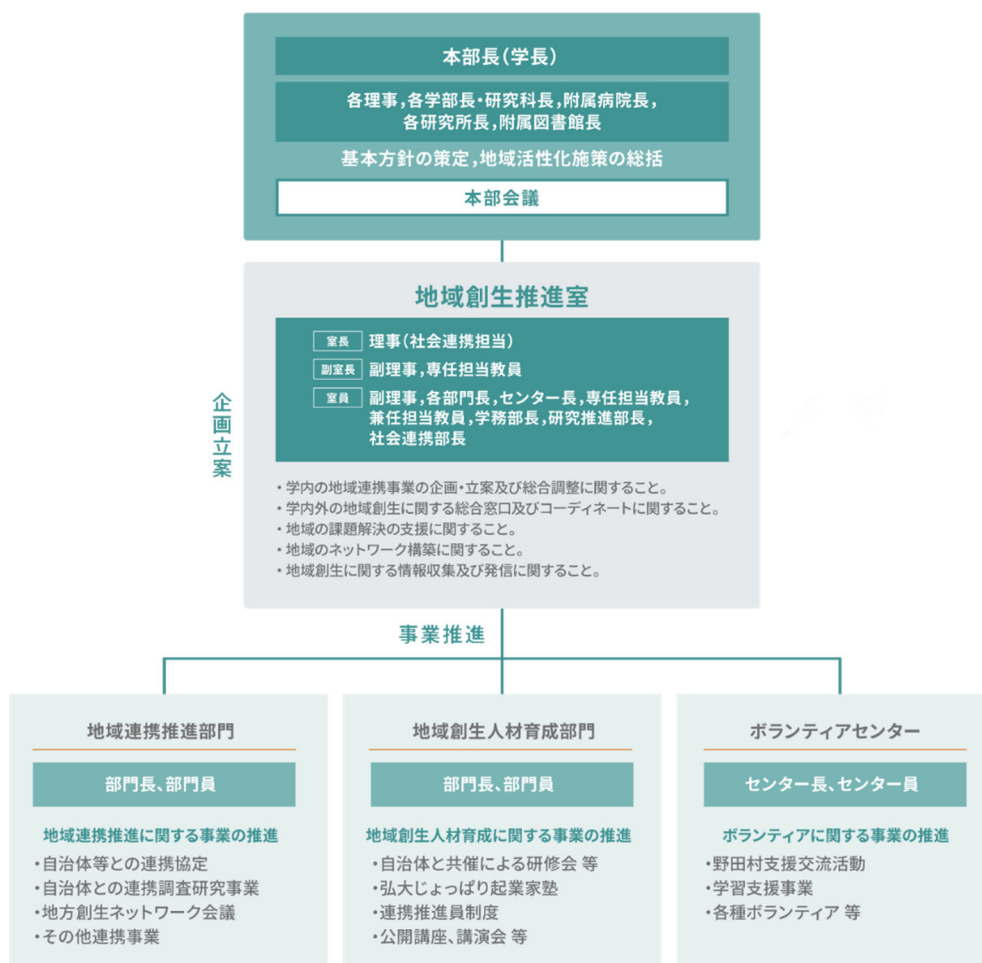
## 1. 地域創生本部について

平成30年10月、理事（社会連携担当）を機構長とした社会連携推進機構を発展的に改組し、地域創生本部を設置した。地域活性化の中核的拠点として、地域の特性を活かした地域活性化施策を大学一体となって総合的に推進することを目的として、新たに学長を本部長とする全学的な推進体制を整備した。本部内に設置した地域創生推進室には、地域社会の情勢等に精通する専任教員1名（准教授）を副室長として配置、また、平成31年4月には「地域活性化に関する施策の基本方針」を策定した。

令和2年4月、地域創生本部の機能を強化するために、地域関連組織（生涯学習教育研究センター、ボランティアセンター、COC推進本部）を地域創生本部に統合し、新たに「地域連携推進部門」、「地域創生人材育成部門」及び「ボランティアセンター」を地域創生本部内に設置する組織再編を実施した。

さらに、令和4年1月には、地域から要望が多い「食」関連の地域課題解決及びイノベーション創出を一層促進していくこと、また、青森県全域で取り組む人材育成・地元定着に向けた取組を重点的に進めていくことを目的として、銀行系シンクタンクの研究所で実務経験のある専任教員1名（助教）を配置した。

### 地域創生本部 組織図



## 地域活性化に関する施策の基本方針（平成31年4月24日策定）

1. 地域活性化に寄与する研究や教育を通じて、自治体や企業、地域の団体等と連携し、地域課題の解決に取り組む。
2. 地域課題を取り入れた教育を展開するとともに、グローバルな視点を持ち地域を牽引するリーダーやコーディネーターなどの地域活性化に貢献する人材育成に取り組む。
3. 地域との連携を推進するための企画・調整を一元的に行うとともに、ネットワーク形成の強化を図りつつ、積極的に情報発信する。

## 2. 地域創生本部 構成員名簿

### 地域創生本部

令和4年4月1日現在

職名	氏名	備考
学長	福田 眞作	本部長
理事（社会連携担当）	石川 隆洋	副本部長
理事（企画担当）	若林 孝一	
理事（総務担当）	岡本 和久	
理事（教育担当）	郡 千寿子	
理事（研究担当）	曾我 亨	
理事（特命担当）	佐野 輝男	
人文社会科学部長	飯島 裕胤	
教育学部長	福島 裕敏	
農学生命科学部長	東 信行	
大学院医学研究科長	廣田 和美	
大学院保健学研究科長	齋藤 陽子	
大学院理工学研究科長	岡崎 雅明	
大学院地域社会研究科長	森 樹男	
大学院地域共創科学研究科長	片岡 俊一	
医学部附属病院長	大山 力	
被ばく医療総合研究所長	床次 眞司	
地域戦略研究所長	本田 明弘	
附属図書館長	羽瀨 一代	

### 地域創生推進室

令和4年10月1日現在

所属・職名	氏名	備考
理事（社会連携担当）	石川 隆洋	室長
副理事 人文社会科学部 教授	森 樹男	副室長
地域創生本部 准教授	佐々木 あつ子	副室長、専任教員
副理事	三上 盛一	
人文社会科学部 教授	李 永俊	
教育学部 准教授	佐藤 光輝	
農学生命科学部 教授	石塚 哉史	
農学生命科学部 准教授	前多 隼人	
大学院医学研究科 助教	沢田 かほり	
大学院保健学研究科 准教授	高見 彰淑	
大学院理工学研究科 教授	片岡 俊一	
大学院理工学研究科 教授	佐々木 一哉	
大学院地域社会研究科 教授	平井 太郎	
大学院地域社会研究科 准教授	土井 良浩	
地域戦略研究所 准教授	永長 一茂	令和4.10.1～ (前任：福田 覚准教授)
男女共同参画推進室 助教	山下 梓	
地域創生本部 助教	辻本 侑生	専任教員
学務部長	高橋 慶匡	
研究推進部長（兼）社会連携部長	古舘 賢樹	

### 地域連携推進部門

令和4年10月1日現在

所属・職名	氏名	備考
副理事 人文社会科学部 教授	森 樹男	部門長
大学院理工学研究科 教授	佐々木 一哉	副部門長
教育学部 准教授	佐藤 光輝	
農学生命科学部 准教授	前多 隼人	
大学院地域社会研究科 准教授	土井 良浩	
地域戦略研究所 准教授	永長 一茂	令和4.10.1～ (前任：福田 覚准教授)
研究推進部長（兼）社会連携部長	古舘 賢樹	

**地域創生人材育成部門**

令和4年4月1日現在

所属・職名	氏名	備考
大学院理工学研究科 教授	片岡 俊一	部門長
農学生命科学部 教授	石塚 哉史	副部門長
教育学部 講師	深作 拓郎	
大学院医学研究科 助教	沢田 かほり	
大学院保健学研究科 准教授	高見 彰淑	
研究推進部長 (兼) 社会連携部長	古舘 賢樹	

**ボランティアセンター**

令和4年4月1日現在

所属・職名	氏名	備考
人文社会科学部 教授	李 永俊	センター長
人文社会科学部 教授	平野 潔	副センター長
教育学部 准教授	高橋 俊哉	副センター長
農学生命科学部 助教	矢田谷 健一	
大学院医学研究科 准教授	富田 哲	
大学院保健学研究科 准教授	扇野 綾子	
大学院理工学研究科 准教授	藤崎 和弘	
大学院地域社会研究科 教授	平井 太郎	
男女共同参画推進室 助教	山下 梓	
学務部長	高橋 慶匡	
研究推進部長 (兼) 社会連携部長	古舘 賢樹	

## Ⅱ. 地域創生本部の活動

### 1. 地域創生本部事業

#### (1) 青森県における科学的根拠に基づくがん検診推進事業

本学学長が青森県に対して、青森県の地域課題である「短命県返上」に向けた新たな施策の提案を行い、がん検診受診率が高いにも関わらず、がんの年齢調整死亡率が全国的にも下位となっている状況から脱却することを目的として、青森県と連携した事業である「科学的根拠に基づくがん検診推進事業」を開始することとした。

地域課題の解決に向けて青森県一丸で取り組む事業となっており、学長を始めとして、青森県医師会長、青森県内市町村の首長2人、青森県総合健診センターの代表者、青森県保健所長会の会長、市町村保健師の代表者、青森県健康福祉部長、がん検診・がん医療の有識者で構成される会議体（青森県における科学的根拠に基づくがん検診推進委員会）を新たに設置し、令和3年3月にキックオフ会議を開催した。

会議体において検討を重ね、「青森県における科学的根拠に基づいたがん検診の要綱案」を策定し、令和3年11月に青森県知事に提言書を提出、令和4年3月には、青森県が要綱案・提言に基づいて県要綱として取りまとめた。今後、関係機関が一丸となって、がん検診事業の浸透と適切な精度管理を行い、青森県のがん死亡率低下を目指すこととしている。

#### ①令和4年度 青森県における科学的根拠に基づくがん検診推進委員会 名簿

所属・役職名	氏名	備考
弘前大学長	福田 眞作	委員長
青森県医師会 会長	高木 伸也	青森県医師会の代表者
むつ市長	宮下 宗一郎	市町村（市部）の代表者
深浦町長	吉田 満	市町村（町村部）の代表者
青森県総合健診センター 常務理事	下山 克	青森県総合健診センターの代表者
青森県保健所長会 会長	齋藤 和子	青森県保健所長会の代表者
青森県がん検診管理指導監	齋藤 博	有識者（がん検診・県内）
国立がん研究センター 社会と健康研究センター 検診研究部検診実施管理研究室長	高橋 宏和	有識者（がん検診・県外）
弘前大学医学部附属病院 臨床試験管理センター 准教授・副センター長	松坂 方士	有識者（疫学）
弘前大学大学院医学研究科 産科婦人科学講座 教授	横山 良仁	有識者（がん医療）
弘前大学大学院医学研究科 呼吸器内科学講座 教授	田坂 定智	有識者（がん医療）
青森県健康福祉部長	永田 翔	



②有識者等による座談会（令和4年4月20日）

令和4年度は、科学的根拠に基づくがん検診を推進することの目的・必要性について、医療機関・検診機関をはじめ県民多数の方に理解してもらうことを目的として、有識者等による座談会を開催し、新聞広告に掲載した。

また、市町村等ががん検診に従事している者を対象として研修会を開催した。

**がん死亡率改善へ 検診向上を**

**科学的根拠に基づくがん検診 弘大と本県一丸で推進**

**首長や現場の理解が必要 従事者研修の充実を図る中**

**県民の主体的参画を重視 精度管理に資源集中を要**

青森で座談会

「東奥日報 2022年5月27日掲載」



## ②各自治体から提供された地元産品

### i)パッケージによる提供（11市町村）

市町村	提供された地元産品
鱒ヶ沢町	「お菓子のたつや」マロンパイと生どら焼き（深谷の栗）、 「銘菓の店 山ざき」ケーキ・ド・大福（深谷の栗、シャインマスカット）
弘前市	県産米（つがるロマン）、青森りんごカレー、清水森ナンバ飯炊き込みご飯の素、嶽 きみのまぜご飯の素、青森なべ焼きうどん、青森煮干しラーメン、パティシエのりん ごスティック
青森市	米（まっしぐら）、青森縄文和栗ぷりん、ゴロゴロほたての食べるラー油
西目屋村	白神のそば（半生、めんつゆ付き2人前）×3個セット
深浦町	雪にんじんビーフシチュー、雪にんじんミネストローネ
藤崎町	米（青天の霹靂）、カクテキできた！、りんご地サイダー、トマトみそ ホットチリ +、SOYナッツ、恋する乙女パウンド、ふじラスク、なかベジ ミニトマトジュース
平川市	青森なべ焼きうどん、大粒ピーナッツせんべい、かしわみそ
板柳町	「完熟」アップルジュース、クールアップル、アップルファイバークッキー
階上町	階上早生 階上そば
三戸町	米（つがるロマン）、きんぴら風生芋こんにゃく、ガーリックラスク、続けるオリ ゴ、さんのへのりんごジュース
黒石市	米（大川原棚田米 火流し恋し）、牡丹そば（乾麺）、南八甲田の水で育った黒石産 野菜のクリーミーポタージュ、リンゴジュース（初しぼり）

### ii)学生食堂でのメニュー提供（4町村）

市町村	提供された地元産品	メニュー
田子町	田子町産にんにく（美六姫）	にんにく素揚げ
南部町	米（南部達者米）	ライス
東通村	東通牛	牛皿
中泊町	メバルの刺身	メバル丼

※ 協定締結順に記載

### (3) ひろだい学生めしレシピコンテスト

学生支援事業の一環として、原油価格・物価高騰などの影響を受けて経済的に困っている学生に、自宅で、安くて簡単で美味しい「おうち飯」を作ってもらいたいとの思いから、昨年度に引き続き、「ひろだい学生めしレシピコンテスト」を実施した。

令和4年度は、募集テーマを「ワンパン料理（フライパンや鍋一つで作れる調理法が簡単な料理）」とし、青森県産品の活用を要件として募ったところ、県内外から49件の応募があった。

書類審査により5件を選出し、試食審査の結果、「最優秀賞」1件、「優秀賞」1件、「学長特別賞」1件が決定し、受賞者には表彰状と記念品が贈られた。

入賞レシピは、地域創生本部ホームページに公開、また、最優秀賞のレシピについては動画を公開している。



#### ①応募要件

- ・青森県産品を2品以上使用した美味しいおうち飯であること
- ・簡単でコスパの良いレシピであること
- ・フライパンや鍋一つで作れること

#### ②応募期間

令和4年8月29日 ～ 令和4年10月14日

#### ③入賞レシピ

**最優秀賞**  
「リンゴと大葉の冷製パスタ」  
(弘大生・22歳)



**優秀賞**  
「いちご煮パエリア」  
(青森市・48歳・公務員)



**学長特別賞**  
「サバ缶で作るサバのトマト煮込み」  
(福島県・20歳・大学生)



#### ④レシピ公開URL

弘前大学地域創生本部ホームページ  
ひろだい学生めしレシピコンテスト受賞作品発表  
<https://chiiki.hirosaki-u.ac.jp/recipecontest/results/>



#### (4) 広報活動

##### ①地域創生本部のパンフレットを発行（内容を毎年更新）

(URL) <https://chiiki.hirosaki-u.ac.jp/about/>



##### ②地域創生本部Twitter（現X）開設

地域創生本部の情報発信活動の一環として、令和4年2月に開設した。



## 2. 地域連携推進部門事業

### (1) 青森創生人財育成・定着推進協議会における取組

令和元年度まで国からの補助事業として実施していたCOC+事業（オール青森で取り組む「地域創生人財」育成・定着事業）の取組を令和2年度以降も継続して実施していくため、弘前大学が主導して新たな枠組みの構築や青森県内高等教育機関への参画要請を行い、COC+事業に参画していた10校に3校を加え13校を構成員とした「青森創生人財育成・定着推進協議会」を令和2年9月に新たに設置した。同年10月には3校を追加して16校とし、県内全ての高等教育機関が参画する組織体として、青森県内全域で地域人材の育成と学生の県内定着に資する取組を実施するための体制を確立した。青森県内に4つのブロック（青森、弘前、八戸、むつ）を置き、ブロックごとに学生の地元定着に資する事業を展開している。

また、本協議会の下に、高等教育機関・自治体・経済団体等の実務担当で構成される「産官学情報交換会」を令和2年9月に設置し、県内地域への若者定着促進に向けた各種事業の実施について意見交換及び協議を行うなど、地域課題の認識等について産官学間で情報共有を図っている。

#### ①青森創生人財育成・定着推進協議会

##### i) 構成員（16校）

令和4年4月1日現在

所属・役職	氏名	備考
弘前大学長	福田 眞作	会長
青森公立大学長	香取 薫	
青森県立保健大学長	吉池 信男	
柴田学園大学長	加藤 陽治	
八戸工業大学長	坂本 禎智	
青森大学長	金井 一頼	
弘前学院大学長	藁科 勝之	
八戸学院大学長	水野 眞佐夫	
青森中央学院大学長	佐藤 敬	
弘前医療福祉大学長	下田 肇	
柴田学園短期大学部長	島内 智秋	
青森明の星短期大学長	花田 慎	
青森中央短期大学長	石田 憲久	
八戸学院大学短期大学部学長	杉山 幸子	
弘前医療福祉大学短期大学部学長	下田 肇	
八戸工業高等専門学校長	圓山 重直	

ii) 令和4年度青森創生人財育成・定着推進協議会の開催

開催日：令和4年7月7日（木）

会場：ウェディングプラザアラスカ

地下1階「サファイア」（青森市）



- |    |                      |
|----|----------------------|
| 議事 | 1. 令和3年度における事業実績について |
|    | 2. 令和4年度における事業計画について |
|    | 3. 令和3年度産官学情報交換会について |
|    | 4. その他               |

協議会終了後、若者の県内定着に向けた施策に関する講演会を開催した。「「あおり若者定着奨学金返還支援制度」を始めとした若者定着・還流の取組について」と題して、青森県企画政策部次長による講演を実施し、講演後、学生の県内定着に関して活発な質疑応答が行われ、今後の同事業実施に向けた議論を進める上で有意義な講演となった。

②産官学情報交換会

i) 構成員

令和4年4月1日現在

所属・役職	氏名	備考
弘前大学副理事	森 樹男	会長
青森中央学院大学地域連携センター長	成田 昌造	
八戸工業高等専門学校副校長	南 将人	
青森県企画政策部企画調整課長	後村 文子	
青森県商工労働部労政・能力開発課長	山口 郁彦	
青森県市長会事務局長	小鹿 継仁	
青森県町村会常務理事・事務局長	原田 啓一	
青森県商工会議所連合会常任幹事	葛西 崇	
青森県中小企業団体中央会専務理事	田中 泰宏	
青森県商工会連合会専務理事	前多 正博	

ii) 令和4年度産官学情報交換会（第1回）の開催

開催日：令和4年7月26日（火）10:00～11:30

会場：オンライン

- |    |                                |
|----|--------------------------------|
| 議事 | 1. 青森創生人財育成・定着推進協議会（7/7開催）について |
|    | 2. 学生の県内定着に向けた方策について           |
|    | ①自治体及び経済団体等における取組について          |
|    | ②学生の県内定着に係る課題と対処について           |
|    | 3. その他                         |

iii) 令和4年度産官学情報交換会(第2回)の開催

開催日: 令和5年2月28日(火) 13:30~15:00

会場: 青森県観光物産館アスパム 5階「白鳥」(青森市)

- 議事
1. 学生の県内定着に向けた方策について
    - ①県の令和5年度事業等について
    - ②学生による就職座談会及び(仮称) One day 業界研究について
    - ③県内企業情報の更なる周知・活用に向けて
  2. その他

**③学生の地元定着に向けた取組**

i) 地元企業調査

県内大学生の地元企業の認知度を高め、地元企業への就職促進及び人手不足の緩和を図るため、弘前市が実施する「地元企業魅力発信事業」と連携し、学生も参加しながら企業調査等を行い、地元企業の職場の風景や社員の雰囲気などが感じとれる動画をオンライン上で発信した。



ii) ホスピタルカフェ

県外流出が著しい看護・医療系の学生の県内定着が大きな課題となっている青森県の現状を踏まえ、県内病院の看護師等の若手スタッフと学生が交流し、学生が県内病院や就職後の働き方等を知ることを出発点に、インターンシップや就職に繋げていくことも目的とした「ホスピタルカフェ2022」を令和5年3月に開催し、学生10人が参加した。



(URL) <https://chiiki.hirosaki-u.ac.jp/202306-9658/>

iii) 学生による就職座談会

学生が就職に関して考えていることを聞き取り、就職支援や県内企業の採用力向上に反映させることを目的として開催している。令和3年度は文系学生を対象に開催したが、令和4年度は理系学生を対象にオンラインで開催した(令和5年1月開催)。弘前大学人文社会科学部 森 樹男 教授をファシリテーターとして、弘前大学の3年次・4年次学生4人から、就職先選定理由、県内企業に対する要望、大学に対する就職支援についての要望等について聞き取りを行った。座談会の内容は、令和5年2月開催の産官学情報交換会において報告し、県内の産官学間で情報共有を図った。



iv) オンライン1/8DAYワークショップ～青森で就活～

学生の就活支援や企業の採用力向上に資するため、学生と地元企業の協働によりオンラインを使った2～3時間のインターンシップ＝業界（企業）研究のモデルケースの制作を検討。令和4年7月～12月に株式会社東北博報堂青森支社主導のもと、弘前大学学生6名が参加、プログラムの検討から試行をオンラインで実施し、モデルケースとなる「オンライン1/8DAYワークショップ～青森で就活～」を制作した。また、報告会の内容は、あおり創生☆News（ニュースレター）に特集として掲載し、公開した。



(URL) <https://chiiki.hirosaki-u.ac.jp/202306-9674/>

v) あおり創生☆News（ニュースレター）の発信

青森創生人財育成・定着推進協議会を構成する青森県内16高等教育機関の担当者間で、各大学の地元定着に向けた取組や協議会の様子などを共有することを目的として、令和3年5月に「あおり創生☆News」と称したニュースレターの配信をスタートした。2ヶ月に1回程度で配信しており、令和4年度はNo. 6～No. 9及び2件の特集号を配信した。ニュースレターの内容は弘前大学地域創生本部ホームページでも公開している。

(URL) <https://chiiki.hirosaki-u.ac.jp/network/>

vi) 起業支援事業の実施

学生等の県内における起業支援事業として、ホップ・ステップ・ジャンプの3段階による教育プログラムのうち、弘前大学地域創生本部において「ジャンプ」にあたる事業を実施した。ホップとしては、教養教育科目で初年次学生を対象に、アイデア出しに関する様々な手法をワークショップ形式で学習する「発想筋を120%にアップ」を、ステップとしては、弘前大学人文社会科学部で高年次学生を対象に、実務家の指導のもと、地域企業から提示された経営課題に対して企画提案を考える「事業計画演習」及び「ビジネス戦略演習」を実施している（令和4年度は都合により「ホップ」にあたる事業は開講していない）。本地域創生本部ではジャンプの段階の事業として、将来地域で活躍したい社会人や学生を対象に、「弘大じょっぱり起業家塾（基礎・実践コース）」を6月から12月にかけて講義と演習を計9回実施した。

## (2) 青森県内自治体等との包括連携協定の締結

令和4年度は、令和4年4月に青森県信用保証協会、農林中央金庫青森支店及び黒石市、7月に中泊町、令和5年2月に七戸町、3月に八戸市と包括連携協定を締結した。これにより、包括連携協定締結数は累計で38件となった。

このうち、県内自治体との包括連携協定について、令和4年度は2件の協定締結を目標としていたが、未締結の自治体との協議を精力的に行った結果、目標を上回る4件の協定を締結することができた。これにより自治体との包括連携協定締結数は累計で19件となった。

### ①黒石市と包括連携協定を締結

令和4年4月25日、黒石市役所において包括連携協定を締結した。具体的な連携事業として、黒石市が重点的に取り組んできたりんご、牡丹そば、ムツニシキを含む黒石産米などを安定的な海外販路拡大を図ることを目的とした「黒石産品海外販路拡大戦略」について取り組むこととしている。



協定締結式の様子

### ②中泊町と包括連携協定を締結

令和4年7月15日、中泊町役場において包括連携協定を締結した。具体的な連携事業として、「宮越家所蔵資料の調査研究」や「農産物の機能性と高付加価値加工食品の開発」、「地吹雪を活用した風力発電による視線誘導デバイス研究」について取り組むこととしている。



協定締結式の様子

### ③七戸町と包括連携協定を締結

令和5年2月28日、七戸中央公民館（七戸町）において包括連携協定を締結した。具体的な連携事業として、風力や地中熱などの再生可能エネルギーの実証研究によりデータを蓄積し、将来的には再生可能エネルギーを活用した特産作物の選定と栽培実験に取り組む「七戸町ローズカントリー調査研究事業」を行うこととしている。



協定締結式の様子

### ④八戸市と包括連携協定を締結

令和5年3月30日、八戸市庁において包括連携協定を締結した。本協定締結を機に、今後、弘前大学が企業と共同で研究を進めているリチウムイオン電池からリチウムを効率的に採取・回収する技術の事業化に関する調査研究や、弘前大学の養殖分野の研究による知見を活用したつくり育てる漁業を目指す調査研究に共同で取り組んでいくこととしている。



協定締結式の様子

### (3) 青森県内自治体との連携調査研究事業

包括連携協定を締結した県内自治体との特色ある連携事業として、本学が有する研究シーズを活用して各自自治体が直面している地域課題を解決することを目的とした「連携調査研究事業」を平成28年度から展開している。

本事業の件数は、事業をスタートさせた平成28年度の4件から、令和4年度は20件と5倍の水準に大幅に増加している。これまでの成果として、平川市では市所蔵文化財の整理・データベース化及び適切な保管や展示方法を本学の知見を活用して進め、平川市郷土資料館のリニューアルオープンにつなげたこと、また、田子町では、地元産品のニンニクについてDNA情報を用いた品種識別方法の特許出願を行ったことなど、地域課題の解決に向けた各自自治体の取組に本学が大きく貢献している。

#### 令和4年度 連携調査研究事業一覧

市町村	事業名・事業概要	担当教員
鱒ヶ沢町	<b>「鱒ヶ沢町“にぎわい”創出プロジェクト」に関する調査研究</b> <b>【事業概要】</b> 本町エリアの総合的な開発を「鱒ヶ沢町“にぎわい”創出プロジェクト」と称し、開発コンセプト、デザイン、整備後の運営体制、それらを立案する町民参加プロセス、利用実態などについて調査研究を行い、町の賑わい創出と地域経済の好循環について検証・考案する。	教育学部 特任教授 北原啓司 大学院地域社会研究科 准教授 土井良浩
	<b>「鱒ヶ沢町“漁師町魅力発見”プロジェクト」に関する調査研究</b> <b>【事業概要】</b> 漁師町をモデル地区とし地域課題解決の糸口を探すとともに、コンセプトを持った地域景観による誘客促進、地域住民の参画機運醸成等を検証・考察する。	教育学部 特任教授 北原啓司 大学院地域社会研究科 准教授 土井良浩
平川市	<b>市有財産の利活用に関する調査研究</b> <b>【事業概要】</b> 平川市役所本庁舎建て替えに伴い余剰スペースが発生する尾上庁舎の利活用計画策定に寄与するため、庁舎に適した利活用のあり方を検証・考案する。	大学院地域社会研究科 准教授 土井良浩 教育学部 特任教授 北原啓司
田子町	<b>田子町特産ニンニクの低環境負荷型栽培法の開発</b> <b>【事業概要】</b> 植物が持つ本来の能力を最大限引き出して病害虫に打ち勝つための栽培方法の確立を目指し、土壌消毒剤等の農薬使用量の低減を目指す。	農学生命科学部 准教授 高田 晃
南部町	<b>ジュノハートのマーケティング戦略の構築に関する調査研究</b> <b>【事業概要】</b> 南部町内・県内都市部及び東北エリアにおける主要販路を対象としたヒアリング調査及び消費者アンケート調査を実施し、町内の生産者の研修等でも報告することによって町内のステークホルダーとの共有を図る。	農学生命科学部 教授 石塚哉史
	<b>南部町の認知度向上に関する調査研究</b> <b>【事業概要】</b> より効果的なSNSの運用方法を具体的に検討する。	人文社会科学部 准教授 大倉邦夫

市町村	事業名・事業概要	担当教員
蓬田村	<b>ホタテ残さたい肥の有効活用を目的とした高収益野菜の栽培調査研究</b> <b>【事業概要】</b> 新規作物のブランド化等の展開に向けて、水田転作物目の栽培試験を継続し、ホタテ貝残渣を活用した堆肥の有効性検証や作業工程毎の栽培指導を実施することで、地域内循環型農林水産業を実践し、収穫量の増大を図る。	農学生命科学部 教授 前田智雄
	<b>地域産業の高度化を図る調査研究事業</b> <b>【事業概要】</b> 村内の農工商連携による6次産業化への取組を推進するため、地域経営の意識醸成研修や村内産業施設等の調査を実施し地域資源の再評価を行うことで、新たな産業の創出など効率的で実効性の高い事業戦略を策定する。	大学院地域社会研究科 教授 内山大史
	<b>スゲアマモ場造成に関する調査研究</b> <b>【事業概要】</b> スゲアマモの種苗生産に取り組み、得られた種苗の繁殖を観察する。併せて、蓬田地先のアマモ場について、マナマコやカレイ類などの水産生物の涵養効果について調査するとともに、ブルーカーボンとしての可能性を検討する。	地域戦略研究所 教授 桐原慎二
東通村	<b>寒立菜のブランド強化調査研究事業</b> <b>【事業概要】</b> 「寒立菜」の更なる品質向上と生産量拡大を図るとともに、冬季の安定的な農業所得に繋げていくための調査研究を行う。	農学生命科学部 教授 前田智雄
	<b>農業施策及び農業経営モデル構築調査研究事業</b> <b>【事業概要】</b> 農業後継者の育成と新たな就農者を増やしていくため、高収益かつ安定的な農業経営を行うための経営面積、栽培種目、収益等を網羅した東通村農業経営モデルを明らかにし、必要な施策の調査研究を行う。	農学生命科学部 助教 吉仲 怜
	<b>地域商社構築調査研究事業</b> <b>【事業概要】</b> 農産物等の地域資源を生産・加工・販売までの一貫したシステムと新たな雇用を生み出す体制を構築するとともに、農工商連携による高付加価値化の実現を目指し、東通村版地域商社の設立に関する調査研究を行う。	大学院地域社会研究科 教授 内山大史 教授 佐々木純一郎
階上町	<b>階上早生そばの地域ブランド推進事業</b> <b>【事業概要】</b> 階上早生そばに関する生産・加工・流通・消費の現状と課題を踏まえ、他産地と比較した生産・流通部門、機能性・栄養成分という消費部門での優位性の有無を探り出し、その特長を活かした地域ブランドの育成及び定着化を推進する。	農学生命科学部 教授 石塚哉史 教授 泉谷真実 准教授 前多隼人

市町村	事業名・事業概要	担当教員
三戸町	<b>青森県三戸町における中長期的な気候変動と作物の育成</b> <b>【事業概要】</b> 町内4地域における農耕地の気象特性を地域ごとに正確に把握するとともに、複数の温室効果ガス増加シナリオと全球気候モデルを組み合わせて予想する。さらに、予想される気候変動の下での水稲とリンゴの栽培適正を詳細に評価するとともに、ナシ・ブドウ・モモなどの栽培適正についても検討する。	農学生命科学部 教授 伊藤大雄 大学院理工学研究科 准教授 石田祐宣
黒石市	<b>黒石市中山間地域所得確保計画策定</b> <b>【事業概要】</b> 市内中山間地域の所得確保のため、市内の生産状況の視察や海外現地の市場調査を通して、中山間地域所得確保計画の策定を行う。	農学生命科学部 教授 石塚哉史
	<b>産学官連携新家畜導入研究</b> <b>【事業概要】</b> 地域内の耕作放棄地や不作付地を友好的に活用並びに中山間地域の農業所得向上を図るため、地域特産羊肉の生産を行い、レストラン、加工等の新産業の開拓を目指す。	農学生命科学部 教授 松崎正敏
中泊町	<b>宮越家資料調査研究</b> <b>【事業概要】</b> 旧家宮越家が所蔵する資（史）料を総体的に把握する実態調査及び整理・データベース化を実施する。	人文社会科学部 准教授 原 克昭 助教 佐々木あすか 助教 中野顕正 非常勤講師 尾崎名津子 客員研究員 植木久行
	<b>マイクロ風車式低視程時視線誘導装置の開発</b> <b>【事業概要】</b> 地吹雪の低視程による交通障害を緩和する装置を創出することを目的とし、マイクロ風車を用いた発電と視線誘導デバイスへの電力供給方法の検討、ならびに現地における冬季の風況観測と実証実験を行う。	地域戦略研究所 教授 本田明弘 准教授 久保田健
藤崎町	<b>堰神社関係資料解析研究</b> <b>【事業概要】</b> 堰神社にかかる関係資料の研究により、郷土の更なる歴史を明らかにするとともに、津軽の歴史を紐解く一助となることを目的とする。	人文社会科学部 准教授 原 克昭
七戸町	<b>七戸町特産作物開発のための再エネ活用調査研究</b> <b>【事業概要】</b> 寒冷地である七戸町に適応する新たな特産農作物（果樹・野菜）を開発すべく、再エネ活用の可能性を探る。	地域戦略研究所 教授 本田明弘 教授 伊高健治 准教授 久保田健 助教 若狭 幸

#### (4) 青森県内自治体首長及び企業経営者等を講師とした講演会の開催

弘前大学の幹部職員が、県内自治体や企業等の地域を志向した事業展開や地方企業としての経営ノウハウに対する見識を深め、大学の地域活性化に向けた取組をさらに推進していくことを目的として、自治体首長等を講師とした講演会を開催した。

##### ①黒石市長による講演会

令和4年9月29日、弘前大学総合教育棟101講義室において、高樋 憲 黒石市長による講演会を開催した。

「黒石市の経営戦略」と題して、農産物のブランド化に関しては、海外への輸出や富裕層をターゲットとした販売戦略を進めるために、有機無農薬栽培や農産物の高付加価値化といった取組が重要であると考えており、青森県全体にそういった取組が広がるよう黒石市が先陣を切って取り組んでいることが述べられた。

講演会には、学長をはじめ、役員・部局長・教職員など約80人が参加した。



講演する高樋市長

##### ②株式会社プロクレアホールディングス社長による講演会

令和5年1月30日、弘前大学創立50周年記念会館 岩木ホールにおいて、株式会社プロクレアホールディングス 成田 晋 代表取締役社長による講演会を開催した。

「プロクレアホールディングスの経営戦略及び地域活性化に向けた取り組みについて」と題して、青森県の社会経済環境やポテンシャルについての解説、プロクレアホールディングスの経営戦略や地域活性化の取組実績、本学との連携状況、地域共創・総合商社モデル構築の展望について説明がなされた。特に、これまで蓄積したノウハウやネットワークを活用し、地域を一つの企業グループに見立て総合商社的な役割を担い、挑戦的な領域拡大により地域資源の付加価値向上と経済循環の確立を目指し、地域の課題や可能性に積極的に挑戦することが述べられた。

講演会には、学長をはじめ、役員・部局長・教職員など約130人が参加した。



講演する成田社長



## (6) 大学コンソーシアム学都ひろさき

弘前市内に設置されている6つの大学（弘前大学、弘前学院大学、弘前医療福祉大学、東北女子大学、東北女子短期大学、放送大学青森学習センター）が協力・連携して、高等教育機関が有する教育・学術研究機能の充実を図ること、また、その成果を地域社会に還元することなどを目的として、「学園都市ひろさき高等教育機関コンソーシアム」を平成19年度に設立した。

設立10周年となる平成29年度に組織名称を「大学コンソーシアム学都ひろさき」に変更、また、令和3年度に東北女子大学と東北女子短期大学が統合し柴田学園大学となったことにより、現在の構成校は、弘前大学、弘前学院大学、弘前医療福祉大学、柴田学園大学、放送大学青森学習センターの5校となっている。

コンソーシアムにおける具体的な取組として、共通授業、学生地域活動支援事業、各大学公開講座等助成事業等を毎年実施している。また、令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の対応として、構成校の新入生等を対象とした新型コロナウイルスワクチン一括接種を実施した。

### ①共通授業

「地域の課題を理解し、地域の発展を考える」をテーマとして、地域の課題を具体的に理解しその解決について自ら考えることができる人材を育成することを目的に、オムニバス形式で開講している。平成25年度から開講しており、令和4年度で10年目となる。


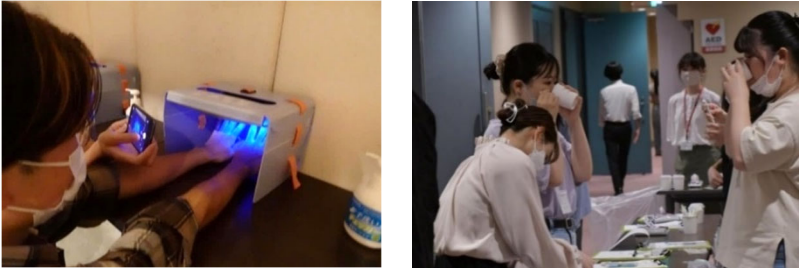
また、平成28年度から、弘前学院大学、柴田学園大学、弘前大学の3大学で本授業を単位認定している。





### 令和4年度 共通授業（会場：ヒロロ4階 市民文化交流館ホール（弘前市））

実施日	内容	受講者
8月23日	<p>テーマ：子どもにとっての「遊び場」と子育て支援拠点の重要性</p> <p>[概要]</p> <p>子どもや子育てを取り巻く環境の変化を踏まえて、子育て支援が必要になっている背景や地域子育て支援拠点事業の概要を理解する。そして、弘前市の地域子育て支援拠点事業である弘前市駅前こどもの広場の取り組みについて学び、実際に施設の見学と遊び体験を行う。また、子どもの遊びの意味や環境のあり方について学び、授業全体を通して、遊び場と地域子育て支援拠点の意味について考察する。</p> <p>[担当教員]</p> <p>柴田学園大学生生活創生学部子ども発達学科 准教授 安川 由貴子 柴田学園大学生生活創生学部子ども発達学科 講師 吉田 裕美子</p> <p>[ゲストスピーカー]</p> <p>弘前市健康子ども部子ども家庭課 保育士 尾崎 暁子</p> <p>[協力教職員等]</p> <p>弘前大学人文社会科学部 教授 森 樹男</p>	42人



	<p>弘前学院大学看護学部 講師 齊藤 史恵 弘前市企画部企画課 総括主査 古川 真樹</p>  <p>意見交換している学生</p>	
<p>8月24日</p>	<p>テーマ：学校保健から学ぶ ～学校における保健管理と保健教育の知見を活かす～</p> <p>[概要] 明治時代より発展した日本の学校保健制度（学校における児童生徒の保健管理・保健教育）は、トラコーマ・結核などの健康問題を改善し、子どもの教育・発達を支援し、学校教育を支えてきた。本授業において、現在の学校保健の基礎的内容・弘前市や県内小・中学校の活動事例を学ぶことにより、学生は気づきを得て、自分を含めた地域の健康課題解決の取り組みの意欲や興味・関心を高めることにつながる。</p> <p>[担当教員] 弘前大学教育学部 准教授 新谷 ますみ</p> <p>[TA学生] 弘前大学教育学部 4年生 4人</p> <p>[協力教職員等] 弘前大学人文社会科学部 教授 森 樹男 柴田学園大学生生活創生学部こども発達学科 准教授 安川 由貴子 柴田学園大学生生活創生学部こども発達学科 講師 吉田 裕美子 弘前学院大学看護学部 講師 齊藤 史恵</p>  <p>手洗い実験をする学生</p> <p>塩分濃度測定をする学生</p>	<p>42人</p>
<p>8月25日</p>	<p>テーマ：多言語対応について考える</p> <p>[概要] グローバル化に伴う訪日・在留外国人の増加によって、多言語対応の重要性が増大している。そこで、多言語対応が求められる状況や方向性、手法を学び、ゲストスピーカーによる弘前市に訪れる外国人観光客データや体験談等を含めた多言語対応の説明を基に、グループワークを通して、多言語対応について考えを共有することで、弘前市が抱える地域課題について大学生としてどのように考えていくのか、学びを深め検討していく。</p> <p>[担当教員] 弘前学院大学文学部 講師 齋藤 章吾</p>	<p>42人</p>

	<p>[ゲストスピーカー] 弘前市観光部観光課 参事 村山 佳光</p> <p>[協力教職員等] 弘前大学人文社会科学部 教授 森 樹男 柴田学園大学生生活創生学部こども発達学科 准教授 安川 由貴子 柴田学園大学生生活創生学部こども発達学科 講師 吉田 裕美子 弘前市企画部企画課 総括主査 古川 真樹</p>	
	 	
	<p>意見交換している学生</p> <p>学生による発表</p>	

## ②学生地域活動支援事業

学生が企画立案したまちづくり、地域づくりの活動に係る経費の一部を支援する公募型の事業である。地域課題の解決や地域の活性化につながる学生の活動を支援し、学生による魅力あるまちづくりの推進を図ること、また、地域活動を通じて、学生が地域の一員としての社会的力量を形成することを目的に実施している。

### 事業要項の概要

- 応募できる団体
 

学生で構成される団体(ゼミ、研究室、課外活動団体等)で、次の要件の全てに該当するもの

  - ・学生の活動を教員が実質的に指導していること
  - ・構成員が概ね5人以上であること
  - ・コンソーシアム構成大学の学生で組織された団体であること
- 対象事業
 

弘前市の地域活性化や地域課題の解決を目的に実施する事業で、次の要件全てに該当するもの

  - ・弘前市内で実施される事業であること
  - ・弘前市民を対象にした事業であること
- 補助金額
  - ・単一の団体が事業を行う場合 : 上限 100,000円
  - ・異なる大学の団体が連携して事業を行う場合: 上限 200,000円
- 事業審査及び審査基準
 

応募書類及び申請団体へのヒアリング等を実施し、次の10項目で審査し、決定する。

  - ・適格性 ・効果性 ・適切性 ・自主性 ・実現性 ・公益性 ・地域性
  - ・費用妥当性 ・将来性 ・独創性

令和4年度 学生地域活動支援事業 採択事業（7件）

採択団体	事業名称/事業実施の様子
地域活性化サークル (弘前学院大学)	大学キャンパス内誘致やイベント紹介による飲食店や露店の支援 
弘前大学ストリートダンスサークルA.C.T. (弘前大学)	弘前大学ストリートダンスサークルA.C.T. 定期公演「STEP vol.14」「STEP vol.15」 
弘大囃子組 (弘前大学)	ねふた囃子で弘前を盛り上げよう！ 
柴田学園大学短期大学部 食育研究部 (柴田学園大学短期大学部)	津軽の食文化伝え隊 (つたえたい) 『地域・子どもにつなげる「けの汁」伝承プロジェクト』 
弘前医療福祉大学救急救命研究会 (弘前医療福祉大学短期大学部)	親子で学ぼう防災救急教室 

Waku waku club (弘前医療福祉大学)	小比内健康生き生きプロジェクト～つなげよう！健康リレー～ 
看護技術研究会 (弘前医療福祉大学)	日常で使える看護技術！看護の魅力を伝えたい！ 

### ③各大学公開講座等助成事業

各大学の特色を活かしながら、蓄積する知を広く弘前市民に発信・還元して、本コンソーシアム及び大学を身近な存在として感じてもらうことを目的として、構成校が行う公開講座事業の実施を助成している。

令和4年度は、本助成事業により5つの公開講座を開講した。

#### 令和4年度 各大学公開講座等助成事業（5件）

実施日	実施大学	会場	公開講座名	受講者
7月16日 11月26日	柴田学園大学	弘前市学習センター調理室・視聴覚室	絵本のごちそうクッキングー親子時間を楽しもうー	9人
11月5日	柴田学園大学短期大学部	柴田学園大学短期大学部（弘前市）	特別公開講座 「岩木山の恵みを楽しもう第3弾 ～あなたの知らない山の世界～」	28人
12月4日	放送大学	弘前大学創立50周年記念会館みちのくホール	「地域のリーダーに学ぶ講演会」 放送大学青森学習センター公開レクチャー・コンサート ～ベートーヴェンのピアノ・ソナタと共に～	146人
2月18日	弘前大学	弘前大学人文社会科学部多目的ホール	令和4年度市民ボランティア講座	12人
2月25日	弘前医療福祉大学短期大学部	土手町コミュニケーションプラザ（弘前市）	「青森県産食材を使った料理作品展」	110人

#### ④学生団体シンポジウム

弘前市民に対して、学生の活動を広く公開すること、また、大学の枠を超えた学生同士の交流の場をつくり、学生活動の更なる活性化を図ることを目的として、例年、学生団体シンポジウムを開催している。

令和4年度は、令和5年2月19日に土手町コミュニティパーク多目的ホール（弘前市土手町）で開催し、約50人の市民、学生、関係者が参加した。



#### ⑤ひろさき移動キャンパス

「学都ひろさき」の魅力を県外にアピールして、弘前で学びたいという学生の増加を目指すこと、また、他地域コンソーシアムとの交流を深めて本コンソーシアムの充実を図ることを目的として、北海道函館市のキャンパス・コンソーシアム函館が主催する「HAKODATEアカデミックリンク」に、本コンソーシアム学生委員会「いしてまい」と、任意団体である「ひろエネ」がオンライン上でブース展示を行った。

いしてまいは「ごみ排出量の減量とリサイクルが両立できる衣類回収ボックスの設置」について、ひろエネは「創エネ・省エネ・消エネのノウハウ」について、それぞれの団体が地域で取り組んでいる活動を紹介した。



#### ⑥新型コロナウイルスワクチン一括接種

令和3年度に引き続き、「大学コンソーシアム学都ひろさき」の構成校の新入生等のうち接種を希望する110人に新型コロナウイルスワクチン一括接種を弘前大学の職域接種において令和4年度も実施し、地域の感染拡大防止及び自治体の接種に係る負担軽減に大きく貢献した。本取組は、職域接種のモデルケースとして全国的にも紹介されることになった。



### 3. 地域創生人材育成部門事業

#### (1) 弘前大学地域創生本部連携推進員

自治体等との連携体制をより一層強化するとともに、地域の人材育成に寄与することを目的として、弘前大学と包括連携協定を締結している機関の職員を「連携推進員」として受け入れている。

連携推進員は、本学の地域連携に関する業務に関わりながら、大学教員との関係を深め、具体的な地域課題解決等の事案を通じて、地域社会との連携を活性化させることを目的として活動する。



令和4年度連携推進員受入式

#### ①令和4年度 連携推進員名簿 (16機関16人)

所属機関	所属部署・役職	氏名
鯉ヶ沢町	政策推進課・主事	工藤 啓晃
弘前市	観光部国際広域観光課・主事	加藤 吉晃
株式会社青森銀行	ビジネスパートナー部事業コンサルティング課	十文字 紳伍
株式会社みちのく銀行	地域創生部ビジネス成長支援室	八木橋 さやか
西目屋村	企画財政課・主事	三上 龍太郎
弘前商工会議所	経営二課・課長補佐	三上 浩平
深浦町	税務会計課・主査	吉田 恵里
藤崎町	学務課・学務係長	猪股 辰博
平川市	市民課・主事	工藤 将人
板柳町	産業振興課・地域振興係長	小田桐 慶充
青い森信用金庫	西地区本部・副長	山田 遼介
青森県信用組合	融資管理部	米谷 翔太
株式会社商工組合中央金庫	青森支店・次長	堀井 俊和
青森県信用保証協会	企業支援部保証業務課	石村 公英
農林中央金庫	青森支店 営業第二班	工藤 健斗
黒石市	企画財政部企画課・主任主事	櫛引 亮兵

#### ②定例ミーティングの実施状況

実施日	内容
4月22日	<ul style="list-style-type: none"> <li>○令和4年度受入式                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・連携推進員受入通知書の交付</li> </ul> </li> <li>○令和3年度成果報告会                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動状況報告</li> <li>・共通課題取組状況報告Aチーム</li> <li>・共通課題取組状況報告Bチーム</li> </ul> </li> </ul> 報告会終了後、第1回定例ミーティングを実施



実施日	内 容
5月19日	○第2回定例ミーティング (前半) アイスブレイク・今年度の進め方等 (後半) 講義：国内外の2050年に関するデータ・見通しや、地域経済分析システム (RESAS) 等による県内自治体の将来予測データを解説する ワーク：講義を受けて、県内各自治体等の2050年の状況を議論する
6月16日	○第3回定例ミーティング 講義：「青森県基本計画～選ばれる青森への挑戦」を知る／弘前大学地域創生本部 佐々木 あつ子 准教授 ワーク：基本計画を考える
7月21日	○第4回定例ミーティング 方法の理解：現在から2050年に向けてどう考えるか 講義：バックキャストの考え方／弘前大学地域戦略研究所 福田 覚 准教授 ワーク：これまでのミーティングで出たアイデアで、バックキャストを試してみる
8月18日	○第5回定例ミーティング 2050年を見据えて「産業・雇用分野」を考える 講義：県産食品の価値向上に向けて／弘前大学農学生命科学部 前多 隼人 准教授 ワーク：講義を受け、県産食材の付加価値を高めるにはどういったビジネスや取組が必要か考える
9月15日	○第6回定例ミーティング 2050年を見据えて「安全・安心、健康分野」を考える 講義：「歩きスマホ」から安心・安全、健康分野を考える／弘前大学大学院保健学研究科 高見 彰淑 教授 ワーク：講義を受けて、2人1組のワークを行う研究テーマに関するグループワーキング
10月20日	○第7回定例ミーティング 2050年を見据えて「環境分野」を考える 講義：エネルギー・環境・経済について知っておくべきこと、及び青森県への貢献／弘前大学大学院理工学研究科 佐々木 一哉 教授 ワーク：講義を受けて、各所属団体における課題を出し合う
11月17日	○第8回定例ミーティング 2050年を見据えて「教育・人づくり分野」を考える 講義：青森県の子ども・子育て事情と大学の取組／弘前大学教育学部 深作 拓郎 講師 ワーク：講義を受けて、各所属団体における課題を出し合う
12月15日	○第9回定例ミーティング まとめ①：これまでの内容を提言にどうつなげるか －2050年の青森県を見据えて、地域と大学の連携のこれから、そして来年度の連携推進員事業のやるべきことを考えるには－ 話題提供・ファシリテーター：弘前大学大学院地域社会研究科 平井 太郎 教授
1月19日	○第10回定例ミーティング まとめ②：成果報告書の構成・分担の検討
2月16日	○第11回定例ミーティング まとめ③：成果報告書の内容検討 後半：URA室の業務等に関する紹介／弘前大学研究・イノベーション推進機構 山科 則之URA

実施日	内 容
3月16日	○第12回定例ミーティング クロージング：1年間の活動を振り返るとともに、成果報告会に向けた準備等を行う

### ③連携推進員学外実地研修

日 程：令和4年11月24日（木）9:30～15:30

訪問先：スポカルイン黒石（黒石市ぐみの木3丁目65）

休耕地見学（黒石市高館乙高原）

津軽あかつきの会（弘前市大字石川字家岸44-13）

参加者：9人（連携推進員他1人含む）

連携推進員の学外実地研修を実施、9人の連携推進員等と本学教員等の計13人が参加した。

まず、黒石市のスポカルイン黒石において、株式会社アグリーンハート 佐藤 拓郎 代表取締役役に「農業で持続可能な未来を」と題して講演いただいた。アグリーンハートは2017年に設立され、現在の経営面積は65haであり、グローバルGAPと有機JAS、ノウフクJASの3つを取得している我が国唯一の法人である。講演では、地域社会の未来を見据え、低コスト大量生産型と高付加価値生産型の2つのビジネスモデルに取り組んでいることや、SDGsの実現に向け、神経毒性農薬の不使用、化学肥料の削減、在来種・固有種の育成、安全安心な未来を創るための食材提供などに取り組んでいることが紹介された。講演後は、高価格で販売する有機栽培米の生産現場となっている黒石市安入地区を見学した。



次に、弘前市石川地区で活動している「津軽あかつきの会」を訪問した。津軽あかつきの会は約27年前から津軽地域の伝統的な食を継承するための活動を行っている女性たちのグループ。令和3年に「津軽伝統料理」という本が出版され、令和4年には全国放送の料理番組で特集が放送されるなど、全国的に知名度が上がっている団体である。参加者は、津軽あかつきの会で提供されている「食事」を実際にいただきながら、副会長の森山氏から料理の説明を受けた。また、家庭料理は各家庭で味付けや作り方が異なることから、日々、メンバーで話し合いながら料理をしていることや、昔ながらの家庭料理の良さ、その味を守るための努力など活動内容等についてレクチャーを受けた。





最後に、弘前大学に戻り、研修の振り返りが行われ、参加者全員から、各自が研修を通じて感じたことや気づきなどについて発表し、共有した。アグリーンハートについては、最先端かつ地域の将来を考えた取組にチャレンジしていることを知り、刺激を受けたというコメントが多くあった。津軽あかつきの会については、久しぶりに懐かしい味を食べたという感想のほか、身近に当り前にあるけれど消えていってしまうものを継承する活動を知り、自らの地域等での取組の参考になったとのコメントもあった。



#### ④連携推進員コーディネート事業 「防災のためのデジタル地図」報告会

令和4年9月14日、黒石市立東公民館にて「防災のためのデジタル地図」報告会が開催された。

本報告会は、弘前大学人文社会科学部地域行動コースの授業科目「社会調査実習」の成果に、黒石市総務部総務課防災管理室が関心を持ってくださったことをきっかけに、櫛引 亮兵 連携推進員（黒石市企画財政部企画課主任主事）が、本学教員と所属機関とのコーディネートを行い、市と大学をつなぐ形で実現した。



報告会には、自主防災組織等に関わる住民6人と黒石市職員3人、計9人が参加。冒頭、授業の担当教員である本学人文社会科学部 増山 篤 教授の挨拶の後、社会調査実習「防災マップ制作チーム」を代表して、人文社会科学部3年 金澤 蒼依 さんが黒石市内をフィールドとした実習での成果とデジタル地図の実装可能性について発表した。



質疑応答では、地区住民自身が今後防災のためのデジタル地図を作成していくことを見据え、制作にかかる時間や必要なデータ、個人情報・著作権の取り扱いや情報共有範囲の設定方法、地図上の情報の検索方法など、具体的な質問が多く出された。

#### ⑤令和4年度連携推進員成果報告会

令和5年4月21日、弘前大学創立50周年記念会館岩木ホールにおいて、令和4年度連携推進員成果報告会を開催した。成果報告会には、弘前大学教職員、自治体、金融機関などから約40人が来場した。

「2050年の青森県を見据えて地域と大学ができること」に着目した令和4年度の連携推進員の活動報告として、十文字 紳伍 氏（青森銀行）が「大学からの問題提起と議論の内容」について、工藤 啓晃 氏（鱈ヶ沢町）が「2050年の青森県に向けた地域と大学の協働による人材育成」について発表を行った。



## (2) 弘大じょっぱり起業家塾

地域活性化に向けた人材育成の一環として、学生や一般市民等を対象に、起業家による講演や事業計画の策定・演習等を通して、柔軟な発想力や高い企画提案力を身に付けることを狙いとした教育プログラム「弘大じょっぱり起業家塾」を開講している。

令和4年度は「食」と「観光」をテーマとし、各々のビジネスプランを掲げる21人が受講した（基礎コース4回、実践コース5回の計9回、その他、開講式・特別講演1回、成果発表会・修了式1回）。

修了要件を満たした7名を地域で活躍できる起業家マインドを持つ「じょっぱり起業家」として認定し、また、成果発表会において最優秀賞1人、優秀賞2人を選出した。



令和4年度開講式

### ① プログラム内容

#### i) 基礎コース：地域ビジネス論・先進事例研究

実施日	講義内容等	講師
6月23日	・開講式 ・地域活性化・伝統文化の保全を目指したビジネスの実現	齋藤 ひとみ (ひろさき夢興社(株)代表取締役)
7月7日	・起業のための基礎 ・ディスカッション	岩見 茂政 (株)日本政策金融公庫弘前支店長)
7月21日	・鶴田町から発信するファッションブランドと地域活動 ・ディスカッション	岡 詩子 (ハンサムリネンKOMO代表 つるた街プロジェクト代表)
8月25日	・コンセプトの作り方 ・ディスカッション	玉樹 真一郎 (わかる事務所代表/八戸学院大学客員教授/元・任天堂Wiiディレクター・プランナー)
9月1日	・マーケティング志向の事業計画 ・ディスカッション	熊谷 淳一 (株)ノイエ代表取締役)

ii) 実践コース：食・観光ビジネス演習

実施日	講義内容等	講師
9月15日	・イントロダクション ・観光ビジネス概論及び食品ビジネス概論	石塚 哉史 (弘前大学大学院地域共創科学研究科 教授) 森 樹男 (弘前大学大学院地域共創科学研究科 教授)
10月6日	・アイデアの創出とコンセプトづくり	
10月20日	・市場ポジションの確認	
11月10日	・ターゲット顧客の設定	
12月1日	・事業計画のブラッシュアップ	
12月22日	・成果発表会、修了式	



②成果発表会の開催

令和4年12月22日、弘大じょっぱり起業家塾2022の成果発表会をオンライン上で開催した。

6月から12月にわたり基礎・実践コースを履修し、各々のビジネスプランを練り上げてきた受講生のうち事前審査を通過した3人と、審査対象外の高校生を代表し1人の合計4人が、これまで学習してきた成果をもとに作成したビジネスプランを発表、「理念・意義・目標」「優位性」「実現可能性」「市場性・収益性」の4つの観点で審査が行われた。

審査の結果、規格外のホタテ等を使った冷凍食品販売事業について提案した野辺地町地域おこし協力隊 横井 さくら さんのビジネスプラン「のへじ町ホットピー商店創業事業計画」が最優秀賞を受賞した。



[成果発表会審査員]

弘前大学理事（社会連携担当）・副学長、塾長	石川 隆洋
日本政策金融公庫弘前支店長	岩見 茂政
弘前商工会議所中小企業相談所 所長	木下 克也
Clan PEONY津軽 専務理事兼事務局長	太田 淳也
青森県中小企業団体中央会弘前支所 所長	古川 博志
弘前大学大学院地域共創科学研究科 准教授	高島 克史

### (3) 地域創生本部主催の生涯学習事業


弘前大学は『地域に開かれた大学』を目指し、ライフステージや地域課題の克服を目指した学習機会提供の一助となるべく、青森県内各地で各種事業（公開講座、ワークショップ等）を開催している。

令和4年度は、青森県内自治体との共催事業を以下のとおり実施した。

#### ①弘前市公民館関係職員研修会（弘前市教育委員会との共催）

少子高齢化に伴い、社会保障や労働力不足などの様々な課題がある一方、地域活性化、住民の「絆づくり」など、身近な生活にも課題は生じており、地域の学びの拠点である公民館の役割も重要である。この研修会では、公民館が抱える問題の把握に努め、その解決方法について、地域連携の実践例などから、ヒントを得るとともに、社会教育・生涯学習担当職員として必要な専門的知識技能の習得により職員の資質向上を目指す。



実施日	内容	受講者
5月19日	<p>第1回 学区まなびい講座の今後の活動に向けた話し合い            会場：弘前市立観光館 多目的ホール            講師：弘前大学教育学部 准教授 越村 康英            弘前大学教育学部 講師 深作 拓郎            弘前市公民館活動等活性化アドバイザー 野口 拓郎</p> 	47人
9月21日	<p>第2回 地域事情に合わせて何か新しいことを考えてやってみよう            ～地域の課題や魅力を洗い出そう～            会場：弘前市岩木文化センター「あそべる」ホール            講師：弘前大学教育学部 准教授 越村 康英            弘前大学教育学部 講師 深作 拓郎            弘前市公民館活動等活性化アドバイザー 野口 拓郎</p> 	81人

実施日	内 容	受講者
1月25日	<p>第3回 地域事情に合わせて何か新しいことを考えてやってみよう ～具体的に考えてみよう～</p> <p>会 場：弘前市岩木文化センター「あそべる」ホール 講 師：弘前大学教育学部 准教授 越村 康英 弘前大学教育学部 講師 深作 拓郎 弘前市公民館活動等活性化アドバイザー 野口 拓郎</p> 	81人

## ②放課後の子どもの居場所づくりを考える研修会（弘前市との共催）

利用児童が増加している学童保育に従事するスタッフや児童館に勤務する児童厚生員を主な対象として、子どもたちにとって居心地のよい居場所や環境について考え、学ぶ。講義や実践研修に取り組むことで、子どもの発達課題や遊びの意義、適切な関わり方について考える機会とし、学童保育に従事するスタッフの資質向上を図り、子どもたちにとって居心地のよい居場所づくりを目指す。

実施日	内 容	受講者
6月10日	<p>第1回 児童館・児童クラブにおけるデイリープログラムのあり方について</p> <p>会 場：弘前市民文化交流館ホール 講 師：世田谷区立希望丘青少年交流センター「アップス」 センター長 下村 一</p> 	25人
8月27日	<p>第2回 講師訪問型研修 野あそび</p> <p>会 場：三岳児童センター（弘前市） 講 師：愛媛県えひめこどもの城 児童厚生員 上木 秀美</p> 	35人

実施日	内 容	受講者
9月10日	<p>第3回 講師訪問型研修 運動あそび            会 場：裾野なかよし会（弘前市立裾野小学校）            講 師：宮城県名取市下増田児童センター 館長 渡邊 由貴</p> 	45人
10月15日	<p>第4回 講師訪問型研修 感覚・造形あそび            会 場：船沢児童館（弘前市）            講 師：愛知県東郷町兵庫児童館 館長 高阪 麻子</p> 	38人
2月23日	<p>第5回 ミニレクチャー脳科学から見た子どもに必要なこと／あそびの            実践研究発表会            会 場：弘前大学創立50周年記念会館 岩木ホール            講 師：東北大学加齢医学研究所 教授 瀧 靖之（オンライン）            宮城県名取市下増田児童センター 館長 渡邊 由貴            株式会社陸奥新報社 営業企画室 次長 工藤 瑠美子</p> 	41人

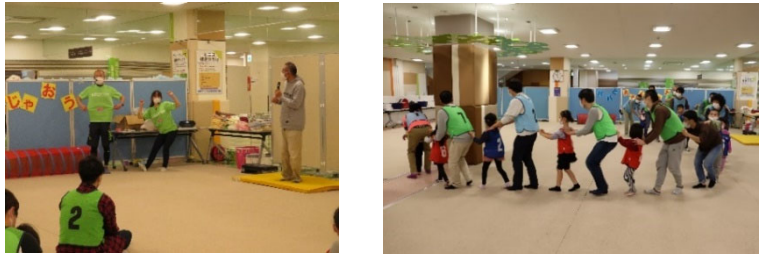
**③むつ市地域学校協働活動スキルアップ研修（むつ市教育委員会との共催）**

子どもたちを取り巻く環境の変化に伴い、子どもたちを見守る立場である地域学校協働本部配置の指導員、支援員及びサポーター、放課後児童クラブ（なかよし会）支援員、キッズパーク職員、市内学童保育支援員等、その他関係職員を対象にしたスキルアップ研修を実施し、これまで培ってきた経験や能力の更なる向上と、変わりゆく時代や状況に即した対応力の取得を図る。

実施日	内 容	受講者
6月19日	<p>第1回 子どもの放課後を本気で考える～子どもの権利条約・子どもの人権について～</p> <p>会 場：むつ市中央公民館</p> <p>講 師：弘前大学教育学部 講師 深作 拓郎</p> 	23人
11月13日	<p>第2回 災害時の対応について</p> <p>会 場：北の防人大湊安渡館（むつ市）</p> <p>講 師：弘前大学教育学部 講師 深作 拓郎 宮城県名取市下増田児童センター 館長 渡邊 由貴</p> 	17人

#### ④ パパラボ遊び研究所（弘前市こども家庭課との共催）

育児中の父親とこれから育児を予定している男性を対象として、父親が得意な子どもとの関わり方を知り、父親・母親ともに承認欲求が満たされるようなしかけづくりを行うことで、父親が子育てを「楽しい」と感じてもらうなど、自信を持って主体的に子育てに関わる意識を啓発する。

実施日	内 容	受講者
11月23日	<p>テーマ：パパとからだをうごかしてあそんじゃおう！</p> <p>会 場：弘前市駅前こどもの広場（交流エリアイベントスペース）</p> <p>講 師：運動あそび研究サークル きんにく〜ず 代表 前田 高幸 運動あそび研究サークル きんにく〜ず 久松 史奈 弘前大学教育学部 講師 深作 拓郎</p> 	32人

### ⑤子どもの放課後・地域社会を考えるゼミナール

放課後児童支援員や地域で子どもの放課後の活動に携わる実践者を対象として、子ども権利条約をはじめ、児童館ガイドライン及び児童福祉法に込められた「子どもの最善の利益を保障する」という理念を踏まえた放課後における子ども支援のあり方について理解を深めるとともに、文献や事例検討などを通して専門的力量的形成を図り、受講者各自の実践力を向上させる。

実施日	内 容	受講者
7月13日	第1回 ひろさきの子どもたちの放課後の現状 会 場：弘前大学創立50周年記念会館 講 師：弘前大学教育学部 講師 深作 拓郎	5人
8月10日	第2回 大雨警報により中止	—
9月14日	第3回 渡部達也著『子どもたちへのまなざし』エイデル研究所、2021年 第1章 今の子どもたちに何が必要なのか 第2章 NPO法人ゆめ・まち・ねっと 会 場：弘前大学創立50周年記念会館 講 師：弘前大学教育学部講師 深作 拓郎	5人
10月12日	第4回 渡部達也著『子どもたちへのまなざし』エイデル研究所、2021年 第3章 積み重ねてきた子どもたちとの日常 会 場：弘前大学創立50周年記念会館 講 師：弘前大学教育学部 講師 深作 拓郎	5人
11月9日	第5回 渡部達也著『子どもたちへのまなざし』エイデル研究所、2021年 第4章 二人三脚での歩み 第5章 子どもたちと関わるあなたへ、そして僕へ 会 場：弘前大学創立50周年記念会館 講 師：弘前大学教育学部 講師 深作 拓郎	5人
12月14日	第6回 渡部達也著『子どもたちへのまなざし』を読了して。 作者との座談会 会 場：弘前大学創立50周年記念会館 講 師：弘前大学教育学部 講師 深作 拓郎 NPO法人ゆめ・まち・ねっと 代表 渡部 達也（オンライン）	5人

### ⑥鶴田町放課後児童支援員研修会（鶴田町教育委員会との共催）

鶴田町の放課後児童支援員等を対象として、子どもたちの心地よい放課後環境をどのように作り出すのかを学ぶことで、各支援員等の資質向上と意識改革を図る。


実施日	内 容	受講者
10月25日	テーマ：子どもにとって適切な児童クラブの運営と環境の在り方について 会 場：鶴田町学童保育施設サンシャインスクール 講 師：弘前大学教育学部 講師 深作 拓郎 宮城県名取市下増田児童センター 館長 渡邊 由貴  	29人



実施日	内 容	受講者
12月27日	<p>テーマ：『みんなでつくろう！紙コップランド』            会 場：鶴田町立鶴田小学校 体育館            講 師：弘前大学教育学部 講師 深作 拓郎</p> 	58人

⑦学区まなびい講座運営担当者研修会（弘前市教育委員会との共催）

学区まなびい講座（弘前市事業）運営担当者と社会教育関係職員が、これからの学区まなびい講座の運営に関してともに考えることを通して、組織の見直しを進めたり、新たな事業展開の工夫を試みたりする等、学区まなびい講座のさらなる発展に寄与することを目指す。

実施日	内 容	受講者
2月27日	<p>テーマ：人と地域をつむぐ ― 千葉県君津市・清和地区の挑戦            会 場：弘前市立中央公民館岩木館 大ホール            講 師：千葉県君津市市民生活部清和地区施設整備推進室 副主査            (併) 千葉県教育委員会教育部生涯学習文化課 副主査 中村 亮彦            弘前大学教育学部 准教授 越村 康英            弘前大学教育学部 講師 深作 拓郎            弘前市公民館活動等活性化アドバイザー 野口 拓郎</p> 	48人

## 4. ボランティアセンター事業

東日本大震災によって甚大な被害を受けた地域へのボランティア活動を円滑に展開するために設立された弘前大学人文学部ボランティアセンターを発展的に改組し、ボランティア活動の推進及び支援を図るため、平成24年10月、全学組織として「弘前大学ボランティアセンター」が設置された。その後、令和2年4月の組織再編により弘前大学地域創生本部に統合、「弘前大学地域創生本部ボランティアセンター」として設置され、学生主体のボランティア活動を実施している。



(弘前大学地域創生本部ボランティアセンターURL) <https://huvic.net/>

### (1) 学生登録者数、参画人数

#### ① ボランティアセンター参加登録者数

所属学部等	参加登録者数 (人)							計
	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	その他	
人文社会科学部	24	35	41	47	-	-	-	147
教育学部	14	22	36	25	-	-	-	97
医学部医学科	10	20	6	4	2	2	-	44
医学部保健学科	42	24	11	10	-	-	-	87
医学部心理支援学科	2	1	0	0	-	-	-	3
理工学部	21	22	24	29	-	-	-	96
農学生命科学部	15	14	22	10	-	-	-	61
その他 (大学院生等)	-	-	-	-	-	-	10	10
計	128	138	140	125	2	2	10	545

#### ② ボランティアセンター活動参画人数

区分	活動回数	参画人数 (人)					計
		教職員	学生	一般	講師等	児童	
学外から派遣要請	63回	3	171	102	108	265	649
野田村支援交流活動	2回	6	10	-	4	10	30
市民ボランティア講座等	4回	15	10	-	16	-	41
学習支援活動	41回	43	97	21	45	113	319
オンライン学習支援	42回	46	78	24	10	260	418
その他	13回	16	90	-	3	4	113
計	165回	129	456	147	186	652	1,570

## (2) ボランティアセンターの活動

### ①野田村支援交流活動

東日本大震災によって甚大な被害を受けた岩手県九戸郡野田村へ、震災直後から支援活動を開始したことを機として、現在も継続して支援交流活動を行っており、野田村の東日本大震災追悼行事や、小学生対象のクリスマス会に、本学の教員・学生が参加している。

#### i) 野田村クリスマス会

令和4年12月24日、野田村総合センターにおいて「野田村クリスマス会」を開催した。弘前市内のストリートダンススタジオFUNKY STADIUMのインストラクターによるダンスレッスンや弘前大学生とのスノードームづくりが行われ、参加した野田村の児童は実際にダンスや工作にチャレンジするなど交流を図った。野田村の児童10人、弘前大学の学生6人、教員1人の計17人が参加した。



スノードーム作りに挑戦する児童

#### ii) 東日本大震災追悼行事への参加及びオンライン配信

令和5年3月11日、「野田村はたてんぼうだい」で開催された東日本大震災追悼行事に弘前大学の学生4人、教員1人の計5人が出席した。また、弘前市民を対象として、追悼行事の様子がパブリックビューイングで生中継配信され、約16人の学生・弘前市民が視聴した。



追悼行事会場での学生の様子

### ②市民ボランティア講座・活動報告会

弘前市民や弘前大学の学生・教職員を対象として、様々なテーマによるボランティア講座を年数回開催している。また、毎年3月にはボランティアセンターの活動を振り返り、市民の方々と来年度の活動や今後必要となる活動、地域課題について意見交換を行う活動報告会を開催している。

#### i) 第1回市民ボランティア講座

令和4年9月10日、「広げよう！子どもの居場所！子どもの居場所づくり実践研修会」をテーマとして弘前大学人文社会科学部多目的ホール及びオンライン配信のハイブリッド形式により開催され、約30人が参加した。当日は、認定NPO法人全国こども食堂支援センターむすびえ理事長 湯浅 誠 氏による行政サービスとは違う視点での居場所づくりや多世代交流の機会づくりの重要性に関する基調講演が行われ、引き続き



李センター長による弘前市における子どもの居場所づくりの現状及び今後の課題に関する講演が行われた。

最後に、講師2人と一般社団法人みらいねっと弘前代表理事 鹿内 葵 氏の3人によるシンポジウムが行われ、シンポジスト・参加者双方でよりよい子どもの居場所をつくるために必要なことを真剣に考える時間となった。

## ii) 第2回市民ボランティア講座

令和4年11月26日、弘前大学大学会館において、「避難所運営訓練」をテーマとして開催し、弘前市民・学生など34人が参加した。本講座は3部構成で行われ、第1部のオリエンテーションでは、一般社団法人男女共同参画地域みらいねっと代表理事 小山内世喜子 氏から、男女共同参画の視点からの避難所運営に関する説明があった。第2部では、コロナ禍における避難所受入のデモンストレーションと簡易トイレなどの防災用品の紹介が行われた。班別訓練では、実際に避難所づくりに使われるテントやパーテーション、段ボールベッド等を組み立て、避難所運営のためのスペースづくりを体験した。第3部では、設営された各スペースの見学と各班による設営の感想発表を行った。



## iii) 第3回市民ボランティア講座

令和5年2月18日、弘前大学人文社会科学部多目的ホールにおいて、「子どもの権利条例」～青森市子どもの権利擁護委員に聞く～のテーマで実施し、弘前市民・学生など18人が参加した。

第1部では北里大学獣医学部教授・弘前大学名誉教授 宮崎 秀一 氏、弘前大学大学院教育学研究科教授 小林 央美 氏、沼田法律事務所弁護士 沼田 徹 氏の3人により、青森市子どもの権利条例や青森市子どもの権利擁護委員の活動に関する講演が行われた。第2部では李センター長をコーディネーターとして子どもの権利条例への期待と可能性、そして課題をテーマにパネルディスカッションが行われ、参加者が子どもの権利を尊重した子どもとの関わり方について考える機会となった。



## iv) 弘前大学地域創生本部ボランティアセンター活動報告会

令和5年3月10日、ヒロロ4階弘前市民文化交流館ホール（弘前市）及びオンライン配信のハイブリッド形式により開催し、弘前市民・学生など37人が参加した。報告会は、令和4年8月大雨災害支援に関する活動報告と、その他のボランティアセンター活動報告の2部構成で実施した。



第1部では、青森中央学院大学経営法学部准教授 中村 智行 氏、弘前市農林部りんご課長 澁谷 明伸 氏及び弘前大学学生2人から活動報告があり、李センター長をファシリテーターとしたパネルディスカッションが行われた。第2部では、弘前大学地域創生本部ボランティアセンターの学生4人が、令和4年度の活動についてそれぞれ発表した。



### ③学習支援活動（あっぷる〜む）

生活困窮世帯の中学生・高校生を対象として、弘前大学学生会館において、毎週水曜日（16:45～19:00）に対面式で学習支援を実施した。各回3人程度の中学生を対象に、弘前大学地域創生本部ボランティアセンターの学生1～4人が学習支援を行った。

### ④オンライン学習支援（Zoomおんらin）

大学生と一緒に勉強がしてみたい小・中学生を主な対象として、Zoomを用いてオンライン上で一緒に勉強を行う「Zoomおんらin」を毎週水曜日（16:30～19:00）に実施した。各回、7人程度の小・中学生を対象に、弘前大学地域創生本部ボランティアセンターの学生1～2人が学習支援を行った。

The image shows two promotional posters. The left poster is for 'Zoomおんらin' (Zoom On-line Learning) and the right poster is for 'Zoomおんらin' (Zoom On-line Learning) with a focus on recruitment.

**Zoomおんらin (Left Poster):**

- オンライン共同学習会
- 学ぼう! Zoomおんらin
- 9月の毎週水・金曜日 16:30～19:00
- Zoom利用料無料
- TEL: 0172-39-3268 FAX: 0172-34-5251

**Zoomおんらin (Right Poster):**

- オンライン共同学習会
- “学ぼうZOOM おんらIN”
- 学習支援ボランティア 大募集中!!
- 毎週水・金曜日 16:30～19:00 (毎日前夜降臨)
- 小・中・高校生へのZOOMを用いたオンライン学習支援
- 学習支援の向上、サポート、指導者づくり
- 位置対応のオンラインセッションあり
- ポスター別冊(英語) (リンク先)
- 連絡先: 地域創生本部ボランティアセンター TEL: 0172-39-3268 / hirace@hirasaki-u.ac.jp

### ⑤青森県警察サイバー防犯ボランティア委嘱状交付式

令和4年6月6日、弘前大学総合教育棟大会議室において、「弘前大学学生に対する青森県警察サイバー防犯ボランティア委嘱状交付式」が執り行われた。

委嘱を受けた5人の学生は、任期である令和5年3月31日までの期間、イベント内での青森県警察による情報モラル体験コンテンツの体験補助やネット上の有害情報の通報などを通して、インターネットやSNS、スマホアプリなどの危険性や被害にあった際の対処法などの広報活動やサイバー空間の安全を守るための取組を行った。



委嘱状交付式

## ⑥令和4年8月大雨災害支援活動

令和4年8月3日の大雨により、青森県内の多くの地域で甚大な被害が発生したが、弘前市では大雨による河川の増水に伴い、市内の一部のりんご園では泥水が流れ込む冠水被害を受けた。本センターは、弘前市の呼びかけを受け、冠水被害を受けた市内のりんご園で清掃ボランティアを行った。清掃ボランティアは8月から10月までの間、計16回行われ、弘前大学学生と教職員延べ116人が、りんご園に流れ着いたゴミの撤去や、落下した果実を拾うなどの作業を行った。



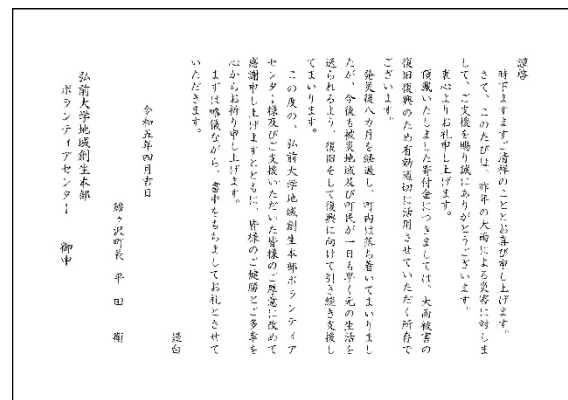
りんご園清掃ボランティアの様子

## ⑦令和4年8月大雨災害支援募金活動

▼募金総額 21,000円

(締日) 令和5年3月11日

▼募金先 鱒ヶ沢町



## ⑧除雪ボランティア

弘前市道路維持課と連携し、平成24年度から弘前市内の歩道、通学路等の除雪ボランティア活動を行っている。

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況や、積雪量、寄せ雪の状況により、令和5年2月12日午前、同日午後、2月18日午前の計3回活動を実施し、弘前大学地域創生本部ボランティアセンターの学生と教職員延べ21人が参加した。

地域創生本部ボランティアセンター×弘前市道路維持課

### 弘前市内歩道除雪ボランティア参加募集!

雪片つけ除として安心して歩ける歩道整備に協力してませんか？  
寒く寒い冬の季節の除雪不足解消にもなります！

1/28 (Sat)	活動時間 8:00~9:20 ※7:45 弘大正門前集合
2/12 (Sun)	除雪場所 青森銀行富田支店周辺
2/18 (Sat)	活動時間 15:10~16:10 ※14:50 弘大正門前集合
2/12 (Sun)	除雪場所 大槻小学校周辺

除雪ボランティアは50分程度です。長靴の貸出あり(先着順です)。  
1回だけの参加ももちろん歓迎いたします！  
不明な点についてはお気軽にボランティアセンターへお問い合わせください。  
※参加にはボランティアセンターへの登録が必要です。  
登録・エントリーはこちらから→

TEL: 0172-39-3288  
Email: huc@hiro6.ac.jp

## Ⅲ. サテライト

### 1. 八戸サテライト

青森県南地域において、本学の分室としての機能を果たし、本学と地域社会との密接な連携を図ることを目的として、平成14年6月、八戸地域地場産業振興センター4階に「弘前大学八戸サテライト」を設置した。平成19年11月には、八戸市庁舎に隣接する八戸商工会館1階に移転している。八戸サテライトには地域連携コーディネーター2人、事務補佐員1人が常駐し、広報活動（入試情報等）や産学官連携に関する相談、公開講座等の開催など、青森県南地域における弘前大学の窓口機能を担っている。



#### 【概要】

住 所：八戸市堀端町2の3 八戸商工会館1階

電話番号：0178-43-1600

E-mail：hachisate@hirosaki-u.ac.jp

URL：<https://chiiki.hirosaki-u.ac.jp/satellite/hachinohe/>

#### 【公開講座の実施】

##### i) 縄文セミナー

令和5年2月4日、八戸サテライトにおいて、公益財団法人シルバーリハビリテーション協会との共催により、縄文セミナー「縄文生活のリアルに迫る」を開催した。弘前大学人文社会科学部 上條 信彦教授を講師として「縄文生活のリアルに迫る」をテーマとした講演が行われた。来場及びオンライン参加により高校生、大学生、社会人など42人が受講し、持続可能な社会を実現するためのヒントを求め、いくつもの気候変動を経験してなお縄文文化を1万年以上維持した縄文人の知恵について学んだ。



##### ii) エネルギー講座

令和5年2月10日、八戸サテライトにおいて、公益財団法人シルバーリハビリテーション協会との共催により、エネルギー講座を開催した。弘前大学大学院理工学研究科 佐々木 一哉 教授を講師として「脱炭素社会とリチウム回収」をテーマとした講演が行われた。来場及びオンライン参加によりエネルギー環境経済、貯蔵・輸送に関する技術を擁する一般企業などから27人が受講し、リチウム資源の需要や回収技術の課題、佐々木教授の研究内容等を通して、今後の青森県内の産業における可能性について学んだ。



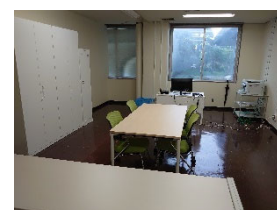
## 2. 青森サテライト

青森地域において、本学の分室としての機能を果たし、本学と地域社会との密接な連携を図ることを目的として、令和4年10月、青森市柳川庁舎1階に「弘前大学青森サテライト」を設置した。青森サテライトには地域連携コーディネーター1人が常駐し、広報活動（入試情報等）や産学官連携に関する相談など、東青・上十三地域における弘前大学の窓口機能を担っている。



### [概要]

住 所：青森市柳川2-1-1 青森市柳川庁舎1階  
 電話番号：017-766-3500  
 E-mail：aosate@hirosaki-u.ac.jp  
 URL：<https://chiiki.hirosaki-u.ac.jp/satellite/aomori/>

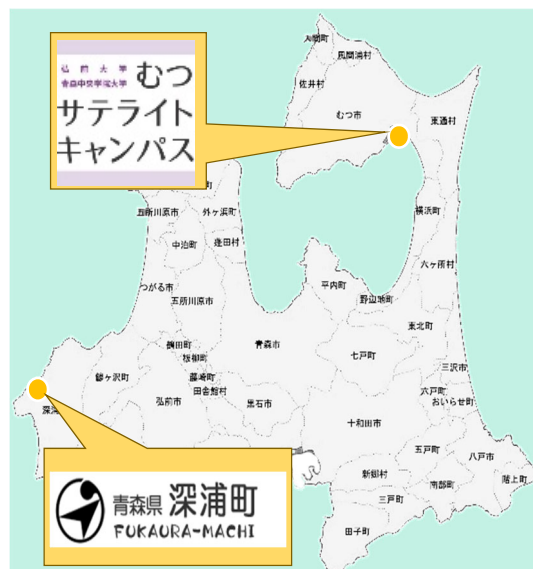


## 3. サテライトキャンパス

自治体との連携協定に基づき、自治体が事務局を担い、地域の活性化に資する事業を展開することを目的として、まち全体をキャンパスと見立てた大学固有の施設を有しないバーチャル型のサテライトキャンパスを設置している。

むつ市には青森中央学院大学と共同で「むつサテライトキャンパス」を平成27年3月に開設。深浦町には「深浦エコサテライトキャンパス」を平成28年5月に開設している。

各サテライトキャンパスにおいて、公開講座を実施するとともに、「滞在型学習支援事業」として地域に滞在して現地住民と交流を図りつつ、地域の発展に取り組む教員・学生の活動費を支援している。



### [むつサテライトキャンパスにおける事業]

#### ①むつサテライトキャンパス公開講座

実施日	内 容	受講者
7月22日	テーマ：食育健康講座 お魚のタンパク質と油で身体も頭もしなやかに 会 場：来さまい館（むつ市） 講 師：弘前大学農学生命科学部 准教授 前多 隼人 料理研究家 坂本 謙二	30人



8月21日	テーマ：ジオパーク講座 津軽海峡の成り立ち 会場：まさかりプラザ（むつ市） 講師：弘前大学大学院理工学研究科 講師 根本 直樹	23人
8月24日	テーマ：食育健康講座 米の健康栄養機能を考える 会場：来さまい館（むつ市） 講師：弘前大学名誉教授 加藤 陽治 料理研究家 坂本 謙二	14人
9月21日	テーマ：食育健康講座 トマトの健康栄養機能を考える 会場：来さまい館（むつ市） 講師：弘前大学名誉教授 加藤 陽治 料理研究家 坂本 謙二	21人
10月19日	テーマ：食育健康講座 リンゴを食べると本当に健康になる？ 会場：蛭名川コミュニティセンター（むつ市） 講師：弘前大学農学生命科学部 准教授 前多 隼人 料理研究家 坂本 謙二	17人
10月11日	テーマ：ジオパーク講座 温帯多雪域の樹木の季節対応 会場：まさかりプラザ（むつ市） 講師：弘前大学農学生命科学部 教授 石田 清	13人
3月18日	テーマ：『若者×若者』教養講座 会場：下北文化会館（むつ市） 講師：弘前大学医学部附属病院 事務職員 北村 隆雄	13人
3月19日	テーマ：観光講座 会場：下北文化会館（むつ市） 講師：弘前大学人文社会科学部 教授 森 樹男	16人

## ②滞在型学習支援事業の対象となった取組

本事業は、「むつサテライトキャンパス」において、恵まれた自然や魅力ある歴史・文化について、滞在して地域と交流しながら学び、また、地域課題へ対応し、地域社会の発展に取り組む教職員・学生に対し、現地における活動が円滑に行われるようサテライトキャンパスの利用及び学術活動を一体的に支援することを目的とし、実施経費及び滞在時費用（宿泊費）の一部を助成するものである。

令和4年度は、6件の滞在型学習の実施経費及び延べ158人の宿泊費を助成した。

実施日	内容	参加者
6月3日 ～6月4日	担当教員：弘前大学人文社会科学部 教授 黄 孝春 取組名：下北水産物のブランド化に関するフィールドワーク	教員 2人 学生 6人
9月8日 ～9月10日	担当教員：弘前大学教育学部 准教授 越村 康英 取組名：教育科学演習フィールドワーク inむつ市	教員 6人 学生 7人
9月13日 ～9月14日	担当教員：弘前大学教育学部 教授 長南 幸安 取組名：小学校児童を対象とした理科教育増進活動	教員 3人 学生 5人
9月26日 ～9月27日	担当教員：弘前大学人文社会科学部 教授 加藤 恵吉 取組名：むつ市の自治体及び第3セクター企業の調査と会計スキルの向上合宿	教員 1人 学生 6人
9月28日 ～9月30日	担当教員：弘前大学理工学研究科 教授 折橋 裕二 取組名：下北半島（下北ジオパーク）を対象とした野外実習	教員 4人 学生 21人

11月19日 ～11月20日	担当教員：弘前大学理事（社会連携担当） 石川 隆洋 取組名：むつ下北未来創生キャンパス祭	教員 6人 学生 49人
-------------------	---	-----------------

※ 滞在型学習支援事業（むつ市）による補助

- ・実施経費に対する補助 上限30,000円/件
- ・宿泊費に対する補助 3,000円/泊・人
- ・自治体所有の公用バス等による送迎及び現地での移動支援

### ③むつ下北未来創生キャンパス祭

むつ市内にキャンパスを有する青森明の星短期大学及び青森大学と、特定の建物を持たずにむつ下北地域の全フィールドをむつサテライトキャンパスとして展開する弘前大学及び青森中央学院大学が、むつ下北地域の若者による賑わい創出を目的に、むつ市と共同で、令和4年11月20日、下北文化会館で「むつ下北未来創生キャンパス祭」を開催した。

当日は弘前大学のストリートダンスサークルA. C. Tから約60人、他3大学の学生と合わせて総勢約150人の学生がステージパフォーマンスや展示ブース&体験ブースによりむつ下北地域の住民と交流し、延べ約2,000人が訪れ大盛況であった。



ステージ発表



体験ブース（ダンス教室）

## [深浦エコサテライトキャンパスにおける事業]

### ①深浦エコサテライトキャンパス公開講座

実施日	内容	受講者
10月4日 (予定)	テーマ：深浦の開拓地の記憶―戦後を切り拓いた人びと― 会場：深浦町役場文化ホール 講師：弘前大学教育学部 教授 高瀬 雅弘  ※大雨災害のため、令和5年度に延期	

### ②滞在型学習支援事業の対象となった取組

本事業は、「深浦エコサテライトキャンパス」において、恵まれた自然や魅力ある歴史・文化について、滞在して地域と交流しながら学び、また、地域課題へ対応し、地域社会の発展に取り組む教職員・学生に対し、現地における活動が円滑に行われるようサテライトキャンパスの利用及び学術活動を一体的に支援することを目的とし、実施経費及び滞在時費用（宿泊費）の一部を助成するものである。

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により中止となった。

※ 滞在型学習支援事業（深浦町）による補助

- ・実施経費に対する補助 上限30,000円/件
- ・宿泊費に対する補助 2,500円/泊・人
- ・自治体所有の公用バス等による送迎及び現地での移動支援

## IV. 各学部・研究科等における公開講座等の実施状況

### 1. 実施件数・参加人数

#### 令和4年度

実施部局等	実施件数	延べ参加人数
人文社会科学部	8 件	645 人
教育学部	23 件	1,926 人
農学生命科学部	1 件	59 人
大学院医学研究科	1 件	40 人
大学院保健学研究科	10 件	632 人
大学院理工学研究科	8 件	532 人
大学院地域社会研究科	2 件	477 人
大学院地域共創科学研究科	1 件	159 人
医学部附属病院	8 件	278 人
被ばく医療総合研究所	1 件	43 人
地域戦略研究所	1 件	39 人
国際連携本部	1 件	24 人
地域創生本部	16 件	1,049 人
教育推進機構	7 件	396 人
研究・イノベーション推進機構	2 件	132 人
男女共同参画推進室	2 件	35 人
大学コンソーシアム学都ひろさき	2 件	130 人
計	94 件	6,566 人

## 2. 公開講座等一覧

講座担当：人文社会科学部

### 地域未来創生塾@中央公民館

開催日	①令和4年10月12日 ②令和4年10月26日 ③令和4年11月9日 ④令和4年11月24日 ⑤令和4年12月14日 ⑥令和5年1月11日 ⑦令和5年1月25日 ⑧令和5年2月8日 ⑨令和5年2月21日 ⑩令和5年3月9日
主催・共催	【主催】弘前大学人文社会科学部地域未来創生センター 【共催】弘前市教育委員会
会場・対象 参加人数	【会場】ヒロロ3階 弘前市民文化交流館ホール（弘前市）とオンラインのハイブリッド開催 【対象】弘前市及び近隣にお住まいの高校生・一般の方 【参加人数】124人
講師	①弘前大学人文社会科学部 助教 中野 顕正 ②弘前大学人文社会科学部 准教授 金目 哲郎 ③弘前大学人文社会科学部 助教 商 哲 ④弘前大学人文社会科学部 助教 高内 悠貴 ⑤弘前大学人文社会科学部 助教 松井 歩 ⑥弘前大学人文社会科学部 助教 伊藤 健 ⑦弘前大学人文社会科学部 准教授 花田 真一 ⑧弘前大学人文社会科学部 准教授 吉村 顕真 ⑨弘前大学人文社会科学部 准教授 白石 壮一郎 ⑩弘前大学人文社会科学部 教授 飯島 裕胤
内容	「持続的で豊かな地域創造」をテーマとする。人口減少に伴う様々な地域課題の対策や地域文化資源の有効利用策、地域の防災・減災などを模索するため、地域の皆さまと弘前大学人文社会科学部の教員が講義形式で学びを深める。

### 国際公開講座2022「日本を知り、世界を知る」知のダイバーシティを育む人文学

開催日	令和4年11月3日
主催・共催	【主催】弘前大学人文社会科学部地域未来創生センター
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学人文社会科学部多目的ホール 【対象】一般の方 【参加人数】30人
講師	弘前大学人文社会科学部 准教授 新永 悠人 弘前大学人文社会科学部 准教授 葉山 茂 弘前大学人文社会科学部 教授 今井 正浩
内容	「過去と向き合う人文学—その未来を見通す力—」をテーマとして、弘前大学における多彩な「人文学」研究を3人の教員が紹介する。日本と世界各地の文化や歴史について、最新の研究成果に基づき、地域の皆さまにわかりやすく伝える。

### シンポジウム「裁判員裁判に「経験」が及ぼす影響」

開催日	令和4年11月19日
主催・共催	【主催】弘前大学人文社会科学部地域未来創生センター
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学人文社会科学部多目的ホールとオンラインのハイブリッド開催 【対象】一般の方 【参加人数】55人
講師	北里大学獣医学部 教授 宮崎 秀一 青森裁判所 寺尾 亮 専修大学法学部 教授 飯 考行 桃山学院大学法学部 准教授 河野 敏也
内容	裁判員の就任可能年齢が18歳に引き下げられ、問題点も指摘されている。一方で、現状ではほとんどの裁判員は一度だけの経験であり、経験の蓄積が判断に影響しないという点では大きな違いはないのではないかと疑問もある。「経験」には様々な経験がある。学校教育で裁判員制度について学習したことも「経験」と言え、人生の中で様々な積み上げられていくことも「経験」と言えるかもしれない。そこで、裁判員にとってどのような「経験」が必要なのか、様々な「経験」はどのように裁判員の判断に影響するのか、来場者の皆さまと一緒に考える。

### フォーラム「データサイエンスで除雪を科学する」

開催日	令和4年12月16日
主催・共催	【主催】弘前大学人文社会科学部地域未来創生センター
会場・対象 参加人数	【会場】オンライン 【対象】一般の方 【参加人数】30人
講師	静岡大学 客員准教授 大友 翔一 弘前市建設部 相馬 孝康
内容	地球温暖化に伴う異常気象で豪雪と暖冬が不規則に現れたり、一部の地域のみには豪雪が集中するなど、事前の予測がほぼ不可能になっている。また、急速な人口減少により空き家や空き地が増している。 このような状況で、一人暮らしの高齢者や空き家・空き地が大幅に増えると、除されない雪により、通学路が途切れたり、生活道路がふさがれるなど、社会機能が維持できなくなる負の外部性が生じるため、除雪を地域社会全体で助け合う仕組みを模索することが急がれる。効率的な除雪と快適な冬季の住民生活を維持するため、除雪を科学することが必要不可欠と言える。 本フォーラムでは最先端のデータサイエンスを用いて、除雪に関する諸問題を可視化し、その解決策を模索する。

### 公開講座裁判官の仕事・保護観察官の仕事～成年年齢の変更と少年法改正で変わること～

開催日	令和4年12月17日
主催・共催	【主催】専門家集団「らの会」 弘前大学人文社会科学部地域未来創生センター
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学人文社会科学部多目的ホール 【対象】一般の方 【参加人数】47人
講師	青森裁判所 寺尾 亮 青森保護観察所 田上 誠章

内 容	広く一般市民に向け、裁判官や保護観察官の話を直接聞くことで、司法や更生保護を身近に感じてもらい、地域の一員として考える機会となる公開講座を開催する。
-----	--

### 消費者フォーラム in HIROSAKI

開催日	令和5年1月21日
主催・共催	【主催】弘前大学人文社会科学部 弘前大学教育学部 青森県消費者協会
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学創立50周年記念会館みちのくホール 【対象】一般の方 【参加人数】217人
講 師	青森市立浪岡北小学校 校長 大賀 重樹 青森中央学院大学経営法学部 菊池 晃
内 容	地域連携の実践の場として消費者教育の推進に寄与することを目的とする。 令和4年度は、小学校におけるSDGs実践についての基調講演、大学生のサポートによる中高生の「消費者市民社会に実現に向けた探究活動」の発表、大学生が消費者教育の担い手となった体験から学んだ成果の発表などを行う。

### 地域未来創生センターシンポジウム

開催日	令和5年1月21日
主催・共催	【主催】弘前大学人文社会科学部地域未来創生センター
会場・対象 参加人数	【会場】オンライン 【対象】一般の方 【参加人数】125人
講 師	木村興農社 木村 秋則 関野農園 関野 幸生 谷農園 渋谷 正和 小黒農場 小黒 裕一郎
内 容	自然栽培法による農業を実践し、その経営がビジネスとして成り立っている農業者・農業法人組織及びその取り組みを支援する地域の関係者が発表を行う。 このような取り組みや成果を発表することで、自然栽培に携わる関係者及び関心のある方々と情報を共有する機会とし、農業関係者、研究者、その他の参加者の知見や関心を深める。

### フォーラム「地域未来創生センターの挑戦！！」－産官学による持続可能な地域連携をめざして－

開催日	令和5年2月17日
主催・共催	【主催】弘前大学人文社会科学部地域未来創生センター
会場・対象 参加人数	【会場】弘前市民文化交流館ホール 【対象】一般の方 【参加人数】17人

講 師	<p>中泊町博物館長 齋藤 淳          NPO法人岡山県木村式自然栽培実行委員会 理事長 高橋 啓一          弘前圏域移住・交流デザイナー 兼 総務省地域おこし協力隊レポートデスク 野口 拓郎</p>
内 容	<p>弘前大学人文社会科学部地域未来創生センターは、地域の諸課題を人文社会科学の視点に立って検討し、その解決策を組織的に研究することや、文化資源とその有効活用を通して、地域社会の発展に貢献することを目的として、2014年4月に設置された。設置以来、人口減少問題に焦点を当て、様々なアプローチで地域社会に向き、調査・研究・教育活動を展開している。</p> <p>本フォーラムでは、人文社会科学系の地域センターを核として積極的に事業を展開している研究プロジェクトの研究成果を共有し、意見交換を通して、人文社会科学系地域センターのアプローチの課題と今後の方向性を議論する。</p>

**充実期研修講座**

開催日	令和4年4月～11月 集合研修は7月26日、11月24日
主催・共催	【主催】弘前大学教職大学院 【共催】青森県教育委員会
会場・対象 参加人数	【会場】オンライン（Zoom）オンデマンド 弘前大学創立50周年記念会館岩木ホール、研修室 【対象】教員、教職大学院生 【参加人数】260人
講師	弘前大学大学院教育学研究科 教授 吉田 美穂 弘前大学大学院教育学研究科 教授 菊地 一文 弘前大学大学院教育学研究科 教授 中野 博之 弘前大学大学院教育学研究科 教授 宍倉 慎次 弘前大学大学院教育学研究科 教授 天坂 文隆 弘前大学大学院教育学研究科 教授 甲田 隆 弘前大学大学院教育学研究科 教授 三戸 延聖 弘前大学大学院教育学研究科 准教授 桐村 豪文 弘前大学大学院教育学研究科 助教 若松 大輔
内容	30代後半から40代の教員を対象とした長期開講の講座。オンデマンドによるガイダンス、講座配信、勤務校でのワークを踏まえたオンライン協議、2回の集合研修、アクション・プランの計画・実施・報告と、オンラインでのコンサルテーションで構成し、充実期に求められる「マネジメント力」、「指導力」の育成を図る。

**オンライン連続講座「特別支援教育」を知ろう！学ぼう！**

開催日	①第1回：令和4年5月14日 ②第2回：令和4年5月28日 ③第3回：令和4年6月11日
主催・共催	【主催】弘前大学教育学部特別支援教育専攻
会場・対象 参加人数	【会場】オンライン 【対象】高校生 【参加人数】44人
講師	弘前大学教育学部 准教授 天海 丈久 弘前大学教育学部 教授 増田 貴人 弘前大学教育学部 講師 中山 忠政
内容	高校生を対象としたオンライン連続講座。 特別支援学校の先生の仕事や、特別支援教育専攻の学生はどんな勉強をしているかなどについて紹介。

**指導主事研修会**

開催日	令和4年7月9日
主催・共催	【主催】弘前大学教職大学院 【共催】青森県教育委員会
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学教育学部中教室／八戸ユートリー4階第4研修室（八戸市） 【対象】指導主事 【参加人数】40人



講 師	弘前大学大学院教育学研究科 教授 中野 博之 弘前大学教育学部附属中学校 校長 伊藤 隆
内 容	指導主事を対象とし、「学校現場にどう助言し関わるか」についての講義・演習、指導主事経験者による講演「学校現場と共に歩む指導主事として」、指導主事としての役割や可能性について語り合う協議等で構成した研修会。2会場をオンラインで結び、展開。

#### 中堅教諭資質向上研修（後期）代替講座

開催日	①令和4年8月9日 ②令和4年9月22日
主催・共催	【主催】弘前大学教職大学院
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学教育学部305教室 【対象】教員、教職大学院生 【参加人数】20人
講 師	弘前大学大学院教育学研究科 教授 吉田 美穂 弘前大学大学院教育学研究科 教授 菊地 一文 弘前大学教職大学院修了生
内 容	青森県中堅教諭資質向上研修の代替講座として「学校を活性化する！協働ワークショップ」を実施。

#### 令和4年度弘前大学免許法認定講習

開催日	令和4年8月18日～19日 令和4年9月3日～4日 令和4年10月15日～16日 令和4年11月19日～20日 令和4年12月26日～27日 令和5年1月21日～22日
主催・共催	【主催】弘前大学教育学部
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学 【対象】小学校教諭普通免許状取得後、小学校（特別支援学校小学部を含む）における教諭又は講師（ただし非常勤の講師を除く）として3年以上の実務経験を有し、中学校教諭二種免許状（外国語（英語））を取得しようとする者 【参加人数】27人
講 師	弘前大学教育学部 教授 野呂 徳治 弘前大学教育学部 准教授 佐藤 剛 弘前大学教育学部 講師 近藤 亮一 弘前大学教育学部 講師 土屋 陽子 弘前大学教育学部 助教 吉崎 聡子 弘前学院大学文学部 教授 Edward Forsythe 弘前医療福祉大学 非常勤講師 荒田弘美マクマナス
内 容	小学校外国語教科化に対応した専門性向上のため、免許法認定講習を実施。

### 教職大学院公開セミナー

開催日	①令和4年8月20日 ②令和4年9月17日 ③令和4年11月12日
主催・共催	【主催】弘前大学教職大学院
会場・対象 参加人数	【会場】オンライン (Zoom) 【対象】教員、教職大学院生 【参加人数】134人
講師	①スクランブルエッグ事務局 柳田 創 ②弘前大学大学院教育学研究科 准教授 土岐 賢悟 ③弘前大学教育学部 助教 新川 広樹
内容	①「多様な性と子どもたち—学校のもつ可能性—」と題して、性的マイノリティへの学校現場の対応について講演・質疑応答 ②「授業のユニバーサルデザイン」と題して、「全員参加」の視点から考えられる授業づくりの発想や工夫について、講演・質疑応答 ③「ゲーム依存の子どもにどう接するか？」について、認知行動療法のテクニックを踏まえた講演・質疑応答

### 幼い子どもと保護者を対象にした消費者教育講座

開催日	令和4年9月25日
主催・共催	【主催】弘前大学教育学部家庭科教育学研究室(2)
会場・対象 参加人数	【会場】ヒロロ3階 多世代交流室2 (弘前市) 【対象】一般市民 (幼い子どもとその保護者) 【参加人数】18人
講師	弘前大学教育学部 卒業生 土井 たの 弘前大学教育学部 准教授 加賀 恵子
内容	研究室で開発した消費者教育教材「きみとタノシーの一日すごろく」を用いて、弘前市に住む幼い子どもとその保護者を対象に、親子で楽しく遊びながら消費者としての学びの機会を提供。

### 子どもの貧困対策ネットワーク会議

開催日	①令和4年10月23日 ②令和5年1月12日
主催・共催	【主催】青森県 青森県社会福祉協議会 弘前大学「子どもの貧困」をめぐる協働プロジェクト
会場・対象 参加人数	【会場】①ウェディングプラザアラスカ4階ダイヤモンド (青森市) ②弘前パークホテル4階フィオーレ (弘前市) 【対象】教育関係者、福祉関係者、学生、市民 【参加人数】165人

講 師	①弘前大学大学院教育学研究科 教授 吉田 美穂 弘前大学教育学部 准教授 越村 康英 一般社団法人男女共同参画未来ネット代表 小山内 世喜子 ②弘前大学教育学部 助教 松本 恵美 弘前大学大学院教育学研究科 教授 吉田 美穂 青森明の星短期大学子ども福祉未来学科長・教授 最上 和幸 一般社団法人男女共同参画未来ネット代表 小山内 世喜子
内 容	弘前大学「子どもの貧困」をめぐる協働プロジェクトによるコロナ下のひとり親家庭実態調査及びヤングケアラー調査を報告した上で、「困難を経験した若者の声を聴く」として、ヤングケアラー経験、虐待経験を有する2名の若者インタビュー動画を上映し、支援ケースに関わる教育・福祉の制度を解説した上で、「貧困やヤングケアラーに気づくには？支えるには？」をテーマにワールドカフェを実施。

### 弘前大学教育学部附属四校園公開研究会

開催日	令和4年11月5日
主催・共催	【主催】弘前大学教育学部附属中学校・小学校・特別支援学校・幼稚園
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学附属小学校・中学校、ライブ配信、テレビ会議によるハイブリッド開催 【対象】教育関係者等 【参加人数】116人
講 師	東京都世田谷区立桜丘中学校 前校長 西郷 孝彦
内 容	「自ら考え 自律的に行動する子の育成」を研究テーマとした合同公開研究会。附属小学校・附属中学校を会場として、対面とライブ配信、テレビ会議によるハイブリッド型で実施。令和4年度は2回目となり、国語、理科、音楽の小・中学校の3教科に絞って、各教科の授業を対面とライブ配信で行い、研究協議会をテレビ会議で行うハイブリッド型で実施。

### 教員研修「サイエンス×アート・カフェ：教科横断のための話題提供と情報交換」

開催日	令和4年12月10日
主催・共催	【主催】弘前大学教育学部
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学創立50周年記念会館会議室2 【対象】教育関係者 【参加人数】5人
講 師	弘前大学教育学部 准教授 出 佳奈子 弘前大学教育学部 准教授 島田 透 弘前大学教育学部 准教授 山本 稔 弘前大学教育学部 准教授 朝山 奈津子
内 容	令和4年7月1日、教員免許更新制は発展的に解消された。これに伴い、弘前大学教育学部ではその後継である『新たな教師の学び』として、教員のための研修活動を新たに企画。教科横断のための話題提供と情報交換。 テーマ：美術：金属と権力 理科：金属と電子 数学：調和を見るハーモノグラフの紹介 音楽：調和を聴く平均律と短調

### 教員を目指す高校生のためのセミナー

開催日	①令和4年12月17日 ②令和5年3月18日 ③令和5年3月19日
主催・共催	【主催】弘前大学教育学部
会場・対象 参加人数	【会場】①弘前大学構内 ②ユートリー（八戸市） ③青森県観光物産館アスパム（青森市） 【対象】高校生 【参加人数】139人
講師	①弘前大学教育学部長 福島 裕敏 弘前大学教育学部 准教授 田中 拓郎 つがる市立稲垣中学校 木村 賢也 ②弘前大学教育学部長 福島 裕敏 弘前大学教育学部 准教授 佐藤 剛 八戸市立西園小学校 佐々木 柁斗 ③弘前大学教育学部長 福島 裕敏 弘前大学教育学部 准教授 大谷 伸治 青森市立大野小学校 齋藤 綾乃
内容	教育・教職について理解を深めていただくために、高校1、2年生を対象とした「教員を目指すためのセミナー」を弘前市、八戸市、青森市で開催。本学教育学部教員による講義・演習の他、現場教員による講話をとおして、教員の魅力や生きがいなどの情報を提供。生徒からの質問に対し、回答を教育学部ホームページで公開。

### 教員研修「道徳科授業 UPGRADE プログラム」

開催日	①令和4年12月28日 ②令和5年3月27日
主催・共催	【主催】弘前大学教育学部
会場・対象 参加人数	【会場】八戸市総合福祉会館「はちふくプラザねじょう」大会議室 【対象】教育関係者 【参加人数】14人
講師	弘前大学教育学部長 福島 裕敏 弘前大学教育学部附属中学校 教諭 佐々木 篤史
内容	令和4年7月1日より教員免許更新制が発展的に解消されたことを受け、その後継となる『新たな教師の学び』として、教員のための研修活動を新たに企画。道徳科授業に関する研修プログラム。

### 2022年度美術科教育学会リサーチフォーラム in 東京・弘前

#### 第3回「『造形遊び』を捉える複数のまなざし—指針の形成に向けて—」

開催日	令和5年1月22日
主催・共催	【主催】弘前大学教育学部
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学教育学部1階中教室（定員：先着20名）とオンライン（定員：無し）のハイブリッド開催 【対象】学会員以外の方も参加可能 【参加人数】169人

講 師	<p>【セッション1】  滋賀大学 名誉教授 大嶋 彰  滋賀大学 教授 新関 伸也  滋賀大学 准教授 村田 透  弘前大学教育学部附属小学校 教諭・教務主任 八嶋 孝幸</p> <p>【セッション2】  信州大学 助教 大島 賢一  和光大学 講師 山下 暁子  筑波大学 助教 吉田 奈穂子  弘前大学 准教授 佐藤 絵里子</p>
内 容	<p>2022年度美術科教育学会リサーチフォーラム in 東京・弘前  「共に考える2030年代の美術科教育における『造形遊び』の意義」 (全3回)</p> <p>上記のうち、第3回「『造形遊び』を捉える複数のまなざし—指針の形成に向けて—」を弘前大学教育学部で開催。</p> <p>セッション1は、登壇者による即興的対話を重視し、「造形遊び」における現実の子ども姿に迫る。研究者、アーティスト、現場の教師による対話。セッション2は、4人の若手研究者の協働による、本会の総括と今後の美術科教育で重視すべきキーワードの策定の試み。</p>

### れんが倉庫美術館でアートボックスを作ろう！

開催日	令和5年1月29日
主催・共催	【主催】弘前大学教育推進機構
会場・対象 参加人数	【会場】弘前れんが倉庫美術館スタジオB (弘前市) 【対象】弘前市内小中学生と保護者 【参加人数】40人
講 師	弘前大学教育学部 准教授 出 佳奈子 弘前大学教育学部 准教授 朝山 奈津子 弘前れんが倉庫美術館 運営統括 小杉 在良
内 容	教養教育科目「キャリア・デザインアート・インターンシップ」の履修生を中心に企画・運営したアートボックスを制作するワークショップ。この授業と企画は弘前大学の履修証明プログラムである「アートワールドひろさき キュアプログラム」の一環でもある。

### アートボックスでオリジナル・ミニチュア美術館！

開催日	令和5年2月15日～20日
主催・共催	【主催】弘前大学教育推進機構
会場・対象 参加人数	【会場】弘前れんが倉庫美術館市民ギャラリー (弘前市) 【対象】市民一般 【参加人数】473人
講 師	弘前大学教育学部 准教授 出 佳奈子 弘前大学教育学部 准教授 朝山 奈津子 弘前れんが倉庫美術館 運営統括 小杉 在良
内 容	「れんが倉庫美術館でアートボックスを作ろう！」で制作した作品の展覧会

**【令和4年度 NITS・教職大学院コラボ研修】**  
**「ヤングケアラー」のために、今、大人ができること ～繋がり Well-being 社会を目指して～**

開催日	令和5年2月18日
主催・共催	【主催】弘前大学大学院教育学研究科教職実践専攻 [教職大学院] 院生企画部 【共催】独立行政法人教職員支援機構 (NITS)
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学教育学部2階大教室 (先着30人) とオンライン参加 (zoom) のハイブリッド開催 【対象】教育関係者、行政関係者、福祉関係者、本テーマに興味のある方等 【参加人数】40人
講師	弘前大学大学院教育学研究科 教授 吉田 美穂 弘前市立三省小学校 校長 小笠原 朋子 青森県立尾上総合高等学校スクールソーシャルワーカー 三上 富士子 青森県社会福祉協議会 葛西 裕美 グラフィックファシリテーター秋田ファシリテーション事務所 平元 美沙緒
内容	本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に行っている「ヤングケアラー」。子どもが子どもとしての時間を過ごすことができるように、社会は、大人はどのように繋がり、何をすべきか、3人のパネラーと一緒に考える。

**家庭科教員研修会**

**実践的・体験的活動を取り入れた家庭科授業づくりのヒント①**

**ゆで野菜のサラダとドレッシングのキッチンサイエンス**

開催日	令和5年2月18日
主催・共催	【主催】弘前大学教育学部家政教育講座
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学教育学部家庭科実験実習室 【対象】小・中・高家庭科担当教員 【参加人数】4人
講師	弘前大学教育学部 教授 安川 あけみ 弘前大学教育学部 准教授 加賀 恵子 弘前大学教育学部 講師 小野 恭子 弘前大学教育学部 助教 谷本 憂太郎
内容	①家庭科の学習方法の特質である実践的・体験的活動を通して授業を展開できるための、簡便な実験・実習の体験の場を提供する。 ②①の実験・実習を取り入れた題材計画やワークシートの提案を行い、授業づくりのディスカッションの場とする。

**弘大講義大人の数学**

開催日	①令和5年3月4日 ②令和5年3月25日
主催・共催	【主催】弘前大学教育学部
会場・対象 参加人数	【会場】①ユートリー5階視聴覚室 (八戸市) ②弘前大学教育学部2階大教室 【対象】高校生 【参加人数】20人
内容	弘前大学教育学部教員による数学好き高校生のための大学の講義。

## 文部科学省「多文化共生に向けた日本語指導の充実に関する調査研究」事業報告会

開催日	令和5年3月4日
主催・共催	【主催】弘前大学教育学部多文化リソースルーム 【共催】青森県教育委員会
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学教育学部2階大教室とオンラインのハイブリッド開催 【対象】教育関係者、地域支援者、学生、市民など または青森県など散在地域の「多文化共生の学校づくり」や「日本語指導の充実」に関心のある方 【参加人数】150人
講師	弘前大学大学院教育学研究科 教授 吉田 美穂 青森県教育委員会学校教育課 指導主事 淋代 秀樹 青森市教育委員会指導課 指導主事 鹿内 裕一 五所川原市三輪小学校 校長 會津 隆史 青森県立北斗高等学校 校長 坂上 佳苗 岩手大学国際教育センター 教授 松岡 洋子 青森大学総合経営学部 准教授 石塚 ゆかり 弘前大学教育学部多文化リソースルーム専門スタッフ 笹森 圭子 弘前大学教育学部多文化リソースルーム支援員 工藤 美由紀 (弘前大学教職大学院院生)
内容	<p>文部科学省「日本語指導が必要な児童生徒の受入状況等に関する調査（平成30年度）」によれば、日本語指導が必要な児童生徒は10年間で約1.5倍となり、増加が続いている。</p> <p>児童生徒の国籍では、日本国籍の児童生徒が10年で2.1倍に増え、外国籍児童生徒の国籍や母語も多様化する状況にある。一方、居住地域を見ると、集住化と散在化の傾向が併存しており、日本語指導が必要な児童生徒の教育支援には、地域による大きな格差が存在している。散在地域における日本語指導や多文化共生の教育の充実は喫緊の課題である。</p> <p>散在地域の状況に合った教育支援のしくみを構築するには、それらの地域において、日本語指導が必要な子どもが、家族の社会経済的な状況も含めてどのような環境に置かれ、学校でどのように過ごし学んでいるのか、学校はどのような困難を抱え支援ニーズを持っているのか、地域の支援資源の状況はどうなっているのか等を明らかにする基礎的な調査研究に関する取組の成果を報告する。</p>

## 木工教室

開催日	令和5年3月19日
主催・共催	【主催】弘前大学教育学部
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学教育学部4階美術教室 【対象】小学生3年生から大人 【参加人数】8人
講師	弘前大学教育学部 准教授 富田 晃
内容	青森県でとれる木（ひば、やまざくら、ほうのきetc）を使い、調理べらやしゃもじを作る。

### 若手教師のためのリフレクション第一歩

開催日	令和5年3月28日
主催・共催	【主催】弘前大学教育学部
会場・対象 参加人数	【会場】青森県総合学校教育センター（青森市） 【対象】校種問わず若手教師 【参加人数】20人
講師	弘前大学教育学部長 福島 裕敏 弘前大学教育学部 教授 宮崎 充治 弘前大学大学院教育学研究科 助教 若松 大輔
内容	若手教師のためのリフレクション第一歩として、以下内容を実施。 ・「省察」に関する講義 ・「省察」を促す方法の実演 ・「省察」を促す方法についての議論 ・今年の実践に対する「省察」

### 特別支援教育セミナー：障害について考えよう！

開催日	令和5年3月28日
主催・共催	【主催】弘前大学教育学部
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学教育学部1階中教室 【対象】高校生 【参加人数】20人
講師	弘前大学教育学部 准教授 天海 丈久
内容	障害による困難って何だろう？ 子供たちは、どんな苦勞をしているのだろうか？ 支援はどうすればよいのだろうか？ このセミナーで、様々な障害について体験し、考えてみよう！

### アートワールドひろさきキュアプログラム（履修証明プログラム）

主催・共催	【主催】弘前大学教育推進機構
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学 【対象】弘前大学グリーンカレッジ生
講師	弘前大学教育学部 教授 塚本 悦雄 弘前大学教育学部 准教授 出 佳奈子 弘前大学教育学部 准教授 朝山 奈津子 弘前大学人文社会学部 教授 宮坂 朋 弘前大学国際連携本部 准教授 諏訪 淳一郎 弘前大学 非常勤講師 小杉 在良 弘前大学 非常勤講師 三木 あき子 弘前大学 非常勤講師 藤井 さゆり 弘前大学 非常勤講師 石川 達紘 弘前大学 非常勤講師 小塩 さとみ 弘前大学 非常勤講師 舘 亜里沙 弘前大学 非常勤講師 森 功次 弘前大学 非常勤講師 袴田 麻祐子 弘前大学 非常勤講師 福田 裕美 弘前大学 非常勤講師 沼野 雄司



内 容	弘前市にアートサポーターを育て、弘前市近隣や青森県内外に発信する「アート（芸術）」の質を高める基盤を形成する。また、受講者がアートの必然性を理解し、みずから芸術享受の機会を求め、その内容を吟味するための自律した力を身につけることを目指すプログラム。履修期間は2年間で、必修科目4（120時間）、選択必修科目2（60時間）を受講する。令和4年度は第2期生が修了。
-----	--

講座担当：農学生命科学部

公開講座「リンゴを科学する」

開催日	令和5年1月9日
主催・共催	【主催】弘前大学農学生命科学部附属生物共生教育研究センター 【共催】藤崎町
会場・対象 参加人数	【会場】藤崎町文化センター3階多目的ホール 【対象】リンゴ生産者、リンゴ産業関係者、一般市民 【参加人数】59人
講師	弘前大学農学生命科学部 教授 泉谷 眞実 弘前大学農学生命科学部 教授 伊藤 大雄 弘前大学農学生命科学部 准教授 成田 拓未 弘前大学農学生命科学部 助教 林田 大志
内容	リンゴに関する最新情報の提供及び取組事例の紹介等

講座担当：大学院医学研究科

弘前大学大学院医学研究科「健康・医療講演会」 「脳卒中について知ろう」

開催日	令和4年11月5日
主催・共催	【主催】弘前大学大学院医学研究科 【共催】十和田市立中央病院、公益社団法人青森医学振興会
会場・対象 参加人数	【会場】十和田市立中央病院 【対象】一般市民の方 【参加人数】40人
講師	十和田市立中央病院 脳神経外科 診療部長 赤坂 健一 弘前大学大学院医学研究科脳神経外科学講座 教授 斉藤 敦志
内容	脳卒中に関する知識を正しく理解していただくための、専門の教員による一般向けの公開講座。 演題①「脳卒中と認知症～脳神経外科のかかわり～」 演題②「脳卒中治療の現場から」

令和4年度産業・情報技術等指導者養成事業（看護）

開催日	令和4年8月3日～5日
主催・共催	【主催】独立行政法人教職員支援機構から委託された事業
会場・対象 参加人数	【会場】Web (Zoom) 【対象】①各都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにこれに準ずる者 ②高等学校、中等教育学校又は中学校等（特別支援学校の高等部、中等部を含む）で産業教育を担当する教諭等 【参加人数】25人
講師	弘前大学大学院保健学研究科 教授 小倉 能理子 弘前大学大学院保健学研究科 教授 藤田 あけみ 弘前大学大学院保健学研究科 助教 土屋 涼子 弘前大学大学院保健学研究科 講師 會津 桂子 文部科学省初等中等教育局 教科調査官 高木 邦子 岡山県倉敷中央高等学校 指導教諭 藤原 恭子 埼玉県立総合教育センター 指導主事（指導相談担当） 池田 祐介 日本高等学校看護教育研究所 大橋 泰久
内容	学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術・情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を修得させ、各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言者等を養成することを目的としている。

被ばく医療研修

開催日	令和4年8月25日～26日
主催・共催	【主催】弘前大学大学院保健学研究科被ばく医療人材育成推進委員会被ばく医療教育研修部門
会場・対象 参加人数	【会場】Web (Zoom) 【対象】全国の看護職者・診療放射線技師 【参加人数】26人
講師	弘前大学大学院保健学研究科の教員
内容	被ばく医療や放射線に関する基礎的知識の習得、他職種との協働意識の向上を目的とした初学者が学びやすい入門的研修。講義や実践的な演習の他、放射線事故を想定した受け入れ医療処置に関わる机上演習を行い、学習者同士のディスカッションも準備している。

KIRAMS ジョイントセミナー

開催日	令和4年8月26日
主催・共催	【主催】韓国原子力医学院 弘前大学大学院保健学研究科
会場・対象 参加人数	【会場】Web (Zoom) 【対象】弘前大学大学院保健学研究科及び被ばく医療総合研究所の教職員と学生 【参加人数】30人

講 師	<Hiroasaki University> Dr. Yoko Saito Prof. Katsuhiko Ito Prof. Masahiro Hosoda Prof. Naofumi Akata Prof. Ikuo Kashiwakura Dr. Ikuo Kashiwakura <KIRAMS> Dr. Sunhoo Park Dr. Mihyung Yang Dr. Jaeryong Yoo Dr. Seungbum Lee Dr. Jungjin Kim Dr. Sunhoo Park
内 容	韓国原子力医学院（KIRAMS）との放射線科学・被ばく医療に関連したジョイントセミナー。

### 第7回放射線看護セミナー

開催日	令和4年10月15日
主催・共催	【主催】弘前大学大学院保健学研究科被ばく医療人材育成推進委員会放射線看護教育部門
会場・対象 参加人数	【会場】Web (Zoom) 【対象】放射線看護に興味・関心のある医療職者（先着200人程度） 【参加人数】217人
講 師	・弘前大学大学院保健学研究科 細川 翔太 ・弘前大学大学院医学研究科 放射線腫瘍学講座 教授 青木 昌彦 ・弘前大学医学部附属病院 がん放射線療法看護認定看護師 （弘前大学大学院保健学研究科放射線看護高度看護実践コース修了生） 佐藤 裕美子
内 容	放射線看護に携わる看護師のために放射線の基礎を分かりやすく解説するとともに、核医学における看護師の役割について最新の知見をまじえて理解を深める。

### 八戸市民公開講演会 「高齢者のがん治療」

開催日	令和4年10月22日
主催・共催	【共催】弘前大学大学院保健学研究科生体応答科学研究センター（特定プロジェクト教育研究センター） 青森労災病院
会場・対象 参加人数	【会場】対面（青森労災病院）とWeb（Zoom）のハイブリッド開催 【対象】八戸市民及び弘前市民 定員：会場20人／Web80人 【参加人数】54人
講 師	弘前大学大学院保健学研究科 細川 洋一郎 青森労災病院 副院長 がん診療センター長 真里谷 靖 青森労災病院 副院長 放射線診療科部長 伊神 勲 青森労災病院 師長 がん化学療法看護認定看護師 小清水 浩子

内 容	弘前大学大学院保健学研究科生体応答科学研究センター構成員 真里谷 靖氏との共催により、毎年放射線治療に特化したテーマで市民公開講演会を開催している。2022年度は「高齢者のがん治療」をテーマに「高齢者にみられる身体的変化」、「高齢がん患者に適する放射線治療」、「がんIVR」、「高齢がん患者への緩和ケア」の4つの講演を行う。
-----	--

### 2022年度放射線看護ベーシックトレーニング

開催日	令和4年11月5日
主催・共催	【共催】①弘前大学大学院保健学研究科放射線看護教育支援センター ②京都大学医学部附属病院総合臨床教育・研修センター ③京都大学医学部附属病院放射線部
会場・対象 参加人数	【会場】Web (Zoom) 【対象】看護職者・看護教育に関わる教育機関関係者 (先着100人) 【参加人数】64人
講 師	弘前大学大学院保健学研究科 助教 小山内 暢 弘前大学大学院保健学研究科 助教 寺島 慎吾 弘前大学被ばく医療連携推進機構災害・被ばく医療教育センター 助教 辻口 貴清
内 容	看護基礎教育において、放射線看護を担当する教員もしくは医療機関において放射線診療に関わる看護職の皆さまの放射線に関する知識・技術を充実させることを目的とした研修。講義とともに放射線測定器等を使って自然放射線や移動型エックス線撮影装置からの放射線などの測定演習を行い、放射線基礎・防護方策の理解促進を図る。

### ESRAH 2022

開催日	令和4年12月3日～4日
主催・共催	【主催】弘前大学大学院保健学研究科被ばく医療人材育成推進委員会グローバル人材育成推進部門
会場・対象 参加人数	【会場】Web (Zoom) 【対象】弘前大学大学院保健学研究科及び被ばく医療総合研究所の教職員と学生、北海道大学の学生、その他海外の関係機関の研究者 【参加人数】97人
講 師	Dr. Issariya Chairam (Office of Atoms for Peace, Bangkok, Thailand) Dr. Tibor Kovacs (Department of Radiochemistry and Radioecology University of Pannonia, Hungary) Dr. Yusuke Matsuya (Hokkaido University) Dr. Heru Prasetio (PRTKMMN, ORTN, BRIN, Indonesia)
内 容	大学院生が主体になって運営する国際シンポジウム。国際的に活躍できる人材育成を目的に平成20年頃から継続的に開催している。

### 災害看護の実践と教育～被災地の学びを教育へ～

開催日	令和5年1月24日
主催・共催	【共催】①令和4年度文部科学省教育研究組織改革分関連プロジェクト 弘前大学「複合災害に伴う課題解決のための教育プロジェクト」 ②弘前大学大学院保健学研究科被ばく医療人材育成推進委員会放射線看護教育部門

会場・対象 参加人数	<b>【会場】</b> Web (Zoom) <b>【対象】</b> 弘前大学医学部保健学科看護学専攻の学生、大学院生、看護教育に関わる教育機関関係者 <b>【参加人数】</b> 31人
講 師	災害看護専門看護師／福井大学学術研究院医学系部門 看護学領域 臨床看護学分野 助教 酒井 彰久
内 容	近年、過去に類を見ない甚大な被害をもたらす災害が多発し、さらに新型コロナウイルス感染症の流行により災害医療が対処すべき課題は複雑化・多様化している。今後起こりうる複合災害に対応するための人材育成が急務であり、弘前大学では令和4年度から文部科学省のプロジェクトで複合災害に関わる人材育成を進めている。この度は災害看護について学ぶ機会として被災地での実践と教育の実際について災害看護専門看護師が講義する。

#### 育児中の母親のためのリフレッシュ講座

開催日	①令和4年5月13日      ②令和4年6月20日 ③令和4年7月11日      ④令和4年8月4日 ⑤令和4年8月17日      ⑥令和4年9月1日 ⑦令和4年10月7日      ⑧令和4年10月14日 ⑨令和4年11月11日      ⑩令和5年1月5日 ⑪令和5年1月13日      ⑫令和5年2月3日      ⑬令和5年3月8日
主催・共催	<b>【共催】</b> 弘前大学大学院保健学研究科 ①②③⑤⑥⑦⑨⑩⑫弘前市駅前こどもの広場 ④⑪みどり保育園子育て支援センター ⑧中央公民館岩木館 ⑬大浦保育園子育て支援センター
会場・対象 参加人数	<b>【会場】</b> ①②③⑤⑥⑦⑨⑩⑫弘前市駅前こどもの広場 (弘前市) ④⑪みどり保育園 (弘前市) ⑧岩木児童センター (弘前市) ⑬大浦保育園 (弘前市) <b>【対象】</b> 育児中の母親 <b>【参加人数】</b> 58人
講 師	弘前大学大学院保健学研究科看護学領域 准教授 北島 麻衣子 弘前大学大学院保健学研究科看護学領域 助教 橋本 美亜 弘前大学大学院保健学研究科看護学領域 助教 高間木 静香
内 容	地域で子育てをしている母親を対象に、リフレッシュ講座を開催。この講座の実施により、地域で子育てをしている母親が心身ともに健やかに生活していくための一助とすること、ならびに講座の開催を通じて教育・知的資源を地域社会へ還元すると同時に地域社会から学ぶ機会とすることを目的としている。講座の内容は、精油を用いた制作体験（ハンドクリーム、エアーフレッシュナー、蜜蝋缶など）、子どもの看護や子育てに関する講話など、ニーズに合わせて講座内容を工夫しながら実施する。

#### 第4回RNECセミナー

開催日	令和5年3月6日
主催・共催	<b>【共催】</b> ①令和4年度文部科学省教育研究組織改革分関連プロジェクト 弘前大学「複合災害に伴う課題解決のための教育プロジェクト」 ②弘前大学大学院保健学研究科被ばく医療人材育成推進委員会放射線看護教育部門

会場・対象 参加人数	<p>【会場】弘前大学保健学研究科第33講義室とWebのハイブリッド開催</p> <p>【対象】弘前大学学生、教職員、台北医学大学学生</p> <p>【参加人数】30人</p>
講 師	台北医学大学看護学部 准教授 頼 甫誌
内 容	<p>「台湾での学部及び大学院教育における災害教育の方法」をテーマとして、「台湾における災害看護教育の歴史、看護基礎教育での災害看護の実際」と「台湾での大学院教育における災害看護教育の実践と将来展望」を講演いただき、国際的な視野で災害看護について学ぶ。</p>



## 夏休みの数学2022

開催日	①令和4年7月30日 ②令和4年7月31日
主催・共催	【主催】弘前大学大学院理工学研究科
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学工学部2号館2階第11講義室 弘前大学工学部2号館10階演習室 【対象】中学校、高校の数学担当教員、一般市民、高校生 【参加人数】106人
講師	弘前大学大学院理工学研究科 教授 守 真太郎 弘前大学大学院理工学研究科 准教授 立谷 洋平
内容	中学校や高等学校の数学の教科書に出てくる数学の世界のすぐ近くに面白い話題がたくさんあり、そのような数学の魅力の一端を高校生や一般の市民の方知ってもらう。

## 2022年度「化学への招待」弘前大学一日体験化学教室

開催日	令和4年8月6日
主催・共催	【主催】日本化学会東北支部 弘前大学大学院理工学研究科
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学工学部、教育学部、農学生命科学部 【対象】高校生（中学生・一般も可） 【参加人数】60人
講師	弘前大学大学院理工学研究科 准教授 君塚 道史 弘前大学大学院理工学研究科 教授 川上 淳 弘前大学大学院理工学研究科 准教授 北川 文彦 弘前大学大学院理工学研究科 准教授 野田 香織 弘前大学大学院理工学研究科 教授 阿部 敏之 弘前大学教育学部 教授 長南 幸安 弘前大学大学院理工学研究科 准教授 山崎 祥平 弘前大学大学院理工学研究科 助教 太田 俊 弘前大学大学院理工学研究科 教授 鷺坂 将伸 弘前大学大学院理工学研究科 教授 竹内 大介 弘前大学大学院理工学研究科 助教 呉羽 拓真 弘前大学大学院理工学研究科 教授 増野 敦信 弘前大学農学生命科学部 准教授 栗田 大輔
内容	先端科学・技術の一端を担う化学に興味を抱いてもらえるよう、中学・高校生を対象に開催。

## 宇宙物理学センター設置記念講演会

開催日	令和4年8月10日
主催・共催	【主催】弘前大学大学院理工学研究科
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学工学部第10講義室 【対象】弘前大学生、教職員、高校生、市民一般 【参加人数】75人

講 師	弘前大学大学院理工学研究科 教授 浅田 秀樹 弘前大学 名誉教授 倉又 秀一
内 容	「弘前大学大学院理工学研究科宇宙物理学研究センター」設置を記念して、国際的に注目されている最先端の宇宙研究などについて、高校生の皆さんにもわかりやすい内容で講演。

#### 青森地区・高分子学会東北支部講演会

開催日	令和4年9月20日
主催・共催	【主催】高分子学会東北支部 【共催】弘前大学大学院理工学研究科
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学理工学部第8講義室 【対象】高分子学会会員、大学教員・学生 【参加人数】31人
講 師	大阪大学大学院理学研究科 神林 直哉 北海道大学大学院先端生命科学研究院 李 响
内 容	「高分子が創り出す構造の解明と制御」をテーマに、第一線で活躍されている先生方が講演。

#### 有機合成化学協会東北支部青森地区講演会

開催日	令和4年11月4日
主催・共催	【主催】有機合成化学協会東北支部 【共催】弘前大学大学院理工学研究科
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学創立50周年記念会館 【対象】有機合成化学協会会員、大学教員・学生 【参加人数】72人
講 師	東北大学大学院理学研究科 教授 斎藤 理郎
内 容	有機合成化学のトピックスについて専門家が教育的視点から講義を行う。

#### 日本鉄鋼協会東北支部講演会

開催日	令和4年12月7日（水）
主催・共催	【主催】日本鉄鋼協会東北支部 【共催】日本金属学会東北支部 軽金属学会東北支部 弘前大学大学院理工学研究科
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学理工学部1号館第6講義室 【対象】日本鉄鋼協会会員、大学教員・学生、市民一般 【参加人数】40人
講 師	日本鉄鋼協会東北支部長 武藤 泉 東北大学 鈴木 茂 物質・材料研究機構 澤田 浩太 東北大学 西本 昌史 青森県産業技術センター 長谷川 諒、佐々木 正司
内 容	日本鉄鋼協会東北支部講演会地区講演会及び若手研究者フォーラム開催。

### 令和4年度東北地域自然災害科学研究集会

開催日	①令和4年12月26日 ②令和4年12月27日
主催・共催	【主催】自然災害研究協議会東北地区部会 日本自然災害学会東北支部 【共催】弘前大学大学院地域共創科学研究科
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学創立50周年記念会館 【対象】自然災害研究協議会東北地区部会会員、各自治体の防災関係者、一般市民 【参加人数】144人
講師	弘前大学大学院地域共創科学研究科 教授 小岩 直人 弘前大学大学院理工学研究科 教授 谷田貝 亜紀代 弘前大学農学生命科学部 講師 鄒 青穎 弘前大学 名誉教授 檜垣 大助 弘前大学大学院地域共創科学研究科 教授 片岡 俊一
内容	降雨の特徴や被害例を知り、どのようにすれば我々の生活を守ることができるのかを考える。

### 医工学技術者養成講座（履修証明プログラム）

開催回数	75回
主催・共催	【主催】弘前大学大学院理工学研究科
会場・対象 参加人数	【対象】地域の製造業及びその関連産業等に就いている者 【参加人数】4人
講師	弘前大学大学院医学研究科 教授 掛田 伸吾 弘前大学医学部附属病院 医員 山本 祐司 弘前大学大学院医学研究科 浅野 研一郎 弘前大学大学院医学研究科 教授 皆川 正仁 弘前大学大学院医学研究科 准教授 木村 正臣 弘前大学大学院医学研究科 教授 佐々木 賀広 弘前大学大学院医学研究科 教授 松原 篤 弘前大学大学院医学研究科 准教授 鈴木 幸彦 弘前大学大学院医学研究科 講師 諸橋 一 弘前大学医学部附属病院 講師 福原 理恵 弘前大学医学部附属病院 講師 対馬 史泰 弘前大学大学院医学研究科 教授 廣田 和美 弘前大学大学院医学研究科 教授 青木 昌彦 弘前大学医学部附属病院 講師 岡本 哲平 弘前大学大学院医学研究科 教授 小林 恒 弘前大学医学部附属病院 講師 工藤 正純 弘前大学医学部附属病院 臨床工学技士長 後藤 武 弘前大学大学院医学研究科 教授 萱場 広之 弘前大学医学部附属病院 臨床検査技師長 石山 雅大 弘前大学大学院医学研究科 教授 大山 力 弘前大学大学院保健学研究科 講師 野坂 大喜 弘前大学大学院保健学研究科 講師 藤岡 美幸 弘前大学大学院保健学研究科 非常勤講師 池田 浩司 弘前大学大学院保健学研究科 非常勤講師 間々田 圭祐 弘前大学大学院理工学研究科 准教授 星野 隆行 弘前大学大学院理工学研究科 教授 佐川 貢一

	弘前大学大学院理工学研究科 准教授 岡部 孝裕 弘前大学大学院理工学研究科 教授 城田 農 弘前大学大学院理工学研究科 准教授 矢野 哲也 弘前大学大学院理工学研究科 助教 宮川 泰明 弘前大学大学院理工学研究科 教授 中村 雅之 弘前大学大学院理工学研究科 准教授 齊藤 玄敏 弘前大学大学院理工学研究科 助教 竹園 年延 弘前大学大学院理工学研究科 准教授 藤崎 和弘 弘前大学大学院理工学研究科 准教授 森脇 健司 弘前大学大学院理工学研究科 教授 花田 修賢 弘前大学大学院理工学研究科 助教 陳 暁帥
内 容	本講座は、精密機器関連の新しい産業、特に医療に関連する様々な製造業のイノベーションを生み出せる民間人材の育成を目的としている。地域の製造業及びその関連産業に従事されている社会人を対象とし、医工学に関連する大学院レベルの教育を提供することによって青森県ないし北東北でイノベーションを起こせる民間人材の育成をサポートする。

弘前大学大学院地域社会研究科 令和4年度公開セミナー

開催日	①令和4年11月7日 ②令和4年11月14日 ③令和4年11月24日
主催・共催	【主催】弘前大学大学院地域社会研究科
会場・対象 参加人数	【会場】土手町コミュニティパーク（弘前市）（定員20名）とオンライン配信（アップルストリーム）のハイブリッド開催 【対象】興味のある方 【参加人数】 429人
講師	①弘前大学人文社会科学部 教授 関根 達人 弘前大学人文社会科学部 教授 山田 巖子 ②弘前大学教育学部 教授 高瀬 雅弘 弘前大学教育学部 教授 小瑠 史朗 ③弘前大学大学院地域社会研究科 教授 佐々木 純一郎 弘前大学大学院地域社会研究科 教授 内山 大史
内容	①文化資源は、地域にとって祖先から受け継いだかけがえのない財産である。本講座では2021年に世界文化遺産に登録された「北海道・北東北の縄文遺跡群」を取り上げ、その意義と今後の展望を述べるとともに、地域のあたりまえの文化であることの多い「文化遺産」を「資源化」することで生じる問題についても各地の例を挙げて論じる。 ②グローバル化、感染症のパンデミックなど、世界が大きく変動する中で、地域について学ぶことの意義を考える。私たちに今求められている、シビックプライドの醸成、地域課題解決に向けた人材の育成やアクションの創出など、地域についての学びがもたらす可能性を考え、今後の学びのあり方を展望する。 ③「生き残る」はすなわち、各地域の活性化を謳いつつもすでに国内外を問わない地域間競争の時代であることを示している。前半は「地域が外貨を稼ぐ」ことの重要性について、関連する施策・考え方を説明したうえで、内外研究動向・実践事例等についても概説し、後半は青森県内市町村の「地域商社」などの事例を紹介し、青森県外の事例と比較し、今後の方向性を問題提起する。

弘前大学大学院地域社会研究科 地域と地域企業の持続的発展のための公開セミナー  
「地域ブランドとアパレル企業の役割」

開催日	令和5年2月20日
主催・共催	【主催】弘前大学大学院地域社会研究科
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学人文社会科学部多目的ホール 【対象】興味のある方 【参加人数】 18人
講師	株式会社サンライン 代表取締役社長 佐藤 克豊 岩手モリヤ株式会社 代表取締役社長 森奥 信孝 佐藤繊維株式会社 代表取締役社長 佐藤 正樹 弘前大学大学院地域社会研究科 副研究科長 佐々木 純一郎
内容	青森県をはじめ東北地方には、アパレル関連の企業が多く立地している。今回、株式会社サンライン（青森県田舎館村）、岩手モリヤ株式会社（岩手県久慈市）、佐藤繊維株式会社（山形県寒河江市）の企業家を招き、地域ブランドとアパレル企業の役割を論じる。

弘前大学大学院地域共創科学研究科 令和4年度シンポジウム  
『いま、あらためて、ウェルビーイングとは？』

開催日	令和4年12月12日
主催・共催	【主催】弘前大学大学院地域共創科学研究科
会場・対象 参加人数	【会場】土手町コミュニティパーク（弘前市）（定員20名）とオンライン配信（アップルストリーム）のハイブリッド開催 【対象】興味のある方 【参加人数】159人
講師	弘前大学大学院地域社会研究科 教授 平井 太郎 弘前大学人文社会科学部 准教授 花田 真一 弘前大学人文社会科学部 准教授 古村 健太郎 弘前大学人文社会科学部 准教授 白石 壮一郎 日立製作所 福田 幸二
内容	多様な研究領域を抱える弘前大学の強みをいかし、これまでウェルビーイング論を牽引してきた経済学、心理学、そして（国際）開発学の分野のスタッフから、そこでの蓄積から今何を学ぶべきかを提示する。さらに大学と共同研究を開始した民間企業の研究者と知見を分かちあう場を設けるとともに、地域の望ましい姿の実現に、領域を超えた研究を進めることで大学がどう寄与しうるかを展望する。

**第10回自閉症啓発デー特別講演会 in 弘前**

開催日	令和4年4月2日
主催・共催	【主催】弘前大学大学院医学研究科神経精神医学講座 弘前大学大学院医学研究科附属子どものこころの発達研究センター 弘前大学大学院保健学研究科 弘前大学教育学部 弘前自閉症児者親の会
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学大学院医学研究科神経精神医学講座（Web開催） 【対象】弘前大学学生、弘前大学職員、教職員、教育関係者、療育関係者、一般市民 【参加人数】55人
講師	青森県発達障害者支援センター「ステップ」センター長 町田 徳子
内容	毎年4月2日は国連が定める「世界自閉症啓発デー」である。「自閉症」について広く理解をいただくよう、特別講演やシンポジウムを企画し、自閉症をはじめとする発達障害について、広く啓発する活動を行う。

**呼吸器ハンズオンセミナー2022**

開催日	令和4年8月28日
主催・共催	【主催】弘前大学大学院医学研究科呼吸器内科学講座
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学医学部附属病院多目的棟多目的室 【対象】院内外の初期研修医、医学部学生 【参加人数】25人
講師	弘前大学大学院医学研究科呼吸器内科学講座 教授 田坂 定智
内容	シミュレーターを使った気管支鏡体験、画像診断のツボなどを紹介する。

**緩和ケア研修会**

開催日	令和4年10月1日
主催・共催	【主催】弘前大学医学部附属病院
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学医学部附属病院外来診療棟5階大会議室 【対象】青森県内でがん等の診療に携わる医療従事者で規定のe-learning研修の受講を修了した者（定員30名） 【参加人数】18人
講師	弘前大学大学院医学研究科 腫瘍内科学講座 教授 佐藤 温 静岡県立静岡がんセンター 緩和医療科部長 佐藤 哲観 むつ総合病院 外科副部長 山田 恭吾 弘前大学 産業医 伊藤 磨矢 ときわ会病院 緩和ケア科 蛭名 正子 大館市立総合病院 神経精神科部長 佐藤 靖 弘前大学大学院医学研究科 神経精神医学講座 准教授 富田 哲 弘前大学医学部附属病院 腫瘍センター 社会福祉士 高谷 真吏絵
内容	がん等の診療に携わる全ての医療従事者が基本的な緩和ケアについて正しく理解し、緩和ケアに関する知識や技術、態度を修得する。

### 第24回家庭でできる看護ケア教室

開催日	令和4年11月4日
主催・共催	【主催】弘前大学医学部附属病院看護部
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学医学部コミュニケーションセンター 【対象】一般市民（定員20人） 【参加人数】15人
講師	弘前大学医学部附属病院 リハビリテーション科 看護師 岩崎 洋子 弘前大学医学部附属病院 医療技術部 主任理学療法士 前田 和志
内容	1. 一般市民の方々を対象とし、専門分野で働く看護師等が講師となり、家庭で実践できる看護ケア等について学ぶ機会を提供する。 2. 運動習慣によって健康寿命を伸ばすことをテーマとし、ロコモティブシンドロームの予防を中心に講義と演習を行う。

### 第15回 弘大病院がん診療市民公開講座

開催日	令和5年2月11日～2月26日
主催・共催	【主催】弘前大学医学部附属病院 【共催】未来がん医療プロフェッショナル養成プラン
会場・対象 参加人数	【会場】e-learning 【対象】一般市民（定員90人） 【参加人数】90人
講師	弘前大学医学部附属病院 産科婦人科 診療准教授 福原 理恵 弘前大学医学部附属病院 乳腺・甲状腺外科 診療講師 西村 顕正
内容	弘前大学医学部附属病院のがん診療を広く市民の皆様知って頂くことを目的に開催。がんについて専門家がそれぞれの立場からわかりやすく講演する。

### 第2回青森県感染対策協議会（AICON）市民公開講座

開催日	令和5年2月18日
主催・共催	【主催】青森県感染対策協議会（AICON） 【共催】弘前大学医学部附属病院
会場・対象 参加人数	【会場】ヒロロ4階 弘前市民文化交流館ホール（弘前市） 【対象】一般市民（定員20人） 【参加人数】6人
講師	弘前大学医学部附属病院 感染制御センター長 齋藤 紀先
内容	一般市民に対し、ウイルス感染症について正しい知識と対策を知ってもらうこと、また、吐物処理について、家庭内でも対策を行いながら処理できることを目的に開催し、講義と演習を行う。

### 訪問看護師対象学習会

開催日	令和5年2月18日
主催・共催	【主催】弘前大学医学部附属病院総合患者支援センター
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学医学部附属病院総合患者支援センター 【対象】地域の訪問看護ステーションに勤務する訪問看護師（定員50人） 【参加人数】14人



講 師	弘前大学医学部附属病院 慢性心不全看護認定看護師 佐藤 みな
内 容	地域の訪問看護師を対象に、訪問看護に、心不全ケアに関する基礎的な知識や最新の治療・管理について学ぶ機会を提供する。

### 緩和ケアWeb公開講座

開催日	令和5年3月1日～3月19日
主催・共催	【主催】弘前大学医学部附属病院腫瘍センター 【共催】未来がん医療プロフェッショナル養成プラン
会場・対象 参加人数	【会場】e-learning 【対象】院内教職員・医療従事者・福祉関係者 【参加人数】55人
講 師	弘前大学医学部附属病院 麻酔科 助手 紺野 真緒 日本調剤弘前薬局 緩和薬物療法認定薬剤師 岡野 聡
内 容	がん等の診療に携わる医療従事者が緩和ケアに関する知識や技術を習得する。

弘前大学被ばく医療フォーラム2022

開催日	令和4年12月20日
主催・共催	【主催】弘前大学被ばく医療連携推進機構災害・被ばく医療教育センター
会場・対象 参加人数	【会場】ウェディングプラザアラスカ（青森市） 【対象】弘前大学教職員、青森県内原子力関連施設、青森県自治体、青森県内医療機関 【参加人数】43人
講師	公益財団法人 環境科学技術研究所 日本原燃株式会社 東北電力株式会社 青森県健康福祉部医療薬務課 青森県危機管理局原子力安全対策課 青森県立中央病院 八戸市立市民病院 一部事務組合下北医療センターむつ総合病院 弘前大学医学部附属病院高度救命救急センター センター長 花田 裕之 弘前大学被ばく医療総合研究所 所長 床次 眞司 弘前大学被ばく医療連携推進機構災害・被ばく医療教育センター 助教 辻口 貴清
内容	今後複雑化する被ばく医療に対し、青森県内の原子力・放射線科学関連機関の担当者による情報共有・情報交換の場を設け、地域のステークホルダーから寄せられる様々な意見を踏まえ、青森県の被ばく医療に対応できる人材育成活動等の充実を図る。

弘大食料研サイエンスカフェ

開催日	①令和4年8月23日 ②令和5年3月28日
主催・共催	【主催】弘前大学地域戦略研究所
会場・対象 参加人数	【会場】オンライン 【対象】市民一般 【参加人数】39人
講師	①東洋大学食環境科学部 教授 西田 洋巳 ②弘前大学農学生命科学部 助教 管原 亮平
内容	弘前大学地域戦略研究所食料科学研究部門に所属する教員や関連の研究者が話題を提供しつつ、一般の方と食品研究など身近な科学について語り合う場。研究者と参加者が同じテーブルでコーヒーを片手に、気軽にトークを楽しみながら科学に親しむ。

外国人留学生から直接聞ける世界のおはなし

開催日	①前期 令和4年9月10日 ②後期 令和5年1月21日
主催・共催	【主催】弘前市教育委員会（弘前市立中央公民館） 【共催】弘前大学国際連携本部
会場・対象 参加人数	【会場】①弘前れんが倉庫美術館スタジオB（弘前市） ②弘前市総合学習センター大会議室（弘前市） 【対象】弘前市在住の方または市内に通勤、通学されている方 【参加人数】24人
講師	弘前大学で日本語を学ぶ外国人留学生
内容	弘前大学で日本語を学ぶ外国人留学生が、母国について日本語で紹介することで、学習成果を発表する場となると同時に、外国人留学生と市民との交流の場となり、市民が外国の文化を知る機会を創出。

弘大じょっぱり起業家塾2022

開催日	I. 基礎コース 令和4年6月23日、7月7日、7月21日、8月25日、9月1日 II. 実践コース 令和4年9月15日、10月6日、10月20日、11月10日、12月1日、12月22日
主催・共催	【主催】弘前大学地域創生本部
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学創立50周年記念会館 【対象】大学生、高校生、一般市民 【参加人数】122人
講師	I. 基礎コース ひろさき夢興社(株) 代表取締役 齋藤 ひとみ (株)日本政策金融公庫 弘前支店長 岩見 茂正 ハンサムリネンKOMO 代表 岡 詩子 わかる事務所 代表 玉樹 真一郎 (株)ノイエ 代表取締役 熊谷 淳一 II. 実践コース 弘前大学大学院地域共創科学研究科 教授 石塚 哉史 弘前大学大学院地域共創科学研究科 教授 森 樹男
内容	地域活性化に向けた人材育成の一環として、学生や一般市民等を対象に、起業家による講演や事業計画の策定・演習等を通して、柔軟な発想力や高い企画提案力を身につけることを狙いとした教育プログラム。

市民ボランティア講座

開催日	①令和4年9月11日 ②令和4年11月26日 ③令和5年2月18日
主催・共催	【共催】一般社団法人みらいねっと弘前 一般社団法人男女共同参画地域みらいねっと 弘前大学地域創生本部ボランティアセンター
会場・対象 参加人数	【会場】①③弘前大学人文社会科学部多目的ホール ②弘前大学学生会館3階大集会室 【対象】①子ども食堂関係者や関心のある方、行政職員、福祉関連団体職員、学校等職員、企業等 ②学生、一般市民 ③市民、学生、教職員 【参加人数】62人
講師	①認定NPO法人全国子ども食堂支援センターむすびえ 理事長 湯浅 誠 弘前大学地域創生本部ボランティアセンター長 李 永俊 ②一般社団法人男女共同参画地域みらいねっと 代表理事 小山内 世喜子 ③北里大学獣医学部 教授 宮崎 秀一 弘前大学大学院教育学研究科 教授 小林 央美 沼田法律事務所 弁護士 沼田 徹

内 容	<p>①こども食堂、学習支援、多世代交流活動などの実践的な内容を学び、地域の子どもの居場所づくりの定着に貢献する講座を実施。</p> <p>②様々な要配慮者を想定した避難所スペース設営やルールづくり等の訓練を行うことで、地域防災力の向上を促進する講座を実施。</p> <p>③市内の子ども支援に関わる方々から「子どもの権利条例」等について学ぶことで、子どもの権利や子どもとの接し方について考えを深められる講座を実施。</p>
-----	--

### 弘前大学地域創生本部ボランティアセンター活動報告会

開催日	令和5年3月10日
主催・共催	【主催】弘前大学地域創生本部ボランティアセンター
会場・対象 参加人数	<p>【会場】弘前市民文化交流館ホール</p> <p>【対象】市民、学生、行政関係者、教員</p> <p>【参加人数】24人</p>
講 師	<p>青森中央学院大学経営法学部 准教授 中村 智行</p> <p>弘前市農林部りんご課 課長 澁谷 明伸</p> <p>弘前大学柔道部 村上 昂藍</p> <p>弘前大学人文社会科学部研究科1年 塚本 晴智</p> <p>弘前大学医学部1年 米内山 渚花</p> <p>弘前大学人文社会科学部3年 三橋 城</p> <p>弘前大学教育学部1年 山田 航平</p> <p>弘前大学人文社会科学部2年 佐藤 伶奈</p>
内 容	弘前市と協力して行った令和4年8月大雨災害への支援活動を中心に、本学地域創生本部ボランティアセンターの活動を振り返ったうえで、今後の災害支援を含んだボランティアに関する課題や方策についての意見交換により次年度以降のセンター運営検討に役立つ、また弘前市民のボランティア活動への理解やボランティア活動参加の推進に貢献する報告会を実施。

### むつサテライトキャンパス公開講座「食育健康講座」

開催日	<p>①令和4年7月22日</p> <p>②令和4年8月24日</p> <p>③令和4年9月21日</p> <p>④令和4年10月19日</p>
主催・共催	【共催】むつサテライトキャンパス 弘前大学 むつ市
会場・対象 参加人数	<p>【会場】むつ来さまい館Bホール（むつ市）</p> <p>【対象】むつ市民及び周辺市町村民</p> <p>【参加人数】82人</p>
講 師	<p>①④弘前大学農学生命科学部 准教授 前多 隼人</p> <p>料理研究家 坂本 謙二</p> <p>②③弘前大学 名誉教授 加藤 陽治</p> <p>料理研究家 坂本 謙二</p>

内 容	<p>①お魚のタンパク質と油で身体も頭もしなやかに！          ②米の健康栄養機能を考える          ③トマトの健康栄養機能を考える          ④リンゴを食べると本当に健康になる</p> <p>下北地方における特産の農水産物を素材に、弘前大学等のシーズを活用し、その機能性や機能を活かした調理方法や加工技術を紹介する。また食育文化の向上により、生産者はもとより加工業者や販売にかかわる業者のモチベーションを高め、地域産業の活性化に大きな波及効果が期待される。</p>
-----	---

### むつサテライトキャンパス公開講座「ジオパーク講座」

開催日	<p>①令和4年8月21日          ②令和4年10月11日</p>
主催・共催	<p>【共催】むつサテライトキャンパス          弘前大学          むつ市</p>
会場・対象 参加人数	<p>【会場】むつ下北観光物産館 まさかりプラザ会議室（むつ市）          【対象】むつ市民及び周辺市町村民          【参加人数】36人</p>
講 師	<p>①弘前大学大学院理工学研究科 講師 根本 直樹          ②弘前大学農学生命科学部 教授 石田 清</p>
内 容	<p>①津軽海峡の成り立ち          ②温帯多雪域の樹木の季節対応</p>

### むつサテライトキャンパス公開講座『若者×若者』教養講座

開催日	令和5年3月18日
主催・共催	<p>【主催】むつサテライトキャンパス          弘前大学          むつ市</p>
会場・対象 参加人数	<p>【会場】下北文化会館 マルチルーム2・3（むつ市）          【対象】むつ市民及び周辺市町村民          【参加人数】13人</p>
講 師	弘前大学医学部附属病院総務課 北村 隆雄
内 容	大人を楽しむ生き方ー理学博士×ダンサー×事務職員の生き方ー

### むつサテライトキャンパス公開講座「観光講座」

開催日	令和5年3月19日
主催・共催	<p>【共催】むつサテライトキャンパス          弘前大学          むつ市</p>
会場・対象 参加人数	<p>【会場】むつ下北観光物産館 まさかりプラザ会議室（むつ市）          【対象】むつ市民及び周辺市町村民          【参加人数】16人</p>
講 師	弘前大学人文社会科学部 教授 森 樹男
内 容	地域の魅力創出と発信

### 縄文セミナー「縄文生活のリアルに迫る」

開催日	令和5年2月4日
主催・共催	【共催】公益財団法人シルバーリハビリテーション協会 弘前大学八戸サテライト
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学八戸サテライト（八戸市） 【対象】高校生、大学生、社会人など 【参加人数】42人
講師	弘前大学人文社会科学部 教授 上條 信彦
内容	「北海道・北東北の縄文遺跡群」は世界遺産登録1周年を迎えた。多様性がもたらす持続的な社会を目指す現在においてますます注目を浴びている縄文文化を学ぶ。

### エネルギー講座「脱炭素社会とリチウム回収」

開催日	令和5年2月10日
主催・共催	【共催】公益財団法人シルバーリハビリテーション協会 弘前大学八戸サテライト
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学八戸サテライト（八戸市） 【対象】エネルギー環境経済、貯蔵・輸送に関する技術を擁する一般企業等 【参加人数】27人
講師	弘前大学大学院理工学研究科 教授 佐々木 一哉
内容	現代の生活に欠かせないリチウム資源。今後の青森県の可能性と産業に関わる可能性を知る。

### 子どもの放課後・地域社会を考えるゼミナール

開催日	①令和4年7月13日 ②令和4年8月10日（中止） ③令和4年9月14日 ④令和4年10月12日 ⑤令和4年11月9日 ⑥令和4年12月14日
主催・共催	【主催】弘前大学地域創生本部地域創生人材育成部門
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学創立50周年記念会館会議室3・4 【対象】児童厚生員、放課後児童支援員、地域で子どもの放課後の活動に携わる実践者 【参加人数】25人
講師	弘前大学教育学部 講師 深作 拓郎
内容	国は子どもの放課後対策に力を入れている。2015年には社会保障審議会児童部会に「子どもの遊びのプログラム検討委員会」が設置され、2018年には「改正：児童館ガイドライン」が発出され、「新・放課後子ども総合プラン」も同年に策定されている。 このように、放課後や学校外における子どもの受け皿の整備や環境醸成を図ることが求められており、そのための質の確保・向上という観点から、関係者の継続的な学習も求められている。 そこで、ゼミナール形式の学習会を定例開催し、文献や事例を通じた検討・議論を重ねていくことで、専門家の育成と質の向上を図る。



### 「放課後の子どもの居場所づくりを考える研修会」

開催日	①令和4年6月10日 ②令和4年8月27日 ③令和4年9月10日 ④令和4年10月15日 ⑤令和5年2月23日
主催・共催	【共催】弘前大学地域創生本部地域創生人材育成部門 弘前市子ども家庭課
会場・対象 参加人数	【会場】①弘前市民文化交流館ホール ②三岳児童センター（弘前市） ③裾野なかよし会（弘前市立裾野小学校） ④船沢児童館（弘前市） ⑤弘前大学創立50周年記念会館岩木ホール 【対象】児童厚生員、放課後児童支援員など 【参加人数】184人
講師	①東京都世田谷区希望丘青少年交流センター「アップス」センター長 下村 一 弘前市致遠児童センター 福士 智絵 ②愛媛県えひめこどもの城 児童厚生員 上木 秀美 ③宮城県名取市下増田児童センター 館長 渡邊 由貴 ④愛知県東郷町立兵庫児童館 館長 高阪 麻子 ⑤東北大学加齢医学研究所 教授 瀧 靖之 宮城県名取市下増田児童センター 館長 渡邊 由貴 株式会社陸奥新報社営業企画室 次長 工藤 瑠美子
内容	利用児童が増加している学童保育に従事するスタッフや児童館に勤務する児童厚生員を主な対象として、子どもたちにとって居心地のよい居場所や環境について考え、学ぶための研修会。講義や実践研修に取り組むことで、子どもの発達課題や遊びの意義、適切な関わり方について考える機会とし、学童保育に従事するスタッフの資質向上を図り、子どもたちにとって居心地のよい居場所づくりを目指す。

### パパラボ遊び研究所 vol.6

開催日	令和4年11月23日
主催・共催	【共催】弘前大学地域創生本部地域創生人材育成部門 弘前市こども家庭課
会場・対象 参加人数	【会場】ヒロロ3階 駅前こどもの広場イベントスペース（弘前市） 【対象】育児中の父親、これから育児を行おうと思っている男性 【参加人数】32人
講師	仙台 運動遊び研究サークル「きんにく〜ず」代表 前田 高幸 仙台 運動遊び研究サークル「きんにく〜ず」 久松 史奈
内容	弘前市では子育てに参画している父親は少ないと思われるが、これまでのイベント等の振り返りによると、父親の子育てに対する意識は従属的で「子育てを手伝っている」という意識が強いものと考えられる。父親が得意な子どもとの関わり方を知り、父親・母親ともに承認欲求が満たされるような仕掛け作りを行うことで、父親が子育てを「楽しい」と感じ、自信を持って主体的に子育てに関わることができるような意識を啓発する。

### 弘前市公民館関係職員研修会

開催日	①令和4年5月19日 ②令和4年9月21日 ③令和5年1月25日
主催・共催	【共催】弘前大学地域創生本部地域創生人材育成部門 弘前市教育委員会
会場・対象 参加人数	【会場】①弘前市立観光館 多目的ホール ②③弘前市岩木文化センター「あそべる」ホール 【対象】弘前市立中央公民館職員、地区公民館職員 【参加人数】209人
講師	弘前大学教育学部 准教授 越村 康英 弘前大学教育学部 講師 深作 拓郎 弘前市公民館等活性化アドバイザー 野口 拓郎
内容	少子高齢化に伴い、社会保障や労働力不足などの様々な課題がある一方、地域活性化、住民の「絆づくり」など、身近な生活にも課題は生じており、地域の学びの拠点である公民館の役割も重要とされている。 この研修会では、公民館が抱える問題の把握に務め、その解決方法について、地域連携の実践例などから、ヒントを得るとともに、社会教育・生涯学習担当職員として必要な専門的知識技能の習得により職員の資質向上を目指す。

### 学区まなびい講座運営担当者研修会

開催日	令和5年2月27日
主催・共催	【共催】弘前大学地域創生本部地域創生人材育成部門 弘前市立中央公民館
会場・対象 参加人数	【会場】弘前市立中央公民館岩木館大ホール 【対象】学区まなびい講座関係者 【参加人数】48人
講師	千葉県君津市市民課清和地区拠点施設整備推進室 主査 中村 亮彦 弘前大学教育学部 准教授 越村 康英 弘前大学教育学部 講師 深作 拓郎 弘前市公民館等活性化アドバイザー 野口 拓郎
内容	学区まなびい講座は、市街地の公民館活動を活発にするための施策として取り組んできた弘前市特有の事業で、人々が自主的に『集い』、自ら進んで学習する『学び』を活かして、人と人が『結び合う』ことを大切に考え運営されている。 近年、運営担当者の高齢化が進むとともに後継者不足という課題があり、併せてコロナ禍により講座運営もままならないこともあって、学区によっては活動だけではなく組織そのものが衰退しつつある。 そこで、組織づくり等がうまくいっている地域等の実践事例等を参考に、講座運営担当者と社会教育関係職員が、これからの学区まなびい講座の運営に関してともに考えることをとおして、組織の見直しを進めたり、新たな事業展開の工夫を試みたりする等、学区まなびい講座のさらなる発展に寄与することを目指す。

### むつ市地域学校協働活動スキルアップ研修

開催日	①令和4年6月19日 ②令和4年11月13日
主催・共催	【共催】弘前大学地域創生本部地域創生人材育成部門 むつ市教育委員会

会場・対象 参加人数	<p>【会場】①むつ市中央公民館 ②北の防人大湊安渡館（むつ市）</p> <p>【対象】地域学校協働本部配置の指導員、支援員及びサポーター、放課後児童クラブ支援員、キッズパーク職員、学童保育支援員、むつ市教育委員会担当職員</p> <p>【参加人数】40人</p>
講師	<p>①弘前大学教育学部 講師 深作 拓郎</p> <p>②弘前大学教育学部 講師 深作 拓郎 宮城県名取市下増田児童センター 館長 渡邊 由貴</p>
内容	<p>子どもたちを取り巻く環境の変化に伴い、子どもたちを見守る立場である地域学校協働本部配置の指導員、支援員及びサポーター、放課後児童クラブ（なかよし会）支援員、キッズパーク職員、むつ市内学童保育支援員等（以下「指導員」という。）、その他関係職員を対象にしたスキルアップ研修を実施し、これまで培ってきた経験や能力の更なる向上と、変わりゆく時代や状況に即した対応力の取得を図る。</p>

### 鶴田町放課後児童支援員研修会

開催日	<p>①令和4年10月25日</p> <p>②令和4年12月27日</p>
主催・共催	<p>【共催】弘前大学地域創生本部地域創生人材育成部門 鶴田町教育委員会</p>
会場・対象 参加人数	<p>【会場】①鶴田町学童保育施設サンシャインスクール ②鶴田町立鶴田小学校体育館</p> <p>【対象】サンシャインスクールに登録する放課後児童支援員、放課後児童支援補助員、子ども教室指導員、地域学校協働活動推進員</p> <p>【参加人数】87人</p>
講師	<p>①弘前大学教育学部 講師 深作 拓郎 宮城県名取市下増田児童センター 館長 渡邊 由貴</p> <p>②弘前大学教育学部 講師 深作 拓郎</p>
内容	<p>学童保育（サンシャインスクール）の指導員（放課後児童支援員、子ども教育指導員）を対象に、子どもたちの心地よい放課後環境をどのように作り出すのかを学ぶことで、各指導員の資向上と意識改革を図る。</p>

**高大連携事業 イングリッシュ・ラウンジ オンラインセミナー オープニングイベント**

開催日	令和4年4月8日
主催・共催	【主催】弘前大学教育推進機構教養教育開発実践センター
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学イングリッシュ・ラウンジ、弘前大学附属図書館グローバル・スクエア及び各高等学校教室または生徒自宅（オンライン） 【対象】青森高等学校、青森南高等学校、八戸高等学校、弘前南高等学校の生徒 【参加人数】52人
講師	弘前大学教育推進機構教養教育開発実践センター 助教 ヤグノ・ライク
内容	令和3年度から引き続き、青森県内高等学校の協定校の一部に公開予定のイングリッシュ・ラウンジのセミナーを高校生に親しみやすく参加してもらうために開いたオープニングイベント。令和4年度前期のセミナーの一部、“Easy Conversation Practice/留学生と一緒に簡単な会話練習”の模擬授業をヤグノ・ライク助教が中心となり、留学生とともにZoomで配信を行う。

**令和4年度前期高大連携公開セミナー**

開催日	令和4年4月14日～8月5日 毎週木曜・金曜
主催・共催	【主催】弘前大学教育推進機構教養教育開発実践センター
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学イングリッシュ・ラウンジ及び各高等学校教室または生徒自宅（オンライン） 【対象】青森高等学校、青森南高等学校、八戸高等学校の生徒 【参加人数】103人
講師	弘前大学教育推進機構教養教育開発実践センター 講師 ソロモン・ジョシュア 弘前大学教育推進機構教養教育開発実践センター 助教 ヤグノ・ライク
内容	木曜“US History & Culture/アメリカ史と文化”、金曜“Easy Conversation Practice/留学生と一緒に簡単な会話練習”をZoomにより公開。

**高校生向けワークショップ『ポスターセッションを体験しよう!』**

開催日	令和4年5月7日
主催・共催	【主催】弘前大学教育推進機構教養教育開発実践センター
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学イングリッシュ・ラウンジ及び各高等学校教室または生徒自宅（オンライン） 【対象】青森高等学校、青森南高等学校、八戸高等学校の生徒 【参加人数】24人
講師	弘前大学教育推進機構教養教育開発実践センター 講師 ソロモン・ジョシュア 弘前大学教育推進機構教養教育開発実践センター 助教 ヤグノ・ライク 弘前大学教育推進機構教養教育開発実践センター 准教授 多田 恵実 弘前大学教育推進機構教養教育開発実践センター 助教 片桐 早苗 弘前大学農学生命科学部 非常勤講師 ヤグノ・オルショヤ

内 容	青森県内高等学校の協定校の高校生のための特別ワークショップ。参加者が弘前大学イングリッシュ・ラウンジの教員が行うポスターセッションを体験するワークショップの形で、これから大学に進学する高校生が、大学生として役立つポスターの作り方及び研究の報告方法、そして研究発表に対する質疑応答の有効な方法を学ぶ。コンパクトながらも学問的なレベルの内容で英語のリスニングに挑戦する。
-----	---

### 小・中学生向け夏休みオンライン英語セミナー

#### 『英語を使ってみよう、イングリッシュ・ラウンジで2』

開催日	令和4年8月20日
主催・共催	【主催】弘前大学教育推進機構教養教育開発実践センター
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学イングリッシュ・ラウンジ及び各小・中学生生徒自宅（オンライン） 【対象】英語が好きな全国の小・中学生、国際交流に関心がある小・中学生（青森県内在住者を優先的に15人程度の先着順） 【参加人数】10人
講 師	（小学生の部） 弘前大学教育推進機構教養教育開発実践センター 助教 ヤグノ・ライク 弘前大学教育推進機構教養教育開発実践センター 助教 片桐 早苗 弘前大学農学生命科学部 非常勤講師 ヤグノ・オルショヤ （中学生の部） 弘前大学教育推進機構教養教育開発実践センター 講師 ソロモン・ジョシュア 弘前大学教育推進機構教養教育開発実践センター 准教授 多田 恵実
内 容	弘前大学で実践しているアクティブ・ラーニングによる英語学習を体験できるオンライン講座。小・中学校の夏休み期間中、オンラインで、小学生の部においては、多国籍の教員の話の聞き、簡単な英語を用いて自己表現をし、中学生の部では、参加者のグループを作り、ドイツ出身・アメリカ出身の教員に対するインタビューを自分たちで計画、実施し、そこで得た情報をメインルームに戻り全員で互いに報告し合う。

### 高校生向けワークショップ 『英語で討論するためのノートテイキングを学ぼう』

開催日	令和4年9月3日
主催・共催	【主催】弘前大学教育推進機構教養教育開発実践センター
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学イングリッシュ・ラウンジ及び各高等学校教室または生徒自宅（オンライン） 【対象】青森高等学校、八戸高等学校、青森南高等学校、弘前南高等学校の生徒 【参加人数】44人
講 師	弘前大学教育推進機構教養教育開発実践センター 講師 ソロモン・ジョシュア 弘前大学教育推進機構教養教育開発実践センター 助教 ヤグノ・ライク 弘前大学教育推進機構教養教育開発実践センター 准教授 多田 恵実 弘前大学教育推進機構教養教育開発実践センター 助教 片桐 早苗 弘前大学農学生命科学部 非常勤講師 ヤグノ・オルショヤ
内 容	青森県内高等学校の協定校の高校生を対象に、オンラインワークショップの形で、大学入学後の学習にも役に立つ技能のひとつ、ノートテイキングを取り上げ、高校生が英語のリスニング能力を生かしながら、大学生として必要なノートテイキングの方法、さらには批判的思考法を演習形式で学ぶ。

**弘前市及び周辺地域一般市民向け**

**『Tsugaru Life ～マイ津軽を英語で紹介しよう～』**

開催日	令和4年9月16日
主催・共催	【主催】弘前大学教育推進機構教養教育開発実践センター
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学イングリッシュ・ラウンジ及び各市民の自宅（オンライン） 【対象】弘前市及び周辺地域の一般市民 【参加人数】3人
講師	弘前大学教育推進機構教養教育開発実践センター 講師 ソロモン・ジョシュア 弘前大学教育推進機構教養教育開発実践センター 助教 ヤグノ・ライク 弘前大学教育推進機構教養教育開発実践センター 准教授 多田 恵実
内容	新型コロナウイルス感染症対策以前は、直接来学いただく形で2年間行った一般市民のための英語講座。観光ガイドにあまり取り上げられていない地方文化を知る・話すことをテーマとし、イングリッシュ・ラウンジの教科書『Tsugaru Life』を使いながら基本の英語を練習し、場所の紹介パターンについて学び、各参加者が大切にしている「マイ津軽」について、写真を使いながら、教員と参加者を観光客と想定して模擬ツアーガイドを行う。

**令和4年度後期 高大連携公開セミナー**

開催日	令和4年10月11日から令和5年1月27日まで
主催・共催	【主催】弘前大学教育推進機構教養教育開発実践センター
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学イングリッシュ・ラウンジ及び各高等学校教室または生徒自宅（オンライン） 【対象】青森高等学校、青森南高等学校、八戸高等学校の生徒 【参加人数】160人
講師	弘前大学教育推進機構教養教育開発実践センター 准教授 バードセール・ブライアン 弘前大学教育推進機構教養教育開発実践センター 講師 ソロモン・ジョシュア 弘前大学教育推進機構教養教育開発実践センター 助教 ヤグノ・ライク
内容	弘前大学生向けに行っているイングリッシュ・ラウンジのセミナー、火曜日“Skills for University/大学で役立つスキル”、水曜日“Thinking about Film and Music in English/映画と音楽を英語で考察する”、木曜日“Art & the Imagination/アートとイマジネーション”、金曜日“Japan from Foreign Point of View/外国の視点から見た日本”をオンラインで青森県内高等学校の協定校に公開。

弘前大学知財塾

開催日	①令和5年3月2日 ②令和5年3月7日
主催・共催	【主催】弘前大学研究・イノベーション推進機構 【共催】弘前大学健康未来イノベーション研究機構 ひろさき産学官連携フォーラム 大学コンソーシアム学都ひろさき みちのくアカデミア発スタートアップ共創プラットフォーム
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学創立50周年記念会館岩木ホール 【対象】弘前大学教職員、学生、ひろさき産学官連携フォーラム会員、イノベーション・ネットワークあおもりメンバー、MASP参画大学の教職員・学生 【参加人数】83人
講師	①東北経済産業局地域経済部産業技術革新課 課長補佐 晴山 美保子 株式会社社会津コンピュータサイエンス研究所 代表取締役所長 久田 雅之 株式会社ミューラボ 代表取締役社長 伏見 雅英 ②弘前大学研究・イノベーション推進機構 副機構長 中井 雄治 弘前大学研究・イノベーション推進機構 URA 山科 則之 公益財団法人21あおもり産業総合支援センター 事務局次長 兼 総合支援課長 田澤 俊吾 青森市経済部新ビジネス支援課 主査 井上 春樹 デジタルイノベーションセンター弘前Kadaru@Cafe 運営責任者・情報システム部 石郷岡 一平
内容	知的財産に係る意識の醸成を目的として、教職員、学生等を対象とした啓発活動を実施（令和4年度は大学発スタートアップの内容で講演会等を実施）。 ①第1回目テーマ： 「大学発ベンチャー」～スタートアップ支援と起業事例～ ②第2回目テーマ： 「大学発ベンチャー」～MASP事業と青森県内のスタートアップ支援～

青い森の食材研究会

開催日	令和5年2月19日
主催・共催	【主催】ひろさき産学官連携フォーラム 青い森の食材研究会
会場・対象 参加人数	【会場】ダイワロイネットホテル青森（青森市） 【対象】研究会会員及び一般 【参加人数】49人
講師	宮城大学 教授 石川 伸一
内容	新しい食の技術はフードテックとよばれ、様々な先端テクノロジーが食の分野にイノベーションを引き起こしている。フードテックの勃興、フードテックの進化予測、未来の食を考える上でのフレームについて講演いただく。

**女子高生工学系キャリアサポート**

開催日	令和5年2月18日
主催・共催	【主催】弘前大学
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学理工学部1号館1番講義室 【対象】八戸地域の女子高校生 【参加人数】5人
講師	弘前大学大学院理工学研究科 教授 鳥飼 宏之 弘前大学農学生命科学部 教授 柏木 明子
内容	様々な企業から『工学を学んだ女性を採用したい』という声を数多く聞く一方、工学系の学部・学科へ進学する女性は非常に少ない現状がある。このアンバランスを解消するため、青森県的女子高校生に『研究体験』と『女性研究者との対話』の機会を提供し、工学や研究の面白さを知ってもらう。

**男女共同参画トップセミナー**

開催日	令和4年12月21日
主催・共催	【主催】弘前大学男女共同参画推進室
会場・対象 参加人数	【会場】オンライン 【対象】弘前大学、北東北ダイバーシティ研究環境推進コミッティ、あおもりダイバーシティ研究環境推進ネットワーク、秋田大学、秋田県女性研究者支援ネットの役職員ほか 【参加人数】30人
講師	Facilitator's LABO 〈えふらぼ〉 主宰 栗本 敦子
内容	テーマ：無意識の差別を考える～特権概念を手掛かりに～



講座担当：大学コンソーシアム学都ひろさき

大学コンソーシアム学都ひろさき5大学合同シンポジウム

開催日	令和4年7月9日
主催・共催	【主催】大学コンソーシアム学都ひろさき
会場・対象 参加人数	【会場】土手町コミュニティパーク（弘前市）、アップルストリーム配信 【対象】弘前市民及び青森県民 【参加人数】80人
講師	弘前学院大学 前学長 吉岡 利忠
内容	来場者が興味を持ちやすいテーマを設定し、市民向けの公開シンポジウムを開催することにより、コンソーシアム及び構成大学の取組をより多くの人に知っていただくようPR活動をする。 テーマ：宇宙でわたし達のからだはどうなるのでしょうか

大学コンソーシアム学都ひろさき学生団体シンポジウム

開催日	令和5年2月19日
主催・共催	【主催】大学コンソーシアム学都ひろさき
会場・対象 参加人数	【会場】土手町コミュニティパーク（弘前市）、アップルストリーム配信 【対象】制限なし 【参加人数】50人
講師	大学コンソーシアム学都ひろさき加盟大学の学生団体
内容	5大学と学生1万人が弘前をつくる 大学コンソーシアム学都ひろさきでは、大学が蓄積する高度な知、柔軟な発想やアイデアを有する学生力等の強みを活かし、地域振興に繋げていくことを目指して学生地域活動支援事業を実施しており、事業採択団体の成果発表会も同時に開催する。

## V. 各学部・研究科等の地域連携・地域貢献に関する取組事例

学部等	人文社会科学部
取組名	宮越家資料調査研究
内容等	若手を中心に地域の歴史や文化に対する関心の向上と、行政が行うべき適切な保管・公開・活用を図り、新たな観光資源の発掘及び地域の文化財を活かした魅力発信につなげるため、中泊町の旧家宮越家が所蔵する「宮越家文書」を総体的に把握する実態調査の実施及び整理・データベース化を中泊町と共同で実施した。令和4年度は中泊町博物館によって推進された文書整理の成果を共有し、資料群の全体像を把握した上で、書簡部門／漢詩部門／売立目録部門にわたる研究基盤体制を整え、部門ごとに調査研究に着手した。

学部等	人文社会科学部
取組名	堰神社関係資料解析研究
内容等	藤崎町からの依頼を受け、町に寄贈された堰八神社関係資料の解析研究・調査を行った。堰八神社関係資料は、草創を語る縁起や歴代系図をはじめとする貴重な資料群であり、神仏習合の時代から神仏分離を経て現代におよぶ各時代の歴史の変遷を解明することで、ひろく津軽地域における郷土神社史モデル像を構築することが期待される。令和4年度は基礎的な資料調査を実施し、受託資料の保存環境整備と併せて、データベース上での暫定版目録データを作成した。

学部等	教育学部
取組名	教員を目指す高校生のためのセミナー
内容等	教育学部では、教育・教職について理解を深めてもらうため、高校1、2年生を対象とした「教員を目指すためのセミナー」を弘前市・八戸市・青森市で開催した。 本学教育学部教員による講義・演習の他、現場教員による講話を通して、教員の魅力や生きがいなどの情報を提供している。また、生徒からの質問に対し、回答を本学教育学部ホームページでも公開している。アンケートの回答からは「県内高校生の教職への理解が深まった」、「進路形成にとって有意義な機会となった」等の感想があった。 [参考URL] <a href="https://www.edu.hirosaki-u.ac.jp/3786.html">https://www.edu.hirosaki-u.ac.jp/3786.html</a>

学部等	教育学部
取組名	弘前大学教育学部附属四校園 公開研究会
内容等	「自ら考え自律的に行動する子の育成」を研究テーマとした合同公開研究会を本学教育学部附属小学校・附属中学校で開催した。令和4年度は2回目の開催となり、国語、理科、音楽の小・中学校の3教科に絞って、各教科の授業を対面とライブ配信で行い、研究協議会をテレビ会議で行うハイブリッド型で実施した。参加者からは「附属学校の先生方には個々の力を存分に発揮していただきたいし、その成果を外部に披露する一つの場であってほしい、弘前大学附属学校だからこそできる教育の追究を期待しております」などの意見があり、有意義な公開研究会となった。 [参考URL] <a href="https://sites.google.com/fuchu.edu.hirosaki-u.ac.jp/public-research-conference">https://sites.google.com/fuchu.edu.hirosaki-u.ac.jp/public-research-conference</a>

学部等	教育学部
取組名	令和4年度文部科学省「多文化共生に向けた日本語指導の充実に関する調査研究」事業報告会
内容等	<p>日本語指導が必要な児童生徒は10年間で約1.5倍に増加している中、居住地域により、集住地域と散在地域に分かれ、教育支援に大きな格差が生じている。</p> <p>散在地域である青森県の状況に合った教育支援の仕組みを構築するための基礎的調査研究を3年間行い、本フォーラムにおいてその成果報告及び集大成として作成した「青森版外国につながる子どもの教育支援ガイドブック」の説明を行った。他の散在地域の参加者からは「散在地域の課題がよく整理されていた」、「散在地域における支援体制モデルとして参考になった」といった声が寄せられ、散在地域に合ったモデルとして高い評価を得た。</p> <p>[参考URL] <a href="https://home.hirosaki-u.ac.jp/tabunka/616/">https://home.hirosaki-u.ac.jp/tabunka/616/</a></p>

学部等	農学生命科学部
取組名	弘前大学農学生命科学部アグリ・カレッジ2022
内容等	<p>日本農業・地域農業と農村地域の将来が危ぶまれる今日、地域に開かれた大学が果たすべき役割として、高校生を対象に将来の地域農業・農村地域の担い手を育成することがある。具体的には、高校生がオンラインで（週1日×2回）講義を受講することによって、将来の地域農業・農村地域の担い手を目指す意識を育てようとするものである。青森県内の高校生を対象に広く広報し、県内12校から38人が参加し、31人が修了した。</p> <p>[参考URL] <a href="https://nature.hirosaki-u.ac.jp/tell/13782/">https://nature.hirosaki-u.ac.jp/tell/13782/</a></p>

学部等	農学生命科学部
取組名	農学生命科学部附属白神自然環境研究センター「ふるさとの植物 保全育成事業」
内容等	<p>2017年度に日本国内2か所目の分布地としてつがる市で発見された希少植物ガシヤモクの生育地外系統保存事業を主に木造高等学校と協働で行った。木造高等学校では、実際にガシヤモクを育成し、増殖に向けて活動を行っている。令和4年8月に現地観察会及び切れ藻の移植などを行った。また、飼育の規模をこれまでよりも拡大し、系統保存事業を前進させた。</p>

学部等	大学院医学研究科
取組名	岩木健康増進プロジェクト健診
内容等	<p>本健診は、弘前市・弘前大学・青森県総合健診センターが短命県返上を目的に平成17年度から行う「岩木健康増進プロジェクト」の一環で、弘前市岩木地区住民を対象に実施する大規模健診である。本健診で得られる多項目の健康情報を活用して、青森県の短命県返上と、世界の健康長寿をかなえるビジネスモデルの事業化を目指している。</p> <p>令和4年度はコロナ禍以前と同程度の規模で実施し、受診者に安心して受診いただけるよう万全の感染予防対策を施し、受付は完全予約制として10分ごとに6人ずつ行い、会場内の人数を制限して運営した。</p> <p>10日間で約800人もの受診者に来場いただき、早朝から会場内40箇所以上のブースを巡って健診を受けていただいた。</p> <p>[参考URL] <a href="https://coi.hirosaki-u.ac.jp/2022/06/post-12620/">https://coi.hirosaki-u.ac.jp/2022/06/post-12620/</a></p>

学部等	大学院医学研究科
取組名	いきいき健診
内容等	<p>本健診は、弘前市民の健康寿命延伸を目的に弘前市と弘前大学が共同し、「健康長寿社会の実現を目指す大規模認知症コホート研究（日本医療研究開発機構（AMED採択研究）」の一環として、平成28年から実施している。弘前大学では弘前市と連携して市民の皆様に協力いただき、全身の健康状態を10年間追跡調査している。平成28年、29年にベースライン調査を実施し、令和4年は平成28年に参加された方の第3回目の追跡調査として行った。</p> <p>本健診では、令和3年までと同様、嚴重な感染予防対策を施したうえで、受診者は完全予約制として10分ごとに6人ずつ受付を行い、会場内の人数を制限することで、安心して受診いただけるよう運営した。7日間で約800人の受診者に来場いただき、歩行調査や味覚検査、タブレットアプリを用いた認知機能調査等、20ブースを回りながら自身の健康状態について健診を受けていただいた。</p> <p>[参考URL] <a href="https://coi.hirosaki-u.ac.jp/2020/09/post-4935/">https://coi.hirosaki-u.ac.jp/2020/09/post-4935/</a></p>

学部等	大学院理工学研究科
取組名	地域と連携した環境・エネルギー教育の取組
内容等	<p>平成27年から青森中央学院大学の授業「自然とエネルギー」を継続して担当した。この授業では、人間と自然の共生に関する諸問題を、環境とエネルギー消費の視点から理解を深め、併せて自然と健康に益する安全・安心なエネルギー社会構築の重要性について学び、持続可能な循環型社会実現に向けて、地域がその特性を活かした強みを発揮し、地域ごとに資源が循環する自立・分散型の社会形成について理解を深める教育プログラムを実施。令和4年度まで合計844人の学生が受講した。</p>

学部等	大学院理工学研究科
取組名	八戸工業大学 マチナカ公開講座
内容等	<p>八戸工業大学が実施しているマチナカ公開講座を本学八戸サテライトが後援する形式で、以下のような内容の講演を行った。</p> <p>令和4年5月、青森県は太平洋側海溝型地震による被害想定を新たに発表した。本講演では、被害の想定方法を説明し、それをもとに八戸地域の揺れの強さと被害について説明する。さらに、八戸地域に影響を与える地震として、内陸で起きる地震の影響も考える。</p>

学部等	大学院理工学研究科
取組名	弘前市防災マイスター育成講座
内容等	<p>弘前市では、地域防災の推進者となる「防災リーダーの育成」を目的として、弘前市防災マイスター育成講座を平成24年度から実施している。理工学研究科はこの企画の発案時から援助を行っており、毎年複数人を講師として派遣している。</p> <p>講義は好評であり、本取り組みを通して、弘前大学に蓄積されている「知」が地域に還元されたものと考えている。</p> <p>令和4年度の講師のうち理工学研究科が派遣したのは、鳥飼宏之教授、石田祐宣准教授、佐々木実講師、片岡俊一教授の4人である。</p>

学部等	大学院地域社会研究科
取組名	あおもりツーリズム創発塾
内容等	<p>青森県の受託事業として実施している「あおもりツーリズム創発塾」において、「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界遺産登録をにらんだ人材育成プログラムの企画運営を依頼され、本事業の担当地域の市町村である弘前市及びつがる市と協力して、縄文の世界遺産登録をにらんだ新たなガイド養成プログラムの研究を行っている。</p> <p>令和4年度は、縄文の世界遺産登録をうけ、構成資産のある弘前市とつがる市におけるガイド養成プログラムの更新と定着を図るため、大森勝山遺跡（弘前市）及び亀ヶ岡石器時代遺跡・田小屋野貝塚（つがる市）のガイド養成プログラムの構築をメインテーマとして講義、グループワーク及びフィールドワークを4回開催した。本事業により、ガイド組織が日常活用しているガイド資料の英語化・中国語化を進めることができたほか、最新の考古学・歴史学の知見に基づいたレビューを踏まえガイド資料の具体的な改善を行うことができた。</p>

学部等	大学院地域共創科学研究科
取組名	地域共創科学研究科 令和4年度シンポジウム
内容等	<p>大学院地域共創科学研究科地域リノベーション専攻を中心に、複数の分野から「ウェルビーイング」について考えることをテーマとしたシンポジウム『いま、あらためて、ウェルビーイングとは？』を開催した。ウェルビーイング論を牽引してきた経営学、心理学、（国際）開発学を専門とする3人の教員と、大学と共同研究を行う民間企業研究者が、地域の望ましい姿の実現に領域を超えた研究を進めることで大学がどう寄与しうるのか、各分野のウェルビーイング論の展開と社会実装に向けての講演・議論を行い、公開視聴会場とインターネットライブ配信併用で実施した。</p> <p>[参考URL] <a href="https://scs.hirosaki-u.ac.jp/symposium/">https://scs.hirosaki-u.ac.jp/symposium/</a></p>

学部等	大学院地域共創科学研究科
取組名	十三湖しじみの地域ブランドを活性化させる商品デザイン開発
内容等	<p>地域共創科学研究科独自の研究助成制度である「共創研究助成制度」を利用し、十三湖しじみの地域ブランドを強化するためのデザインイメージを地域企業と大学院生が協同で研究開発した。また、十三湖の現地調査と特産品しじみの商品デザインの現状を整理分析し、十三湖しじみのマスコットキャラクター開発と商品のデザイン展開を試作した。開発したマスコットキャラクターは広域での活用も目指して五所川原市全域版のデザイン制作も実施した。</p> <p>[参考URL] <a href="https://scs.hirosaki-u.ac.jp/research/">https://scs.hirosaki-u.ac.jp/research/</a></p>

学部等	医学部附属病院
取組名	新型コロナウイルス感染症対応に係る職員派遣
内容等	<p>①青森県からの要請を受け、新型コロナウイルスのクラスター発生等への対応として、感染対策の指導・助言などを県内の医療機関や高齢者施設に対して行った。</p> <p>②青森県からの要請を受け、新型コロナウイルス感染者を対象とした無料宿泊療養施設へ医師を派遣し、施設内での緊急時対応（延べ178回）や健康観察の定期報告に対応した。宿泊療養施設は急速な感染拡大によってコロナ病床を有する医療機関の逼迫を防ぐために設置されており、域内の医療崩壊を未然に防ぐことに貢献した。</p> <p>③新型コロナウイルスワクチン接種の大規模接種会場へ問診医師を派遣し、地域のワクチン接種の促進に貢献した。</p>

学部等	医学部附属病院
取組名	弘前市二次救急輪番へ参画
内容等	弘前市からの要請を受け、内科系、外科系の二次救急輪番に参画し、令和4年度は1,867人の救急患者を受け入れた。弘前総合医療センターが開院直後により輪番から一時的に離脱したため、急遽輪番回数を増やして対応した。救急患者受入数は実人数・延べ人数ともに過去10年で最大となった。特定機能病院として本来担うべき第三次救急のみならず、二次救急輪番への参画により、地域医療の崩壊を防ぐ最後の砦としてその使命を果たしている。

学部等	医学部附属病院
取組名	新型コロナウイルス感染症に係るドライブスルー発熱外来
内容等	新型コロナウイルス第7波により診療業務が逼迫した地域医療機関の負担軽減を図り、地域医療機関の救急医療体制、通常診療を確保するため、弘前市から委託を受けて「ドライブスルー発熱外来」を期間限定で開設した。本外来は令和3年度に文部科学省の補助金により整備された「多目的棟」を活用し、運営は弘前市との協定の下、弘前消防本部及び本学保健学研究科の協力によって実施した。開設期間は令和4年9月1日から9月22日までの15日間で、期間中合計116人の患者が受診し、陽性率は50%であった。

学部等	被ばく医療総合研究所
取組名	トリチウムに関する勉強会
内容等	げんねんレディースモニターのOG会として設立された会げんねんスカーフクラブ「あおもりサロン」、六ヶ所エネルギーを考える未来塾会員、日本原燃社員を対象に「トリチウム環境動態と生態影響の基礎」に関する勉強会及び研究所5部門の施設・設備見学を開催した。勉強会では、活発な質疑応答や意見交換が行われ、本会を通して、エネルギーや原子力、放射線に対する理解を深め、正しい知識を得る一助となった。 [参考URL] <a href="https://irem.hirosaki-u.ac.jp/?p=2732">https://irem.hirosaki-u.ac.jp/?p=2732</a>

学部等	地域戦略研究所
取組名	青森県内で初栽培を目指している熱帯高原果樹（チェリモヤ）の持続的試験栽培
内容等	深浦町の閉館した温泉施設の温泉水を利用してビニルハウスを温め、熱帯高原果樹を栽培する試みを行った。令和4年度は、温泉熱を高効率に回収できるシステムを導入し、冬季の暖房効率が格段に向上した。また、夏場はチェリモヤが順調に発育するためには灌水システムの整備が重要であることが明らかになった。最終的には、チェリモヤは冬季や春の寒暖差を乗り越え、1年間生育させることに成功した。令和5年度は着花に向けて、剪定や接ぎ木について本学農学生命科学部 林田助教と共同で研究をしていく予定である。 青森県内で初栽培を目指している熱帯高原果樹（チェリモヤ）の持続的試験栽培に向けて、自動灌水装置及び現地簡易観測装置を導入した。これまで試験的に栽培していたが、令和4年度の途中で上述の温泉熱の項目にあるように自動灌水装置が必要であることが明らかになった。本プロジェクトで自動灌水装置を導入したため、チェリモヤを用いた試験栽培及び地域への貢献促進が期待できる。

学部等	地域戦略研究所
取組名	青森県産サーモンの大規模養殖技術：バージ船を活用した海面養殖生産システム
内容等	<p>地域戦略研究所地域食料研究室は、日本サーモンファーム株式会社（以下「JSF」）との共同研究において、漁船による近接飽食給餌を行う方法である従来の海面養殖生産体制（従来体制）の生産性と安全性の課題を解決し、市場において顧客ニーズの高い魚体重3.0kg以上/尾の大型トラウトサーモンを年間1,000トン以上生産可能な実証事業に取り組んでいる。理由として、JSFは2021年に1,000トン以上の養殖業生産量を達成したが、従来体制のまま生産規模を拡大しても、生産性に対する費用対効果や海面養殖生産コスト削減がほとんど見込めないほか、煩雑な海上作業と天候に左右される不安定な給餌操業を強いることになるため、従業員の安全確保（安全性担保）が極めて困難となることがわかってきたからである。そこで、地域食料研究室とJSFが蓄積してきた近接飽食給餌ノウハウと舢舨（バージ船）の特長を組合せ、国内初のバージ船を活用した海面養殖生産システム（遠隔生産管理システム）を構築することで、ボトルネックである従来体制の海面養殖生産コスト削減と安全性担保の課題解決に取り組んでおり、具体的には、操業管理費用の抑制、遠隔での安定的な飽食給餌、また煩雑な海上作業の解消を試みている。これに伴う発展的効果として、確実な生産規模拡大と従業員1人当たりの生産性向上等が見込まれる。このようにして、我が国の持続的なトラウトサーモンの養殖業の新しい基準が創出され、この基準は青森地域だけでなく、様々な地域における養殖業の発展に寄与するものと期待される。</p>

学部等	地域戦略研究所
取組名	県内海岸漂着プラスチックのリサイクルに関する研究と自治体・民間企業との連携
内容等	<p>昨今、プラスチックによる海洋汚染に対して世界的な関心が高まっている。青森県も長大で多様な海岸線を有することから、県内各地で海岸へのプラスチック廃棄物の漂着が見られる。そこで、衛星画像を活用して県内海岸へのプラスチックの漂着状況を調査した上で、特定の地点については実際の漂着物を試験的に収集し、構成するプラスチック種や塩分付着量を調査した。さらに、県内企業と共同で海岸に漂着したプラスチックの有効利用法を模索し、県内企業の技術や設備を活かしたマテリアルリサイクルやケミカルリサイクルの実施体制を構築した。さらに、弘前大学基金事業を通じた活動により、令和5年度の大規模収集—リサイクルの実現に向けた行政からの支援体制も構築した。</p>

学部等	地域戦略研究所
取組名	青森県内市町村における脱炭素のための再エネ活用計画
内容等	<p>国として脱炭素への取り組みを加速しているが、環境省の再生可能エネルギー情報提供システムを用いて、青森県内市町村の再生可能エネルギーポテンシャルを分析し、特徴のある以下2か所にて現地観測のための機材を設置し、一部では観測を開始した。</p> <p>（今別町）県内沿岸部での洋上風力の計画がされる中で、ゾーニング対象にはなっていない津軽海峡沿いの実証フィールドの候補地になりえる地域で、ドップラーライダーを用いた風況観測を短期間（2022年12月21日～2023年4月18日）実施した。その結果、冬季の現地における風特性が判明し、現在、通年の特性を推定するための解析を実施中である。</p> <p>（七戸町）町内の園芸施設「ローズガーデン」のハウスを借用して、太陽光、風力、地中熱、バイオマスの再生可能エネルギーの観測を実施するための機材を設置した。またローズガーデンでの作物に関しては本学農学生命科学部と連携して、七戸町の意向を確認しながら選定する予定である。また、ローズガーデンは窪地に設置されているために風力は弱いことが想定されるため、近隣の町営スキー場に別途風向・風速計を設置して観測を開始した。</p> <p>これらの取り組みの成果は令和4年度から本格的に明らかとなるが、近隣の中泊町や新郷村などからの要望もあり、横展開していく予定としている。</p>

学部等	教育推進機構
取組名	高大連携事業 イングリッシュ・ラウンジ オンラインセミナー オープニングイベント
内容等	令和3年度から引き続き、青森県内高等学校の協定校の一部に公開予定のイングリッシュ・ラウンジのセミナーを高校生に親しみやすく参加してもらうために開いたオープニングイベント。令和4年度前期のセミナーの一部、“Easy Conversation Practice/留学生と一緒に簡単な会話練習”の模擬授業をライク・ヤグノ助教が中心となり、留学生とともにZoomで配信を行った。

学部等	教育推進機構
取組名	令和4年度前期高大連携公開セミナー
内容等	木曜“US History & Culture/アメリカ史と文化、”金曜日“Easy Conversation Practice/留学生と一緒に簡単な会話練習”を高校生にZoomにより公開した。

学部等	教育推進機構
取組名	高校生向けワークショップ『ポスターセッションを体験しよう!』
内容等	青森県内高等学校の協定校高校生のための特別ワークショップ。参加者がイングリッシュ・ラウンジの教員が行うポスターセッションを体験するワークショップの形で、これから大学に進学する高校生が、大学生として役立つポスターの作り方及び研究の報告方法、そして研究発表に対する質疑応答の有効な方法を学んだ。コンパクトながらも学問的なレベルの内容で、英語のリスニングに挑戦してもらった。

学部等	教育推進機構
取組名	弘前市及び周辺地域一般市民向け『Tsugaru Life ～マイ津軽を英語で紹介しましょう～』
内容等	弘前大学で実践しているアクティブ・ラーニングによる英語学習を体験できるオンライン講座。小・中学校の夏休み期間中、オンラインで、小学生の部においては、多国籍の教員の話聞き、簡単な英語を用いて自己表現をし、中学生の部では、参加者のグループを作り、ドイツ出身、アメリカ出身の教員に対するインタビューを自分たちで計画、実施して、そこで得た情報をメインルームに戻り全員で互いに報告し合った。

学部等	教育推進機構
取組名	令和4年度後期 高大連携公開セミナー
内容等	協定校の高校生を対象に、オンラインワークショップの形で、大学入学後の学習にも役に立つ技能のひとつ、ノートテイキングを取り上げ、高校生が英語のリスニング能力を生かしながら、大学生として必要なノートテイキングの方法を、さらには批判的思考法を演習形式で学んだ。



学部等	教育推進機構
取組名	弘前市及び周辺地域一般市民向け『Tsugaru Life ～マイ津軽を英語で紹介しましょう～』
内容等	新型コロナウイルス感染症対策以前には、直接来学いただく形で2年間行った一般市民のための英語講座。観光ガイドにあまり取り上げられていない地方文化を知る・話すことをテーマとし、イングリッシュ・ラウンジの教科書『Tsugaru Life』を使いながら基本の英語を練習し、場所の紹介パターンについて学び、各参加者が大切にしている「マイ津軽」について、写真を使いながら、教員と参加者を観光客と想定して模擬ツアーガイドを行った。

学部等	教育推進機構
取組名	令和4年度後期 高大連携公開セミナー
内容等	弘前大学生向けに行っている弘前大学イングリッシュ・ラウンジのセミナー、火曜日“Skills for University/大学で役立つスキル”、水曜日“Thinking about Film and Music in English/映画と音楽を英語で考察する”、木曜日“Art & the Imagination/アートとイマジネーション”、金曜日“Japan from Foreign Point of View/外国の視点から見た日本”をオンラインで青森県内高等学校の協定校に公開。

学部等	総務部
取組名	令和4年度新入生等への新型コロナウイルスワクチン3回目一括接種
内容等	弘前大学の新生、新採用教職員、本学で新型コロナウイルスワクチン3回目接種をしていない者等に対して幅広くアンケート調査を実施し、本学での3回目接種希望の有無と2回目接種の実施時期を調査し、2回目接種から6か月経過する者を対象として、令和4年5月に当該ワクチンの3回目接種を実施した。また、令和3年度の当該ワクチン一括接種と同様に、「大学コンソーシアム学都ひろさき」構成大学の学生及び教職員、弘前大学生協職員、放送大学職員の希望者への接種も行った。

学部等	総務部
取組名	オミクロン株対応ワクチンの接種についてかかる青森県への協力
内容等	政府において令和4年9月20日から開始されたオミクロン株対応ワクチンの接種について、本学は、従前の本学を会場とした職域接種は行わず、青森県と連携し、広域接種会場【弘前会場（柴田学園大学体育館）】に一般枠とは別に、弘前大学を含む「大学コンソーシアム学都ひろさき」の枠を用意し共同運営することで、本学構成員等の当該ワクチンの接種機会の確保に貢献した。 ○青森県との主な協力内容 ・本学構成員（学生・教職員等）への周知 ・「大学コンソーシアム学都ひろさき」構成大学と連携の上、各大学での周知 ・広域接種会場【弘前会場】への本学医学部附属病院医師の派遣

学部等	総務部
取組名	弘前大学キャンパスツアー
内容等	弘前大学をより深く理解していただくことを目的として、希望者の皆様に「キャンパスツアー」を実施している。参加者は本学を志望する学生をはじめ、受験生の保護者や未来の受験生となる中学生などと幅広い。キャンパスツアーは、約1時間30分～2時間で本学学生スタッフが文京町キャンパスの施設を案内するもので、少人数グループでの見学、在学生によるリアルな弘大情報は参加者から好評いただいている。

## VI. 地域創生本部地域創生推進室 部門長・センター長からひとこと

令和4年度もコロナ禍のなかでの活動となりましたが、できることをできる形で取り組み、多くの成果を出せたのではないかと思います。とくに地方創生ネットワーク会議では、「2050年の青森県をデザインする」というメインテーマのもと、未来視点から今を考えるという、新しい目線での議論ができたのは有意義な取り組みだったと思われます。

また、県内自治体との包括連携協定は目標を上回る4件の協定の締結がなされました。このことは大学の役割を期待する地域の思いの表れだと思われませんが、大学の地域に対する責任がますます重くなってきているともいえるでしょう。地域に対する責任を果たすべく、今後も活動を推進していきたいと思いをします。



地域創生推進室副室長  
地域連携推進部門長  
森 樹 男

地域創生人材育成部門の主な活動は、年報p.29からにあるように、「連携推進員」に関すること、「弘大じょっぱり起業家塾」に関すること、「生涯学習」に関連する事業を自治体と連携して行うことです。最初の2つの事業については、様々な方からの協力を受けて実施しています。特に、連携推進員の事業に関しては三上盛一副理事、佐々木あつ子准教授、辻本侑生助教に大変お世話になりました。記して謝意を示したいと思いをします。なお、自治体との連携は各学部、研究科、研究所でも行っていることから、重複を防ぐ意味で、地域創生本部では生涯学習に関連することを行っています。年報の補遺として記しておきます。



地域創生人材育成部門長  
片岡 俊 一

近年、気候変動による異常気象で、毎年のように豪雨や台風などにより、各地で被害が発生しています。令和5年7月にも昨年に引き続き青森県、秋田県など記録的な大雨が降り、秋田市内では住宅地が浸水するなど甚大な被害に見舞われました。当センターでは、秋田県五城目町の災害ボランティアセンターと連携し、微力ながら災害復興をお手伝いさせていただきました。詳細は当センターホームページなどをご覧ください幸いです。

また、除雪や子どもの貧困問題など、地域には様々な課題が山積しています。行政や民間の力を補う第3の担い手として、しっかりと地域を支えていきたいと考えています。引き続き、ご指導・ご協力のほど、よろしくお願いいたします。



ボランティアセンター長  
李 永 俊

総合窓口

地域活性化や地域課題に関する相談窓口

地域創生推進室

弘前大学 地域創生本部 地域創生推進室

TEL 0172-39-3736 / 3918

※地域連携推進部門、地域創生人材育成部門も同じ連絡先です。

〒036-8560 青森県弘前市文京町1番地 総合教育棟1階

✉ [chiiki\\_honbu@hirosaki-u.ac.jp](mailto:chiiki_honbu@hirosaki-u.ac.jp)



国立大学法人 弘前大学

〒036-8560 青森県弘前市文京町1番地

TEL 0172-36-2111 (代表) 弘前大学ホームページ <https://www.hirosaki-u.ac.jp>

